

日本地質学会 *News*

Vol.26 No.8 August 2023



第130 年学術大会（2023 京都）
プログラム

会期：2023年9月17日（日）～19日（火）
会場：京都大学吉田南構内

地質を知って まもる 古都の未来

地質情報展
2023きょうと

2023

9/16_土~18_祝

時間

16日 13:00~17:00

17日 9:30~17:00

18日 9:30~16:00

※最終入場は終了時刻の30分前

会場

京都大学

吉田キャンパス 吉田南1号館地階

展示

京都周辺の地震災害と
地質情報

地盤の揺れ実験、液状化実験など
体験学習コーナーもあります

入場無料

※入場制限が付くことがあります
※展示内容が予告なく変更される場合があります



講演

事前申込不要

14:00~15:00

定員:100名程度

9/16_土

18_祝



「遺跡は語る 京都を襲った大地震」

講師:寒川 旭(産総研名誉リサーチャー)

「京都の土地のなりたち・京都府の岩石」

講師:小松原琢・武藤 俊(株)

国立研究開発法人産業技術総合研究所

一般社団法人

主催:地質調査総合センター・関西センター、日本地質学会

共催:山陰海岸ジオパーク推進協議会

後援:京都市、京都市教育委員会、日本ジオパークネットワーク、

一般社団法人

株式会社

関西地質調査業協会、京都新聞、NHK京都放送局

お問い合わせ:事務局

TEL : 029-861-3540

Email : M-johoten2023k-ml@aist.go.jp

URL : <https://www.gsj.jp/event/johoten/>



日本地質学会第 130 年学術大会 (2023 京都) プログラム

会期：2023 年 9 月 17 日 (日) ～ 19 日 (火)

メイン会場：京都大学吉田南構内 吉田南総合館北棟・吉田南 4 号館
(京都市左京区吉田本町)

表彰式・記念講演会・市民講演会：京都大学本部構内 百周年時計台記念館 大ホール
(百周年記念ホール)

地質情報展：吉田南構内 吉田南 1 号館

(会場周辺図)

①百周年時計台記念館
市民講演会・表彰式
懇親会
百周年記念ホール
国際交流ホール

②吉田南1号館
地質情報展
地質情報展講演会
地階
地階

③吉田南総合館 (北棟)
受付
業界説明会
第4会場
第5会場
書籍展示・企業展示
第6会場
第7会場
ポスター会場
学会本部
LOC本部
休憩室
1F Bell Lounge
共北11・12
共東12 (東棟)
共北25
共北27
共北3A～3D
共北37
共北38
1F Bell Lounge
2F リフレッシュコーナー
共北33
共北34
共北31

④吉田南4号館
第1会場
第2会場
第3会場
休憩室
4共11
4共21
4共30
4共10

★ 食堂もしくは売店
🅞 バス停

キャンパス
マップ



プログラムもくじ

キャンパスマップ	(1)
会場へのアクセス	(2)
当日の受付について	(2)
会員顕彰式・各賞表彰式・受賞記念講演	(3)
懇親会	(3)
巡検	(3)
学術大会に関連したプレス発表	(3)
企業等団体展示／書籍販売	(3)
その他のお知らせ（手荷物について／Wi-Fi接続について／大会期間中のお食事について）	(3)
CPD単位取得	(4)
ダイバーシティ認定ロゴ「ECS・EDI」導入の取り組み	(4)
お子様をお連れになる方へ	(4)

会場での注意点	(5)
問い合わせ先	(5)
全体日程表	(6)
講演会場フロアマップ	(7)
発表者へ（口頭発表／ポスターセッション／学生優秀発表賞について）	(8)
ランチョン・夜間小集会の予定	(9)
関連行事（地質情報展 2023きょうと 地質を知って まもる古都の未来／市民講演会「京都とその周辺の地震」／ジュニアセッション／学生のための地質系業界説明会）	(11)
シンポジウム・セッションハイライト	(13)
講演プログラム（口頭）	(18)
講演プログラム（ポスター）	(31)

会場へのアクセス

<https://confit.atlas.jp/guide/event/geosocjpl30/static/acess>



JR 京都駅から

- (1) 京都駅烏丸口から京都市バス 206 系統（約 30 分）「京大正門前」下車、徒歩 3 分
- (2) 京都駅八条口から京都大学病院循環路線バス hoop（約

30 分）「京都大学前」下車、徒歩 3 分

- (3) 市営地下鉄（約 10 分）「今出川駅」下車、「烏丸今出川」から京都市バス 201 系統（約 10 分）「京大正門前」下車、徒歩 3 分

- (4) JR 奈良線（約 3 分）「東福寺駅」下車、京阪線（約 12 分）「出町柳駅」下車、徒歩 15 分

※バスの所要時間は渋滞等のため大きく延びることがあります。

当日の受付について

大会の受付時間

17 日（日）8：00～16：30
18 日（月・祝）8：00～16：30
19 日（火）8：00～15：00

■ 事前参加登録者

- ・「**会員カード**」を持参して下さい。会員カードでの受付は、裏面バーコードを読み込むだけで簡単スピーディです。お持ちの方は、忘れずに「会員カード」を持参してください。確認がスムーズに行えますよう、ご協力をお願い致します。当日「会員カード」をお持ちでない方（新入会の方、非会員の方、忘れた方等）は、お名前でご確認いたします。
- ・**会場受付にてネームカードホルダーをお渡しします。**「会員カード」を入れ、名札として会場内で身に付けてください。カードをお持ちでない場合は、無記名の名札をお渡しします。ご自身で名前を記入して身につけて下さい。



会員カードを忘れずに！

【入金済みの場合】領収書のダウンロード URL とオンラインプログラム（要旨閲覧）へアクセスするためのログイン情報（ID/PW）を事前にメールでお知らせします。

【期日までに入金確認が取れていない場合】会場受付で代金の清算をして下さい。請求金額は「当日参加登録費」の金額となります。期日を過ぎて入金された場合でも、差額分のご精算をお願いします。その際は、入金時の控え等を会場にお持ちください。入金完了するまで、オンラインプログラム（要旨閲覧）のログイン情報を発行できません。ご注意ください。
巡検参加者の受付：巡検当日に集合場所にて名簿で確認します。巡検参加の CPD 単位のための参加証明書や領収証は巡検当日に各コースの案内者からお渡しします。

領収書について：入金済みの方に対して、領収書のダウンロード URL をメールでお知らせします。各自 PDF ファイルをダウンロードしてください。また別途領収書が必要な方は、会場受付もしくは学会事務局までお申し出ください。

■ 事前登録をしていない方

会場にて当日受付を行います。参加登録費の有料・無料に関わらず備え付けの『参加登録票』に必要事項を記入し当日受付で、手続きしてください。その際オンラインプログラム（要旨閲覧）へアクセスするためのログイン情報（ID/PW）も発行します。

当日参加登録費

正会員（一般会員）：8,000 円

正会員（シニア会員）※ 2023 年 4 月 1 日時点で 65 歳以上の
正会員：5,000 円

正会員（学生会員の院生）：3,500 円

名誉会員／非会員招待者／学部生：無料

非会員（一般）：15,000 円

非会員（院生）：9,500 円

その他

発表料金 /1 題（講演する方）：1,500 円

（注）当日のお支払いは、現金のみの取扱いとなります。クレジットカードはご利用いただけません。

会員顕彰式・各賞表彰式・受賞記念講演**日程：9 月 17 日（日）15:30 ～ 17:45****会場：京都大学 百周年時計台記念館 大ホール（百周年記念ホール）**

1. 会長挨拶、来賓挨拶（平島崇男 京都大学大学院教育支援機構長）
2. 新名誉会員授与
3. 50 年会員顕彰式
4. 各賞授与式
5. 受賞記念講演

16:15～16:45 功績賞受賞記念講演：小山内康人会員「高度
変成岩類の解析による大陸成長・進化プロセス」16:45～17:15 功績賞受賞記念講演：佐藤比呂志会員「日本
列島の活断層・震源断層システムを探る」17:15～17:45 学会賞受賞記念講演：道林克禎会員「マント
ル地質学～惑星探索みたいなフィールドサイエンス～」※下記の受賞記念スピーチ（各15分程度）は9/19に開催しま
す。

日時：9月19日（火）12:45-13:30

会場：口頭第3会場（4共30・吉田南4号館3階）

- ・小澤儀明賞受賞記念スピーチ：沢田 輝会員「大陸地殻成
長研究と地質学の成長」
- ・柵山雅則賞受賞スピーチ：大柳良介会員「地球内部でおこ
る反応輸送現象の理解に向けて」

懇 親 会**日時：9 月 17 日（日）18:00 ～ 2 時間程度****会場：京都大学 百周年時計台記念館 国際交流ホール**
予約制です（予約は8月18日締切）。当日参加の受付はあ
りません。**巡 検**巡検参加事前申込みは8月8日に締め切りました。参加者へ
の連絡などは大会ホームページもしくは、案内者よりご連絡
いたします。巡検案内書は、個別の冊子体は作成せず、地質学雑誌129
巻（J-STAGE掲載）に掲載いたします。J-STAGE<<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>>なお、予告記事でもお知らせの通り、巡検参加者には各参
加コース箇所の巡検案内書を巡検当日に配布します。**学術大会に関連したプレス発表**学術大会での注目すべき学術発表や行事について、9月上旬
にプレス発表を行う予定です。例年多数のメディアに取り上
げられ、会員の研究成果が大いに注目されています。プレス
内容は、プレス発表後学会ホームページに掲載いたします。**企業等団体展示 / 書籍販売**企業・団体・研究機関などによる展示を行います。会場
は、吉田南総合館（北棟）3F を予定しております。8月10
日現在、以下の各社よりお申込がありました。

- ・メイジテクノ株式会社
- ・株式会社建設技術研究所
- ・マイクロトラック・ベル株式会社
- ・東北大学変動地球共生学卓越大学院プログラム
- ・株式会社蒜山地質年代学研究所
- ・安井器械株式会社
- ・JAMSTEC/J-DESC（地球掘削科学）
- ・株式会社パレオ・ラボ
- ・日本海洋事業株式会社
- ・有限会社エヌエスデザイン
- ・特定非営利活動法人ジオプロジェクト新潟
- ・ライカマイクロシステムズ株式会社

また、書籍・物品の展示販売コーナーも設けます。7月31
日現在、以下の各社よりお申込がありました。

- ・株式会社ニチカ
- ・株式会社ニュートリノ東京
- ・Springer
- ・株式会社古今書院

※変更がある場合もあります。随時大会ホームページをご覧
ください。**その他のお知らせ**

- ・手荷物について：会場内での手荷物の預かりは致しませ
ん。参加者各自での管理をお願い致します。
- ・会場内でのWiFi接続について：大会会場には、地質学会
専用のWi-Fiサービスは用意されませんが、eduroamを利用
可能です。

なお、eduroam加盟機関に所属する高等教育機関や研究機
関からの参加者は、事前に所属機関でアカウントを取得し
ておくことで、会場内の無線アクセスポイント設置箇所か
らWi-Fi接続が可能です。必ず事前に所属機関で接続テス

トを行い、正しく接続できることを確認してください。大会会場では不具合等に対応しません。

※eduroamは、国内外の大学等教育研究機関の間でキャンパス無線LANの相互利用を実現するサービスです。アカウント取得は、所属機関の担当者にお問い合わせください。なお、eduroamのアカウントが無い方（大学等所属でない方）には、ゲストアカウントを発行します。大会受付の窓口にてお申し出ください。（数に限りがあり、先着順となります）

・大会期間中のお食事について：

- 学内の各生協飲食店は原則、日・祝は営業いたしません。
19日（火）のみご利用可能です。
- 生協飲食店の情報は
https://www.s-coop.net/shop_guide/yoshida_shop/よりご確認ください。
- 大学のまわりは古くからの市街地で、百万遍バス停付近や京大正 門前バス停付近など、周辺には食堂が多数あります。
- お弁当予約販売は行いません
- 講演会場内は飲食可能です。

CPD 単位取得

学術大会でCPD単位が取得出来ます

日本地質学会は、地質技術者への継続教育の一環として、大会参加者・発表者へCPD単位を発行します。希望者は、専用申し込みフォームからお申し込みください。会期後PDFメール添付にて参加証明書をお送りいたします。

【CPD単位】

（注）昨年8月よりCPDの登録区分の一部見直しが行われました。取得単位は下記を参照して下さい。

- ・学術大会参加：時間に応じて 例）7時間聴講 = 7単位
（注）休憩時間等は除きます。オンラインの場合は、ログイン履歴を確認の上、証明書を発行します。
- ・口頭発表：5×発表時間（h） 例）口頭発表15分の場合：
 $5 \times 1/4h = 1.25$ 単位
- ・ポスター発表：5×コアタイム時間（h） 例）コアタイム90分の場合： $5 \times 1.5h = 7.5$ 単位（注）CPDの登録区分（教育分野・教育形態）、CPD単位数（重み）の考え方が2023年4月から変更されました。
- ・巡検参加：1×受講時間（h）例）日帰り8時間程度=8単位

日本地質学会は、土質・地質技術者生涯学習協議会ジオ・スクーリングネット（GEO・Net：<https://www.geoschooling.jp/>）に加入し、地質技術者の継続教育（CPD）に携わっています。大会への参加だけでなく、講演や巡検の参加についてもそれぞれ単位が取得出来ます。またGEO・Netに掲載されている協議会加盟団体（支部主催行事も含む）のイベント情報についても同様に検索・参加申込などができ、参加した場合はCPD単位が取得できます。積極的にGEO・Netをご活

用下さい。技術者継続教育、CPD単位については、下記をご参照ください。

<http://www.geosociety.jp/engineer/content0003.html>

ダイバーシティ認定ロゴ「ECS・EDI」導入の取り組み

日本地質学会は、「ダイバーシティ認定ロゴ」を129年学術大会から導入しています。



Equity, Diversity & Inclusion

EDI : Equity, Diversity & Inclusion

セッションへのダイバーシティ認定ロゴです。開催セッションが、多様な背景を持つ会員を包摂し、Early Career Scientistsを応援するものであることを示すものです。

＜EDIロゴ対象項目＞

- ・世話人が複数の性別で構成されている。
- ・世話人にECS（Early Career Scientist）が含まれる。
- ・多様な国籍（2国籍以上）の世話人構成または発表者。



Early Career Scientist

ECS : Early Career Scientist

学生・院生、またPDの場合は博士号取得後7年以内（ただし公私事由によるキャリア中断年数の加算可）の方で、年齢を問いません。ECSである事を示す事で、就職相談や、先輩会員からの研究上の助言など、様々な支援を受け易くなる効果を期待しております。

詳しくは、学会HPをご参照ください。

<http://geosociety.jp/engineer/content0063.html>

お子様をお連れになる方へ

ご家族で学会に参加される会員で、大会期間中に保育施設のご利用を希望される方には、学会から利用料金の一部を補助いたします。会場内には保育室を設けませんので、近隣施設をご紹介します。

補助対象利用日：2023年9月17日（日）～19日（火）

対象者：京都大会に参加する会員（保護者）のお子様（小学生まで）

補助額：基本保育料の60%（上限8,500円/日、おやつ、レンタル用品等オプション料金は補助の対象にはなりません）

詳しくは、<https://confit.atlas.jp/guide/event/geosocjp130/static/kids>

会場での注意点

■発表終了時には拍手をお願いします

1 題の口頭発表はわずか15分で終了します（セッションの場合）。しかし、その発表の裏には、発表者の弛まぬ努力と、研究や発表準備に費やした多くの時間があるはずです。講演終了時には、惜しめない拍手をお願いします。

■無断で撮影をしてはいけません！

口頭発表・ポスター発表を、発表者に無断で写真撮影・ビデオ撮影してはいけません。撮影には発表者の許可が必要です。また、それらを発表者の許可なく、SNS等で配信もしてはいけません。

■軽装でお出かけ下さい

9月の京都はまだまだ暑さの厳しい時期です。大会参加の皆様には軽装でお出かけ下さい。ご理解、ご協力をお願いします。

問い合わせ先

【大会期間中（9/17～9/19）の問い合わせ】

日本地質学会第130年学術大会現地事務局（担当：田中）

電話：080-5363-8921

e-mail：gsj2023kyoto@academicbrains.jp

【上記以外の問い合わせ先】（平日9:30～18:00）

○日本地質学会行事委員会／地学教育委員会／学会事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル6F

TEL：03-5823-1150 FAX：03-5823-1156

e-mail：main@geosociety.jp

○日本地質学会第130年学術大会現地事務局（株式会社 アカデミック・ブレインズ）

電話：06-6949-8137

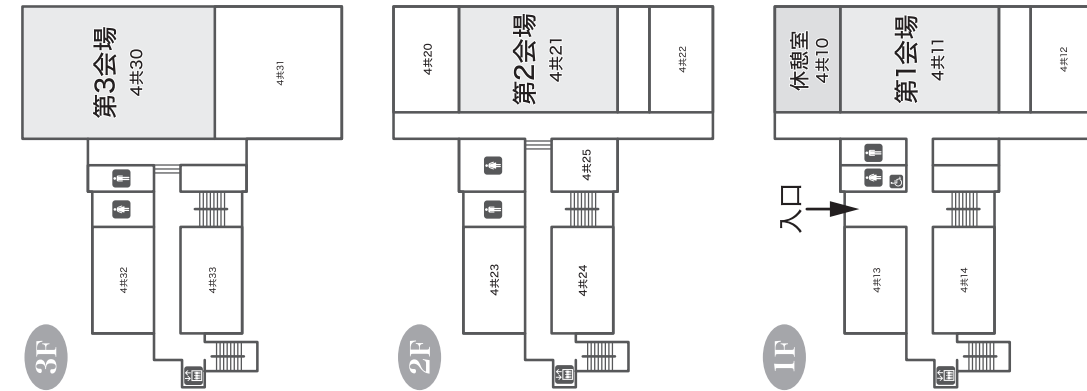
FAX：06-6949-8138

E-mail：gsj2023kyoto@academicbrains.jp

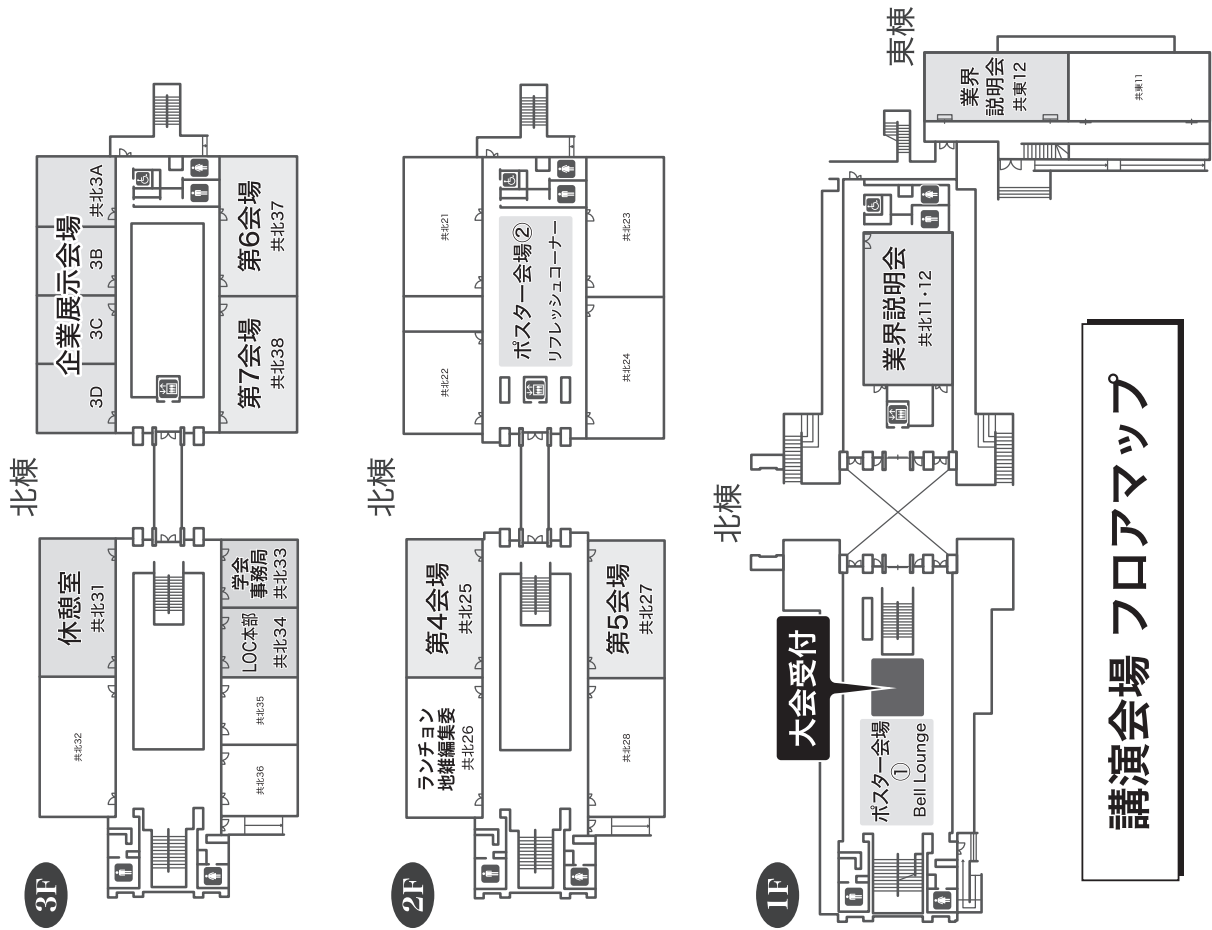
日本地質学会第130年学術大会（2023 京都） 全体日程

			1日目 9月17日 (日)			2日目 9月18日 (月・祝)			3日目 9月19日 (火)		
会 場	1F	2F	9:00-12:15			8:45-12:00			8:45-12:00		
			12:30 -13:30 ランチョン	13:30 -15:00		12:30 -13:30 ランチョン	13:30 -15:00	15:00-17:30	12:30 -13:30 ランチョン	13:30 -15:00	15:00-17:00
口頭発表	1	吉田南4号館	T1 岩石・鉱物の変形と反応 9:00-12:15			T1★ T2 変成岩と・・・ 9:00-12:00			T2 変成岩 ★ 10:15-12:00		
	2	吉田南4号館	T4 中生代日本と 極東アジア ★			T6 堆積地質学の最新研究 9:00-12:00			T6 堆積地質学の最新研究 8:45-12:00		
	3	吉田南4号館	T14 原子力と地質科学 9:00-12:15			T12 地球史 8:45-12:00			S1 白亜紀フルアマップ 10:00-12:00		
	4	吉田南4号館	T7 鉱物資源研究の最前線 9:00-12:15			T13 沈み込み帯と付加体 9:00-12:00			T11 南極研究の最前線 8:45-12:15		
	5	吉田南4号館	T8 応力逆解析総決算 9:00-12:15			T16 都市地質学 9:00-12:00			T9 マグマソールズから マグマ供給 ★		
	6	吉田南4号館	G1 ジェネラル★ 9:00-12:15			G2 ジェネラル★ 9:00-12:00			T10 文化地質 8:45-12:00		
	7	吉田南4号館	T3 ジオパーク 10:00-12:15			T10 文化地質 8:45-12:00			T15 地域地質・層序 9:00-12:00		
ポスター	吉田南総合館北棟 1-2F		T4 中生代日本と極東アジア★ 10:00-12:15 G1 ジェネラル★ (構造・海洋・堆積・地殻地質) 9:00-12:15			T1 岩石・鉱物の変形と反応★ 8:45-9:45 G2 ジェネラル★ (環状地質・第四紀・岩脈火山) 8:45-12:00			T2 変成岩とテクトニクス★ 8:45-10:00 T9 マグマソールズからマグマ供給★ 9:00-11:00 ※受賞記念スピーチ：小澤貴・棚山貴受賞記念 12:45-13:30		
	吉田南総合館北棟 1-2F		T1 岩石・鉱物の変形 / T3 ジオパーク / T4 中生代日本と極東アジア / T7 鉱物資源研究の最前線 / T8 フィールドデータにおける応力 / T14 原子力と地質科学 / G ジェネラル (応用, 構造, 堆積, 海洋, 第四紀, 地域地質, 地学教育) JJジュニアセッション			T2 変成岩とテクトニクス / T6 堆積地質学の最新研究, T12 地球史 T13 沈み込み帯と付加体 / T15 地域地質・層序			T5 テクトニクス / T9 マグマソールズからマグマ供給 / T10 文化地質学 T11 南極研究の最前線 / T15 地域地質・層序 / T16 都市地質 G ジェネラル (岩石鉱物, 古生物, 地球科学, 地学教育)		
その他			市民講演会 (13:00-15:00 : 会場 百周年時計台記念館) 地質情報展 (吉田南1号館) ORアクトリーチ・ポスター(コアタイム) (吉田南1号館)			地質系業界説明会 (13:00-17:00 : 会場 吉田南総合館北棟&東棟1階) 地質情報展 (吉田南1号館) ORアクトリーチ・ポスター (展示) (吉田南1号館)					

吉田南 4 号館



吉田南総合館



発表者へ

発表者は本学会または共催学協会の会員に限ります（招待講演者を除く）。共同発表の場合は、この制限を代表発表者（プログラムに印のついた著者）に適用します。やむを得ない事情により、あらかじめ連記された共同発表者内で発表者の変更を希望する場合は、必ず事前に行事委員会（会期前は学会事務局、会期中は学会本部）に連絡して下さい。この場合も、シンポジウムおよびアウトリーチセッション以外の場合は「会員に限り1人2題」の制限を守るものとします。代理人の代読、会場内での突然の発表者変更、発表順序の変更は認められません。口頭発表者は発表時間を厳守して下さい。持ち時間15分のうち、発表は10～12分とし、質疑応答と講演者の交代時間を確保してください（30分の招待講演の場合、発表20～25分）。発表に際しては座長の指示に従い、会場運営がスムーズに行われるようご協力下さい。

なお、何らかの理由で自身の発表時間に間に合わない場合（遅刻）であっても、発表時間帯の変更は行いません。遅刻の場合、原則その発表はキャンセルと判断し、その時間帯は休憩時間といたします。

口頭発表

- ・1題15分（質疑応答と講演者の交代時間3～5分を含む）。ただしシンポジウムとセッション招待講演は除きます。
- ・口頭発表会場には液晶プロジェクターとWindowsパソコン（OS：Windows 11、PowerPoint2019がインストールされています）を用意します。発表はできるだけ会場備え付けのWindowsパソコンをご使用下さい（ただしMacご利用の方、動画を使用する方などはご自身のパソコンをご用意下さい）。セッション開始前に試写し正常に投影されることを必ず確認してください。
- ・確認作業の混雑とそれによるセッション開始の遅れを防ぐため、早めの確認作業をお願いします。なお、発表者が事前確認を怠ったために発表時にトラブルが生じてても時間延長等の措置は取りません。

【講演ファイルをUSBメディアでご持参の方】

ファイルのインストールは、セッション開始前に、講演会場前方パソコン設置台にて行ってください。各会場のパソコンのデスクトップ上には日付（例0917）のフォルダが配置されており、その中にセッション番号のサブフォルダ（例T1）が配置されています。そのサブフォルダ内に講演ファイルを保存してください。ファイル名は「発表番号と演者氏名」にしてください（例：S1-O-1 京都太郎、T1-O-13 祇園花子）。インストール後、ファイルが正常に投影されることを必ず確認してください。特に、会場のPCと異なるバージョンで作成されたパワーポイントのファイルは、レイアウトが崩れる場合がありますのでご注意ください。フォントは特殊なものではなく、PowerPointに設定されている標準的なものを使用して下さい。セッション終了後、世話人がファイルを削除します。

【ご自分のパソコンを使用して講演する方】

Macパソコンをお使いになる方、ソフトの互換性からレイアウトが崩れる可能性のある方、パワーポイント以外のプレゼンテーションソフトをご利用の方は、ご自身でパソコンをご用意ください。会場の液晶プロジェクターにパソコン接続ケーブル（ケーブル形状はHDMI）を用意します。会場に準備されている講演用パソコンからケーブルを外し、ご自身のパソコンに接続してください。ご利用のパソコンによってはコネクタが必要になる場合があります。必ずHDMIケーブルが接続可能となるアダプターをご持参ください（会場にはありません）。接続は発表者自身が責任を持って行ってください。セッション開始前に試写し、正常に投影されることを必ず確認してください。

ポスターセッション

- ・掲示する際のチェスピンを準備いたします。テープは利用できません。
- ・掲示可能時間は9:00～17:00です。撤収は必ず18:00までをお願いします。最低掲示時間帯（10:00～16:00）は必ず掲示して下さい。
- ・コアタイムは、3日間とも13:30～15:00です。この時間は必ずポスターに立ち会い、説明して下さい。その他の時間は各自の都合により随時説明を行って下さい。
- ・ポスターのサイズは、高さ210cm、幅90cm以内で作成して下さい。ただし、ポスター発表1件につき、高さ210cm、幅120cmスペースが確保されます。
- ・ポスターには、発表番号・発表題名・発表者名を必ず明記して下さい。
- ・コンピューターやビデオを使用される場合、機器の準備は各自で行ってください。電源は確保できませんので、予備バッテリーをご準備下さい。

ORのポスター発表について

ORアウトリーチは、一般公開発表ため、会期中を通して掲示可能とします。ただし、コアタイムは9月17日の13:30～15:00です。掲示場所：地質情報展会場（吉田南1号館地階）

学生優秀発表賞について

運営規則第16条2項（12）により、優れた学生会員の発表に対して「日本地質学会学生優秀発表賞」を授与します。口頭発表、ポスター発表ともに審査の対象となります。また、優秀発表賞はエントリー制です。

受賞資格者（エントリーできる人）：エントリーの段階で学籍があり、学生会員として登録している人が受賞資格を有します。エントリーした本人が発表者であり、筆頭著者であることを必須とします。学生会員でも学籍がない人（例：2年バック・3年バックで入会し、現在は卒業または修了した人）はエントリーできません。

審査有資格者（審査する人）：行事委員・セッション世話人・理事・代議員が審査資格を有します。これらの方々には、「審査員登録フォーム」を用いて事前（プログラム発表後～学会1週間前の金曜日：9/8まで）に審査可能な発表をあらかじめ挙げていただきます。審査員数が少ない発表については、全会員の中から審査員を追加指名することがあります。

審査方法：審査は、「発表審査フォーム」（口頭・ポスター共

通；発表当日～学会終了週の金曜日：9/22 まで入力可）を用いて以下の手順で行います。なお、「審査員登録フォーム」で登録した以外の発表についても評価可能です。

（フォーム入力内容）

- ・審査員氏名・メールアドレスを入力
- ・役職（行事委員・セッション世話人・理事・代議員）をリストから選択
- ・審査する発表を選択
- ・自身が共著の発表、利益相反（親族・指導者・共同研究者）にあたる発表でないことを確認
- ・次の①から④の項目について、それぞれ5段階で審査（5が最高点、1が最低点、平均的な発表は3点）。①研究テーマおよび手法 ②結果の妥当性・説得力 ③プレゼンテーション ④インパクトの大きさ・重要性・発展可能性
- ・学生優秀発表賞に値すると思われる発表についてチェックを入れる

行事委員会が審査結果を集計し、①～④の合計点をもとにその結果をもとに各賞選考委員長が受賞者を決定します。なお、受賞者数の目安は、エントリー数の20-30%とします。表彰は geo-Flash およびニュース誌で行い、賞状は郵送します。

（注）申込時にエントリーをしたポスター発表で、最低掲示時間帯（10：00～16：00）に掲示していないポスターは、エントリーしていても審査対象から除外されます。くれぐれもご注意ください。

ランチョン・夜間小集会の予定

ランチョン

昼休みの時間帯を利用した会合です。昼食の用意はありません。各自でご用意下さい。都合により急遽会場が変更になる場合がありますので、会期中の掲示にご注意下さい。

9月17日（日）12:30～13:30

第1会場 ブルカージャパン株式会社（担当：北田寿夫）

岩石の元素マッピング分析に最適な蛍光 X 線のご紹介。微小部蛍光 X 線分析装置 M4 TORNADO は、測定試料をステージにセットするだけで、最大 16cm x 19cm の大きさの元素マッピング画像が取得できます。ぜひその技術に触れてみてください。

第3会場 火山部会ランチョン（世話人：及川輝樹）

火山部会に関連した事項について、審議・報告を行う。

第4会場 支部長連絡会議（世話人：杉田律子）

各支部の連絡事項の伝達

第5会場 構造地質部会定例会（世話人：濱田洋平）

構造地質部会の予算・決算と活動報告、今後の活動等についての議論と、JpGU 提案予定のセッションについて、部会承認をおこなう。

第6会場 海洋地質部会ランチョン（世話人：小原泰彦）

海洋地質部会を構成する主要機関の代表から近況の活動報告を行うとともに、情報交換を行う。

第7会場 ジオパークで働く（世話人：ジオパーク支援委員会 天野一男）

ジオパークの「専門員」は様々な専門性を活かし、各地の活動を支える役割を担っている。このランチョンは、ジオパークに関心がある人と専門員との双方向の「交流の場」とし、業務の実体や雇用情報について紹介する。

9月18日（月・祝）12:30～13:30

第1会場 岩石部会ランチョン（世話人：宇野正起）

岩石部会に関連した事項について、審議・報告を行う。

第2会場 堆積地質部会ランチョン（世話人：野田 篤）

堆積地質部会の活動報告および国内外の堆積学に関する情報交換

第3会場 ブルカージャパン株式会社（担当：北田寿夫）

岩石の元素マッピング分析に最適な蛍光 X 線のご紹介。微小部蛍光 X 線分析装置 M4 TORNADO は、測定試料をステージにセットするだけで、最大 16cm x 19cm の大きさの元素マッピング画像が取得できます。ぜひその技術に触れてみてください。

第4会場 地構造地質部会若手発表会（世話人：濱田洋平）

構造地質分野の若手支援 と部会員の研究交流促進を目的とし、学生や若手研究者の研究発表会をおこなう。1～2名による15～30分程度の発表を予定している。

共北 26（吉田南総合館 2 階）地質学雑誌編集委員会（世話人：小宮 剛）

地質学雑誌の編集についての議論

第5会場 文化地質学（世話人：大友幸子）

文化地質研究会会員近況の交流、会場参加者の感想等の交

流等

第6会場 古生物部会ランチオン（世話人：上松佐知子）
古生物部会の活動内容を振り返り、大会のセッション区分
変更に伴う今後の方針等の議論を行う。

第7会場 地域地質・層序部会合同ランチオン（世話人：佐
藤大介）
両部会の人事の承認と、学術大会の状況等の情報交換およ
び各種検討課題の議論

9月19日（火）12:30～13:30

第3会場 受賞記念スピーチ（12:45 から）
2023 年度小澤儀明賞受賞記念スピーチ：沢田 輝会員「大
陸地殻成長研究と地質学の成長」/2023 年度棚山雅則賞受賞
スピーチ：大柳良介会員「地球内部でおこる反応輸送現象の
理解に向けて」

第4会場 ブルカージャパン株式会社（担当：北田寿夫）
岩石の元素マッピング分析に最適な蛍光 X 線のご紹介。
微小部蛍光 X 線分析装置 M4 TORNADO は、測定試料をス
テージにセットするだけで、最大 16cm x 19cm の大きさの
元素マッピング画像が取得できます。ぜひその技術に触れて
みてください。

夜間小集会

都合により急遽会場が変更になる場合がありますので、会
期中の掲示にご注意下さい。また会場の都合上、終了時間は
厳守して下さい。

9月18日（月・祝）18:00～19:30

第1会場 学生・若手のための交流会（世話人：鈴木克明・
神谷奈々・桑野太輔・佐久間杏樹）

地質学に携わる学生や若手の交流促進を目的とする集会で
す。希望者は各自スライド 1 枚で、自身の研究やフィールド、
研究室等の紹介をすることができます。聴講のみの参加も歓迎
します。

**第2会場 J-DESC 夜間小集会：IODP3 とこれからの掘削科
学**（世話人：木下正高）

2025 年 1 月の開始を目指して欧州と日本を中心に検討中の、
次期国際海洋科学掘削プログラム（IODP3）について紹介す
るとともに、陸上科学掘削に関する日本のプロジェクトをレ
ビューし、これからの掘削科学について考える。

第3会場 博物館・生涯教育委員会（世話人：川端清司・矢
部 淳）

生涯教育委員会に関して、博物館に関わる今後の進め方
について拡大委員会として開催し、広くステークホルダーの情
報共有を行い、今後の運営に取り入れる機会とします。

第4会場 南極地質研究委員会（世話人：外田智千）
・第 65 次南極地域観測隊（2023/24）地質調査計画の概要、
南極地質将来計画について、・その他 "

第5会場 環境地質部会（世話人：田村嘉之）
環境地質部会に関する事務連絡等

第6会場 炭酸塩堆積学に関する懇談会（世話人：松田博貴・
白石史人・足立奈津子）

炭酸塩堆積学に関する最近の話題・トピックスについて討
論するとともに、最新研究動向・情報について意見交換を行う。

第7会場 地質学史懇話会（世話人：会田信行）
京都の地質学史に関する講演 2 題 1. 川勝美早子（島津
製作所創業記念資料館副館長）：島津製作所における理化学器
械と標本製造（仮題）/2. 前中一見（花園大学名誉教授）：地
球科学者松山基範の生涯（仮題）

関 連 行 事

地質情報展 2023 きょうと
地質を知ってまもる古都の未来

日程：2023年9月16日（土）～18日（月・祝）

(注) 学術大会の会期とは異なります

16日（土）13:00～17:00（ただし、入場は16時30分まで）

17日（日）9:30～17:00（ただし、入場は16時30分まで）

18日（月）9:30～16:00（ただし、入場は15時30分まで）

会場：京都大学吉田キャンパス 吉田南1号館地階（京都市左京区吉田二本松町）[入場無料]

主催：産業技術総合研究所 地質調査総合センター・関西センター、一般社団法人日本地質学会

共催：山陰海岸ジオパーク推進協議会

後援：京都市、京都市教育委員会、日本ジオパークネットワーク、一般社団法人関西地質調査業協会、京都新聞、NHK京都放送局

概要：京都および周辺地域の地質・地盤や地震・活断層など、地震災害とそれに関わる地質情報や、地下水・地中熱の利用、地球化学図をわかりやすく展示・解説する特別展です。体験学習コーナーでの実験・実演や専門家による講演会も予定されています。京都の地質について研究者とともに楽しみながら学び、災害に備える意識を高めます。

展示内容：京都周辺の地史・地質・地盤、地震・活断層等、地下水・地中熱の利用、地球化学図の各種解説パネル展示、各種体験コーナー（地盤の揺れ実験、地盤の液状化実験、鳴り砂、水路堆積実験、ロックバランシング、塗り絵・ペーパークラフト）

講演会：16日（土）14:00～15:00 「遺跡は語る 京都を襲った大地震」講師：寒川 旭

18日（月）14:00～15:00 「京都の土地の成り立ち・京都府の岩石」講師：小松原琢、武藤 俊

地質学会コーナー：第14回惑星地球フォトコンテスト入選作品等の展示

問い合わせ先：産業技術総合研究所 地質調査総合センター「地質情報展 2023 きょうと」事務局

TEL：029-861-3540

e-mail：M-johoten2023k-ml@aist.go.jp

※展示の内容は予定です。予告なく変更あるいは取りやめになる場合がございます。

市民講演会「京都とその周辺の地震」

日時 2023年9月17日（日）13:00～15:00

場所 京都大学百周年時計台記念ホール（「時計台」1階）

入場無料、事前申し込み不要

司会 堤 浩之 教授（同志社大学）

13:00～13:05 開会と講演者紹介

三田村宗樹 先生（大阪公立大学教授）

13:05～14:00 微小地震から見た京都周辺の地震活動と地震を起こす力

飯尾能久 先生（京都大学名誉教授、阿武山地震・防災サイエンスミュージアム理事長）

14:00～14:05 休息

14:05～15:00 歴史記録と地質からみた京都の地震

小松原 琢 先生（琵琶湖博物館特別研究員）

問い合わせ先：

一般社団法人日本地質学会事務局

メール：main@geosociety.jp

第21回日本地質学会
ジュニアセッション

コアタイム：

2023年9月17日（日）13:30～15:00

会場：ポスター会場（吉田南総合館北棟1-2階）

日本地質学会地学教育委員会では、地学普及行事の一環として、地学教育の普及と振興を図ることを目的として、学校における地学研究を紹介する発表会をおこなっています。本大会でも、小・中・高等学校の地学クラブの活動、および授業の中で児童・生徒が行った研究の発表を予定しています。今年は、4年ぶりに学術大会セッションと同様の対面でのポスター発表となります。

参加校（16校25件）

- ・二松學舎大学附属高等学校 理数科研究部
- ・兵庫県立姫路東高等学校 科学部地学系研究部
- ・大阪府立泉北高等学校
- ・和歌山県立田辺高等学校
- ・鹿児島県立国分高等学校サイエンス部地学班
- ・群馬県立太田女子高等学校 理科研究部
- ・池田学園池田中学・高等学校（6件）
- ・東京学芸大学附属高等学校（2件）
- ・名古屋中学校自然科学部・名古屋高等学校地球科学部
- ・青森県立三本木農業恵拓高等学校
- ・京都府立桃山高校グローバルサイエンス部岩石班
- ・岐阜県立加茂高等学校（2件）
- ・中央大学附属高等学校
- ・市川学園市川高等学校地学部
- ・熊本県宇土高等学校 科学部地学班（3件）
- ・長野県飯山高校 自然科学部

学生のための地質系業界説明会

学生（学部生や院生）の皆様には、将来の就職先の一つである地質系業界の実態や各社の業務内容などを知っていただくために開催する当学会の恒例行事です。今年度の説明会では、対面とオンラインによるものを別の日程で行います。

今年度は、学生を地質系業界に輩出したいとお考えの地質系学科に後援をいただき、大学、企業、学会が連携して高等教育を終えた専門技術者が社会で活躍・貢献できるようにしたいと考えています。

現状、下記の学科から後援をいただいています。今後、後援していただける地質系学科名は、順次学会HPでご案内いたします。

- 後援（8/1現在・申込順）：東海大学海洋学部海洋地球科学科 / 東海大学海洋学部海洋地球科学科 / 島根大学 総合理工学部 地球科学科 / 弘前大学理工学部地球環境防災学科 / 日本大学文理学部地球科学科地球環境学プログラム / 京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室 / 筑波大学地球科学学位プログラム / 山形大学理学部

地球科学分野 / 広島大学大学院先進理工系科学研究科地球惑星システム学プログラム / 広島大学理学部地球惑星システム学科 / 徳島大学大学院社会産業理工学研究部理工学域自然科学系地球科学分野 / 福岡大学理学部地球圏科学科地球科学分野 / 千葉大学理学部地球科学科 / 山口大学理学部地球圏システム科学科

専門就職をお考えの学生の皆様や業界を理解されたい教員の方々は、どうぞ奮ってご参加ください。

対面企画について

開催日時：2023 年 9 月 18 日（月・祝）13:00-17:00

開催場所：京都大学吉田キャンパス吉田南総合館北棟，東棟 1 階

参加費無料：学部生・院生は，日本地質学会会員，非会員を問わず学術大会への参加登録は不要で参加費は無料です。ただし，その場合は学術大会の他の企画には参加できません。学術大会参加登録を行った学部生・院生は，本企画を含め学術大会のすべての企画に参加できます。

参加申込方法：事前申込制です。お申し込みは大会 HP もしくは右記 QR コードから

お問い合わせ先：一般社団法人日本地質学会事務局

〒 101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル 6 階

e-mail：main@geosociety.jp

URL：http://www.geosociety.jp

電話：03-5823-1150 FAX：03-5823-1156

オンライン形式での説明会も開催します：

2023 年 9 月 22 日（金）午後

開催方法：Zoom を用いたオンライン方式

参加費：無料

詳しくは大会 HP をご覧ください！



参加企業一覧

企業・団体名（50音順） 太字：賛助会員	対面 9/18（月）	オンライン 9/22（金）
株式会社アーステック東洋	●	
株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング		●
株式会社 I N P E X	●	
株式会社エイト日本技術開発	●	
応用地質株式会社	●	●
川崎地質株式会社	●	●
基礎地盤コンサルタンツ株式会社	●	●
キタイ設計株式会社	●	
クニミネ工業株式会社		●
原子力発電環境整備機構	●	●
株式会社建設技術研究所	●	●
鉱研工業株式会社	●	●
国際航業株式会社		●
国土防災技術株式会社	●	
株式会社サクセン	●	●
サンコーコンサルタント株式会社	●	
三洋テクノマリン株式会社	●	
三和ボーリング株式会社	●	●
四国建設コンサルタント株式会社	●	●
新協地水株式会社	紹介資料のHP掲載のみ	
シンワ技研コンサルタント株式会社		●
住鉱資源開発株式会社		●
住友大阪セメント株式会社		●
住友金属鉱山株式会社		●
石油資源開発株式会社	●	●
大日本ダイヤコンサルタント株式会社	●	●
太平洋セメント株式会社	●	●
株式会社高田地研		●
株式会社地圏総合コンサルタント	●	●
地熱エンジニアリング株式会社	●	●
中央開発株式会社	●	●
株式会社ドーコン		●
トキワ地研株式会社		●
株式会社日さく	●	●
日鉄鉱業株式会社	●	●
日特建設株式会社	●	●
株式会社日本海技術コンサルタンツ	●	
日本海洋事業株式会社		●
日本工営株式会社	●	
株式会社ニュージェック		●
ハイテック株式会社	●	●
株式会社パスコ	●	●
株式会社阪神コンサルタンツ	●	
株式会社蒜山地質年代学研究所	●	
株式会社芙蓉コンサルタント		●
明治コンサルタント株式会社	●	●
山北調査設計株式会社		●
企業・団体：47	32	35

シンポジウム・セッションハイライト

ハイライト講演：それぞれのシンポジウム・セッションがより盛り上がることを期待して、また、会場で学術大会に不慣れな方（学生など）にわかりやすく情報を提供し、おもしろいサイエンスにひとつでも多く接してもらうことを目的に、「おもしろそう、注目すべき、ぜひ聞いてほしい」発表を世話人に選んでいただき、わかりやすく紹介いただきました。

何らかの理由で学会のプレス推薦候補にならなかった優れた研究が埋もれているかもしれません。そのようなものをできるだけ発掘し、より多くの学術情報を提供したいと考えます。

2023 年 8 月

日本地質学会行事委員会

日本地質学会第 130 年学術大会（2023 京都）

講演番号・ 発表日時・会場	発表者 氏名	発表タイトル	紹介文	キーワード
●T1. 岩石・鉱物の変形と反応				
T1-O-3（招待講演） 9月17日（日） 09:30-10:00 口頭第1会場（4共11：吉田南4号館）	金木俊也、 野田博之	水理学的モデル計算に基づく沈み込み帯における有効垂直応力の深度分布	本発表は沈み込み帯に特徴的な過程を考慮した水理学的モデルの構築と計算により、浅部スロー地震の発生に関係する可能性がある、局所的な有効垂直応力変化の要因について議論している。モデル計算より、スメクタイトの脱水反応に伴うシリカ析出などで局所的に透水係数が減少すると、有効垂直応力が局所的に減少することが示されている。この成果はスロー地震発生要因の新たな可能性を示すものである。	沈み込み帯、有効垂直応力、水理学モデル
T1-O-7（招待講演） 9月17日（日） 11:00-11:30 口頭第1会場（4共11：吉田南4号館）	赤松祐哉	地震波速度のスケールアップ：クラックの不均質性、サイズ、浸透率の効果	広い時空間スケールの現象を扱う地質学において、小さな試料で取得した室内実験データを大きな地質学的スケールへいかに拡張するかは重要である。本発表では室内実験により得られた弾性波及び比抵抗データや掘削コア試料のCTスキャンデータなどから抽出したクラックの物理パラメーターを発表者独自の解析により拡張し、海洋地殻内のダメージ分布について議論している。	海洋地殻、弾性波速度、浸透率
●T2. 変成岩とテクニクス				
T2-O-1 9月18日（月・祝） 10:00-10:15 口頭第1会場（4共11：吉田南4号館）	中嶋 徹 ほか6名	ジルコン中のメルト・流体包有物に記録された複数の造山運動	中央ヒマラヤに産出する正片麻岩を対象に、ジルコン及びその包有物の多角的分析から、ヒマラヤ造山運動に先立つ古生代初期のマグマ流体活動の解読を目指した研究である。講演者らは詳細な組織観察に加え、ジルコンの微量元素とウラン・鉛局所年代測定を系統的に行うことで、複数の造山運動に起因するマグマ流体活動履歴を読み取ることに成功した。ヒマラヤ地域の地史を鮮明にする研究成果であり、今後の進展が期待される。	ジルコン、包有物、造山運動
T2-O-14 9月18日（月・祝） 16:30-16:45 口頭第1会場（4共11：吉田南4号館）	横井雅範 ほか1名	三波川変成帯・和歌山県紀の川市藤崎に産する緑簾石レンズ中に記録された昇温期から変成ピークにかけての含ホウ素流体活動	電気石は流体に溶けやすいホウ素を多く含み、沈み込み帯における流体活動を制約するための有用な地化学トレーサーである。講演者は、電気石を含む苦鉄質片岩の観察から、変形微細構造と含ホウ素流体の流入がカップリングしていることを見出した。講演では、沈み込み帯における流体活動ダイナミクスについての活発な議論が期待される。	ホウ素、流体、沈み込み帯
T2-P-15 9月18日（月・祝） 13:30-15:00 ポスター会場（吉田南総合館北棟1-2階）	西 玄偉 ほか2名	ざくろ石の包有物岩石学から読み解くスロベニア・ポホリエ山地のプログレード変成履歴	スロベニア・ポホリエ山地では超高压変成岩が産出し、そのピーク変成条件の復元に焦点が当てられてきたが、詳細な変成進化過程は不鮮明であった。講演者らは、当地域の藍晶石エクロジャイトのざくろ石から、ラマン分光学及び熱力学的アプローチに基づく包有物岩石学的解析を駆使してプログレード変成履歴の解読に成功した。ポホリエ山地における、地殻物質が超高压条件に至る一連の変成過程の解明に貢献することが期待される。	超高压変成岩、プログレード変成履歴、包有物
●T3. 大地と人間活動を楽しみながら学ぶジオパーク				
T3-O-4 9月17日（日） 10:45-11:00 口頭第7会場（共北38：吉田南総合館北棟）	金子一夫 ほか10名	大学、民間企業、自治体、ジオパークの連携によって再出現した巨大スランブ露頭	ジオパークにおいて“地質遺産”の保全は最重要課題だが、地権者の理解や維持・管理の持続的な手法確立、一般市民への普及教育など課題は多い。立山黒部ジオパークでは、新たに見出されたスランブ構造がみられる大露頭を大学、民間企業、自治体、ジオパークの連携によって調査・整備し、一般公開を開始した。その経緯と成果、課題を議論する。	ジオパーク、地質遺産、保全

●T4. 中生代日本と極東アジアの古地理・テクトニクスのリンク				
T4-O-4 (招待講演) 9月17日 (日) 10:45-11:15 口頭第2会場 (4共21 : 吉田南4号館)	ルグラン ジュリアン	花粉化石からみた日本の古生代～中生代の植生変遷と古環境	日本列島形成史の復元には、古生代・中生代地層の研究が不可欠だが、一般に海棲動物化石を欠く場合、堆積年代決定は難しい。一方、泥岩中の孢子・花粉化石の分析が実際には極めて有効だが、これまで研究例は極めて少なかった。気鋭の古植物学者であるルグラン博士は、いまや花粉研究における「牧野富太郎」のような存在である。彼がこれまでに日本各地から解明した成果の最新のまとめを聞く機会を逃してはならない。	古生代、中生代、花粉化石、花粉層序、古環境
●T5. テクトニクス				
T5-O-1 (招待講演) 9月19日 (火) 10:15-10:45 口頭第1会場 (4共11 : 吉田南4号館)	星 博幸	伊豆衝突帯周辺の中新世地殻変形	本講演では、伊豆衝突帯周辺から最近得られた年代測定結果や古地磁気測定結果の概要も交えて、伊豆衝突帯周辺の地殻変形とテクトニック・モデルについて議論する。	伊豆衝突帯、中新世、地殻変形、古地磁気、地殻回転、伊豆-小笠原弧、不整合、関東対曲構造
●T6. 堆積地質学の最新研究				
T6-O-10 (招待講演) 9月18日 (月・祝) 11:30-12:00 口頭第2会場 (4共21 : 吉田南4号館)	奥村知世、 公文富士夫	宝石サンゴの持続的利用に向けた地球科学的研究	宝石サンゴは、桃太郎が鬼ヶ島から持ち帰る宝物の中に必ずと言ってよいほど描かれているように、昔から珍重されてきた。しかしながら近年、その資源量低下が懸念されている。本研究は、足摺岬沖の宝石サンゴの多くが死後に集積した化石資源であることを明らかにした。これは資源の持続的利用を考えるうえで重要な成果である。	宝石サンゴ、足摺岬沖、化石資源
T6-O-25 9月19日 (火) 10:30-10:45 口頭第2会場 (4共21 : 吉田南4号館)	篠崎鉄哉 ほか4名	環境DNAで見る現世と過去の巨大津波の痕跡	これまで津波堆積物は、“泥質な地層中に挟まれる砂質のイベント層”として認識されることが多かった。2011年の津波以降、より正確な浸水範囲の推定のために地層中から“泥質のイベント層”も識別する試みが数多く行われているが、本講演では環境DNA分析に焦点を当てて現世と過去の津波堆積物の識別に挑んでいる。	津波堆積物、環境DNA、
T6-O-29 (招待講演) 9月19日 (火) 11:30-12:00 口頭第2会場 (4共21 : 吉田南4号館)	齋藤 有	半遠洋性泥質堆積物の供給源が示唆する黒潮の碎屑物長距離輸送	日本列島の太平洋側を連綿と流れる黒潮はいつからどれだけの堆積物を運んでいるのであろうか。そのヒントが本講演から得られるかもしれない。本講演では、Sr-Nd-Pb同位体比を用いて海洋底で掘削されたコア試料を分析することで、その堆積物の供給源を解明することを試み、さらに時間軸を入れることにより、その後背地のテクトニクスや古気候に関する情報を抽出する可能性を探索している。	黒潮、Sr-Nd-Pb同位体比、後背地解析
T6-P-5 9月18日 (月・祝) 13:30-15:00 ポスター会場 (吉田南総合館北棟1-2階)	佐藤瑠晟、 成瀬 元	露頭の3次元点群データに対するResUNetを用いた岩相自動判定	本講演は、ドローン等で撮影された画像をフォトグラメトリと機械学習により、露頭の岩相を機械的に判定させることを試みている。これにより、現地調査の効率化を図れるだけではなく、直接行くことが困難な露頭の調査もできるようになる可能性を秘めている。地質学者は従来、自身の足で現地に行き、自身の目で露頭を観察することを重視する傾向が強いが、技術革新により色々な調査手法が行われる時代になるのかもしれない。	機械学習、フォトグラメトリ、岩相
●T8. フィールドデータにおける応力逆解析総決算				
T8-O-4 (招待講演) 9月17日 (日) 09:45-10:15 口頭第5会場 (共北27 : 吉田南総合館北棟)	内出崇彦	微小地震の震源メカニズム解に基づく日本列島内陸部のストレスマップ	AIを活用した地震波形ビッグデータ処理を用いた微小地震の解析から、日本列島内陸部にかかる現在の応力の向きを「ストレスマップ」として2022年に公表されました。さあ、内出さんの紹介するストレスマップで日本の地殻変動の今を大いに議論しよう！	地震、メカニズム解、AI
T8-O-9 (招待講演) 9月17日 (日) 11:30-12:00 口頭第5会場 (共北27 : 吉田南総合館北棟)	山路 敦	応力解析史	多重逆解法 (Multiple inverse method) の開発者であり、理論テクトニクス入門 (朝倉書店) でお馴染みの山路さんから応力逆解析手法の歴史を振り返っていただきます。応力逆解析の「いろは」から今後の将来展望まで一挙に触れることができるビッグチャンス、これを機会に応力逆解析の世界へどうぞ！	多重逆解法、島弧、テクトニクス
●T9. マグマソースからマグマ供給システムまで				
T9-O-1 (招待講演) 9月19日 (火) 09:00-09:15 口頭第5会場 (共北27 : 吉田南総合館北棟)	村岡やよい、 宮崎一博	北部九州白亜紀花崗岩類の岩体区分一特に糸島花崗閃緑岩についての提言	北部九州白亜紀花崗岩バソリス群の中で最大の分布面積を誇る糸島花崗閃緑岩については、これまで単一のマグマ活動で形成された岩体なのか議論があった。本講演は、詳細な野外調査により新たに見出した記載岩石学的特徴の異なる岩体の報告など、糸島花崗閃緑岩について岩体再区分・細分化の可能性を提案するものであり、フィールドジオロジスト必聴の講演である。	北部九州、花崗岩類

●T10. 文化地質学				
T10-O-10 (招待講演)	貴治康夫	周辺地質からみた京都の伝統産業	貴治氏は京都周辺の庭園内の庭石や、焼き物や壁土、砥石、茶磨などの素材としての岩石を、地質学的視点から研究されている。それぞれの石材の、用途からみた岩石の特徴、開発経緯、文化的背景などについて、京都の伝統産業と周辺地質との関わりについて考察を深めた講演である。	京都盆地、伝統産業、天然資源
9月18日 (月・祝) 11:30-12:00 口頭第7会場 (共北38: 吉田南総合館北棟)				
T10-O-19 (招待講演)	加藤友規	庭石にみる先達の心と技	加藤氏は、植彌加藤造園の社長として京都市内の名庭の維持管理を行ってきただけでなく、京都芸術大学大学院日本庭園分野の教授として、庭園文化の研究も進められている。京都の庭園文化、造園の歴史、植木だけでなく岩石の作庭における役割、石材選択の変化等について、地質学者とは異なった視点からの講演である。	造園の歴史、庭石、石材
9月19日 (火) 11:15-11:45 口頭第6会場 (共北37: 吉田南総合館北棟)				
●T11. 南極研究の最前線				
T11-O-2 (招待講演)	野木義史	地球物理観測から推定される南極域の地質構造の現状	南極大陸は約40億年前に迫る古い地殻が存在しており、地球の変動を解明する絶好の場であるが、そのほとんどは水に覆われている。航空機による地球物理観測は、氷下の地質構造等を広範囲で推測することを可能とし、地質調査で得られる情報と組み合わせることで、大規模地質構造やテクトニクスの解明に大きく貢献する。本発表では、南極における地球物理と地質の連携の成果と展望について紹介していただく。	基盤地質、地球物理観測
9月19日 (火) 09:00-09:30 口頭第4会場 (共北25: 吉田南総合館北棟)				
T11-O-4	中野伸彦 他2名	東南極・リュツォ・ホルム岩体、ベルナバネの原岩構成と変成年代から推定される形成テクトニクス	東南極リュツォ・ホルム岩体は、約6～5億年前の Gondwana 超大陸形成期の変動を記録した地質体である。本発表では、当岩体のベルナバネに、形成場・形成年代が異なる原岩からなる変成岩類が分布し、またそれらが異なる変成年代分布を示すことを報告している。このことはリュツォ・ホルム岩体が複数回の変成作用を被った可能性を示唆しており、当岩体の形成テクトニクスモデル構築に関わる重要な発見であると考えられる。	変成作用、大陸衝突、リュツォ・ホルム岩体
9月19日 (火) 09:45-10:00 口頭第4会場 (共北25: 吉田南総合館北棟)				
T11-O-9	石輪健樹 ほか5名	完新世における東南極の氷床変動復元：地質試料分析とGIAモデルによるアプローチ	気候変動に対して敏感に応答する可能性がある東南極氷床の変動の理解には、長期のデータ解析を可能とする地質試料の分析と、モデルシミュレーションによるアプローチが不可欠である。本発表では、堆積物試料から復元した海水準データと地球変形 (Glacial Isostatic Adjustment: GIA) モデルから、完新世における東南極氷床変動の時空間分布の違いについて、最新の研究成果と今後の展望も含めて紹介される予定であり、要注目である。	南極氷床、GIA (地球変形) モデル、海水準変動
9月19日 (火) 11:00-11:15 口頭第4会場 (共北25: 吉田南総合館北棟)				
T11-O-10 (招待講演)	板木拓也 ほか17名	海底地形に制約された完新世の東南極トッテン氷床変動	近年、南極氷床の急激な融解が懸念されているが、そのメカニズムはよくわかっていない。本発表では、世界に先駆けて採取したトッテン氷河沖の海底堆積物について、各種の最新分析・解析を実施し、明らかになってきた過去の急激かつ大規模な氷床・棚氷の後退について紹介される。とくに海底地形が、急激な氷床・棚氷の後退の鍵を握っていた可能性があり、注目の発表である。	南極、氷床融解、古海洋学
9月19日 (火) 11:15-11:45 口頭第4会場 (共北25: 吉田南総合館北棟)				
●T12. 地球史				
T12-O-10 (招待講演)	千葉謙太郎	モンゴル・ゴビ砂漠上部白亜系における年代層序確立：脊椎動物化石相変遷の理解に向けて	モンゴル・ゴビ砂漠に分布する上部白亜系は、多種多様な分類群が産出する中で、恐竜類をはじめとする、陸上脊椎動物の世界有数の化石産地である。千葉謙太郎氏らの研究グループは、さらなる化石発掘と同時に、だれも着目していなかった土壌性炭酸塩や脊椎動物の歯化石を研究対象として新手法を用いた年代軸の設定を試みている。彼らの研究結果は、未だ活発に議論が続く後期白亜紀を通じた陸上脊椎動物たちの多様性の変遷と大規模な進化への理解に、今後大きな進展をもたらすことが期待される。この画期的な研究結果について最新の知見を含めてご講演していただく。	後期白亜紀、恐竜、U-Pb年代測定
9月18日 (月・祝) 11:15-11:45 口頭第3会場 (4共30: 吉田南4号館)				
T12-O-17 (招待講演)	梶田展人	房総半島周辺の鮮新-更新統におけるアルケノン古水温復元	房総半島周辺から関東平野に分布する鮮新-更新統には、有孔虫や放散虫などの微化石だけでなく、保存の良い有機分子化石が含まれている。梶田展人氏は、古気候・古海洋環境を復元するため最も有用な手法の一つであるアルケノンに基づく古水温復元を、房総半島に分布する堆積岩に初めて適用し、過去の黒潮変動や地球規模の気候変動の解明に大きく貢献する研究成果を挙げている。本講演では、更新世の温暖期におけるアルケノン古水温の変動と鮮新世の古環境復元を含めた今後の研究展望についてご紹介いただく。	アルケノン、古水温、鮮新-更新統
9月18日 (月・祝) 16:30-17:00 口頭第3会場 (4共30: 吉田南4号館)				

●T13. 沈み込み帯・陸上付加帯				
T13-O-6（招待講演） 9月18日（月・祝） 10:30-11:00 口頭第4会場（共北25：吉田南総合館北棟）	小平秀一 ほか6名	東北沖地震震源断層の強度回復・応力蓄積過程の解明- IODP Exp. 405 JTRACK及び広域観測による新たな研究プロジェクト提案 -	東日本大震災の津波断層の理解を目的とする掘削が2024年9月 - 12月に国際深海科学掘削計画（IODP） Expedition 405 JTRACK（Tracking Tsunamigenic Slips Across and Along the Japan Trench）として実施される。JTRACKは「プレート境界断層浅部とその周辺の構成岩石や流体の物理的・化学的特性と、その時空間変化を理解することにより、巨大断層すべりや巨大津波を引き起こす要因を把握する」ことを大目的としている。ちきゅうを用いた現行のIODPで実施される最後の航海である。巨大地震発生メカニズムの理解が大きく進展すると国際的に期待されている計画である。	2011年東北沖地震、震源断層、国際深海科学掘削計画
●T14. 原子力と地質科学				
T14-O-2 9月17日（日） 09:30-09:45 口頭第3会場（4共30：吉田南4号館）	兵藤英明 ほか12名	文献調査段階の評価の考え方（案）（最終処分法で定められた要件に照らした評価及び技術的観点からの検討）	高レベル放射性廃棄物の地層処分場の選定における最初の段階である文献調査のうち、最終処分法に定められた要件に照らした評価及び技術的観点からの検討の考え方について、報告・議論を行う。高レベル放射性廃棄物の処分は社会的に重要な課題であり、地質科学が多いに貢献すべき分野である。	高レベル放射性廃棄物、地層処分、文献調査
●T15. 地域地質・層序学：現在と展望				
T15-P-28 9月19日（火） 13:30-15:00 ポスター会場（吉田南総合館北棟1-2階）	水戸悠河 ほか4名	宮城県荒砥沢地域の地質	本地域は2008年岩手・宮城内陸地震による大規模地すべりで知られる地域であり、中新世から第四紀の多様な火山岩が分布している。火山岩が複雑に分布する地域の層序を構築することはたいへんむづかしいが、本邦の脊梁域には広く分布しており、防災や開発の上での地質情報は必要である。本発表では岩相観察に加えて年代分析や燐灰石の微量元素組成分析から確度の高い層序を構築するものである。	アバタイト微量分析、小野松沢層、北川凝灰岩
T15-P-8 9月19日（火） 13:30-15:00 ポスター会場（吉田南総合館北棟1-2階）	高山 隼、 高木秀雄	関東山地で見られる御荷鉾緑色岩および上位の珪質岩（柏木ユニット）への漸移的变化	御荷鉾帯は三波川帯と秩父帯の間に断続的に発達する地質体で緑色岩を主体とする。今回の発表は、関東山地における御荷鉾ユニットの海台起源の緑色岩と、その上位に接する柏木ユニットのチャートや酸性凝灰岩に注目し、両者が初生的に断層関係ではなく漸移関係の露頭があることを摘示し、両ユニットの初生的な関係を復元するものである。	御荷鉾帯、柏木ユニット、珪質岩
T15-P-16 9月19日（火） 13:30-15:00 ポスター会場（吉田南総合館北棟1-2階）	千葉 明 ほか6名	東北日本、男鹿半島北西海岸赤島ーごんご崎における火山岩類のジルコン U-Pb年代	本邦新生代の一大イベントである日本海形成の直前の地史は曖昧なところが多い。これは主に当時の地層が限られていることに起因しており、その限られた地層が分布している男鹿半島は重要な証拠源といえる。本発表は新しい年代測定を報告し、この“直前の地史”に制約を与えるものである。	日本海拡大、上部始新統門前層、男鹿半島
T15-P-18 9月19日（火） 13:30-15:00 ポスター会場（吉田南総合館北棟1-2階）	金澤安蓮、 吉田孝紀	北海道中央北部添牛内地域の碎屑性蛇紋岩	北海道中軸部の中新統から点々と蛇紋岩が礫岩あるいはブロックとして産する。これらは蛇紋岩が地表に露出したことを示唆するが、詳しい研究は乏しかった。今回の発表では明確には産出が知られてなかった北海道北部の蛇紋岩礫岩を記載し、堆積相などの観察・分析によって堆積機構や蛇紋岩が当時どのように露出していたかを復元し、当時のテクトニクスについて考察するものである。	北海道中軸部、碎屑性蛇紋岩、築別層
●T16. 都市地質学：自然と社会の融合領域				
T16-O-12（招待講演） 9月18日（月・祝） 15:00-15:30 口頭第5会場（共北27：吉田南総合館北棟）	竹村恵二	都市と地質学の関わり：開発・環境・災害<人類が集中して住む領域の大地の科学>	都市発達には河川河口域の平野部や盆地であることが多い。これは、インフラ整備や都市の拡張が容易である広い平坦な地域は利便性が高いためであるが、一方で都市域にみられる特徴的な災害（内水氾濫や液状化、地盤沈下など）の発生もあり課題が多い。これらの課題に対しては、関連学問の融合が必要であり、地質学と工学（土木工学、地盤工学、地震工学、間接工学など）の相互理解によって都市の諸問題は解決される。発表では、都市地質学の課題と今後の課題について述べられる。	都市地質学、インフラ整備、沖積平野
T16-O-14 9月18日（月・祝） 15:45-16:00 口頭第5会場（共北27：吉田南総合館北棟）	田村嘉之	産業廃棄物最終処分場等の立地条件としての地質環境についてー社会インフラから見た条件ー	人間の生活の中で必要な施設の1つである産業廃棄物最終処分場は、急傾斜地崩壊危険区域、砂防指定地、地すべり防止区域などを含まないなどの制約がある一方で、施設によって影響を受ける可能性が高い地下水などの水環境については十分に考慮されているとはいえない。特に自然災害（台風、豪雨、地震など）の際にも安心して運用できることは重要事項であるが、現時点では問題点も多い。発表では、このような施設についての個々の地質環境や問題点を抽出する。まさに都市部で発生する地質問題について発表される。	地質環境、産業廃棄物処分場、社会インフラ、地質災害

●Gジェネラルセッション

G4-O-3 9月18日（月・祝） 15:30-15:45 口頭第4会場（共北25：吉田南総合館北棟）	川村教一	明治時代におけるbasaltの和名定着の過程	basaltと呼ばれていた岩石に玄武岩の和名をあてたのは、小藤文次郎で、明治17年8月発行の『金石学 一名鉱物学』（小藤，1884）が初出である。ただしこの本に命名理由は記されていない。玄武洞との関係および玄武岩の名前の定着について調査結果を報告する。	玄武岩，小藤文次郎，玄武洞
--	------	------------------------	--	---------------

第 130 年学術大会（2023 京都大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 17 日（日）午前

会場	口頭第 1 会場（4 共 11：吉田南 4 号館）	口頭第 2 会場（4 共 21：吉田南 4 号館）	口頭第 3 会場（4 共 30：吉田南 4 号館）
	T1. 岩石・鉱物の変形と反応	T4. 中生代日本と極東アジアの古地理・テクトニクス的リンク：脱 20 世紀の新視点	T14. 原子力と地質科学
	座長：岡崎啓史, 宇野正起, 向吉秀樹	座長：澤木佑介, 磯崎行雄, 佐藤友彦	座長：座長:竹内真司, 吉田英一, 梅田浩司
9：00	09:00 T1-O-1 深層学習に基づく実験断層表面上の未来の摩擦挙動予測：トランスフォーマーアーキテクチャのアプローチ。* オム テフン , 廣瀬丈洋, 濱田洋平		09:00 T14-O-1（招待講演） 地層処分において安全確保上少なくとも考慮されるべき事項に関する検討の背景及び経緯。* 志間正和 , 青木広臣
	09:15 T1-O-2 地震時の動的すべり後の急激な断層強度回復プロセス。* 廣瀬丈洋 , ベッドフォード ジョン, 濱田洋平		09:30 T14-O-2 文献調査段階の評価の考え方（案）（最終処分法で定められた要件に照らした評価及び技術的観点からの検討）。* 兵藤英明 , 新井慶将, 浅森浩一, 別宮 功, 海江田洋平, 小松哲也, 松本孟紘, 尾上博則, 大津正士, 三枝博光, 高林佑灯, 高畑祐美, 田中等
	09:30 T1-O-3（招待講演） 水理学的モデル計算に基づく沈み込み帯における有効垂直応力の深度分布。* 金木俊也 , 野田博之		09:45 T14-O-3 「文献調査段階の評価の考え方（案）（最終処分法で定められた要件に照らした評価及び技術的観点からの検討）」に対する技術的・専門的観点からの評価。* 北村 晁 , 安楽総太郎, 下堀友教
	10:00 T1-O-4（エントリー） 海洋プレートモホ面付近の含水延性剪断帯における鉱物と組織の多様性。* 夏目 樹  , 額額佑衣, 道林克禎, 岡本 敦	10:00 T4-O-1（エントリー） 飛騨帯の変成炭酸塩岩。* 原田浩伸 , 辻森 樹	
	10:15 T1-O-5（エントリー） 中央パラワンオフィオライト基底部かんらん岩にみられる変形・熱水変質作用：沈み込み開始過程への影響。* 阿部日登里 , 平内健一, Payot Betchaida, Pasco Julius	10:15 T4-O-2 飛騨帯研究のレビュー：最近の進展と今後の視点。* 棚座圭太郎 , 磯崎行雄	
	10:30（休憩）	10:30 T4-O-3 飛騨帯とLaoelin-Grodekov帯（ロシア・中国・北朝鮮国境）との対比および大和構造線の意義：極東アジアにおける花崗岩年代・植物化石・碎屑性ジルコン年代スペクトルの共通点。* 磯崎行雄 , 堤 之恭, 中野智仁, 棚座圭太郎	10:00 T14-O-4 寿都町・神恵内村の「対話の場」で示された文献調査報告一。* 岡村 聡
	10:45 T1-O-6 スラブ内応力状態から推定されるスラブのレオロジー特性。* 石井和彦 , 田原佑陽, 平田京輔	10:45 T4-O-4（招待講演） 花粉化石からみた日本の古生代～中生代の植生変遷と古環境。* ルグラン ジュリアン	10:15 T14-O-5（招待講演） 高レベル放射性廃棄物地層処分場の立地選定－避けるべき不確実性から見た地質－。* 千木良雅弘
	11:00 T1-O-7（招待講演） 地震波速度のスケールアップ：クラックの不均質性，サイズ，浸透率の効果。* 赤松祐哉 	11:15 T4-O-5 能登半島北西部大福寺の変成溶結凝灰岩のジルコンU-Pb年代：飛騨帯新期花崗岩類および下部ジュラ系来馬層群との関係。* 福山繭子 , 小笠原正継	10:45 T14-O-6 コンクリーション化剤による地下岩盤亀裂シーリング実証試験-M5.4直下型地震後の亀裂修復現象。* 吉田英一 , 山本鋼志, 浅原良浩, 刈茅孝一, 斎藤朱音, 松井裕哉, 望月陽人
	11:30 T1-O-8（エントリー） 螢石（CaF2）の定常摩擦係数：単結晶試料と粉末試料の比較。* 柘植悠太  , 清水以知子, 波多野直也, 檜垣誠安, 中谷正生	11:30 T4-O-6 篠山層群の碎屑性ジルコン年代と西南日本白亜紀弧内層の層序見直し：関門層群との対比。* 堤 之恭 , 長谷川 遼, 磯崎行雄	11:00 T14-O-7 炭塩コンクリーションの水理・力学特性。* 竹内真司 , 中村祥子, 後藤 慧, 竹村貴人, 吉田英一
	11:45 T1-O-9（エントリー） 石英せん断帯の脆性-塑性遷移～微細構造観察からの洞察～。* 宮副真夢  , 岡崎啓史, 野田博之, サルカール デュティ	11:45 T4-O-7 日本の中新世花崗岩から作成されたジルコンの母岩判別図。* 澤木佑介 , 浅沼 尚, 坂田周平, 大野 剛	11:15 T14-O-8 河川下刻による地形変化に関するデータ収集及び予察的な解析。* 川村 淳 , 賈 華, 小泉由起子, 西山成哲, 梅田浩司
	12:00 T1-O-10 Dominant slip systems in naturally deformed quartz under upper crustal conditions inferred from crystallographic- and shape-preferred orientation of quartz phenocrysts in a sheared granitic porphyry. * Qi Wang , Takamoto Okudaira, Norio Shigematsu	12:00（総合討論ほか）	11:30 T14-O-9 土岐花崗岩における物質移行特性に関する研究：鉱物の微小空隙がもたらす物質移動の遅延。* 湯口貴史 , 笹尾英嗣, 火原諒子, 村上裕晃, 尾崎裕介
			11:45 T14-O-10 新第三紀堆積岩に発達する小規模なせん断面の解析。* 田村友識 , 石井英一
			12:00 T14-O-11 日本の原子力発電所の地盤における斜長石の曹長石化と鉱物脈法による断層活動性評価。* 石渡 明

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※* **太字氏名：代表発表者**, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第 130 年学術大会（2023 京都大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 17 日（日）午前

会場	口頭第 4 会場（共北 25：吉田南総合館北棟）	口頭第 5 会場（共北 27：吉田南総合館北棟）	口頭第 6 会場（共北 37：吉田南総合館北棟）
	T7. 鉱物資源研究の最前線	T8. フィールドデータにおける応力逆解析総決算	G-1. ジェネラル サブセッション構造・海洋・堆積・地域地質
	座長：安川和孝, 町田嗣樹	座長：安邊啓明, 大橋聖和, 大坪 誠	座長：松崎賢史, 佐藤大介, 野田 篤, 常盤哲也
9：00	09:00 T7-O-1（招待講演） 深層学習を活用した海底鉱物資源研究の新展開：レアアース泥中のイクチオリス微化石の観察および海底熱水鉱床の物理探査を例に。*見邨和英 09:30 T7-O-2（エントリー） 海洋-堆積物間のNd質量収支ボックスモデルに基づくレアアース泥生成の支配因子の長期変動の検討。*松波亮佑, 安川和孝, 中村謙太郎, 加藤泰浩 09:45 T7-O-3（エントリー） Discovery of extremely REY-rich mud in the South Pacific Ocean. *Marshel Emmanuelle TAMPAH, Kazutaka Yasukawa, Ohta Junichiro, Kentaro Nakamura, Yasuhiro Kato 10:00 T7-O-4 南鳥島レアアース泥に見られるハイエイトスの発生場所とタイミング：新しい化学層序からの示唆。*中村謙太郎 10:15 T7-O-5 現世海洋における黒色泥のレアメタル資源としての利用可能性の検討。*矢野萌生ECS, 安川和孝, 中村謙太郎, 加藤泰浩 10:30 T7-O-6 古海洋Ag同位体比の復元に向けた予察的研究。*浅見慶志朗ECS, 安川和孝, 加藤泰浩 10:45 T7-O-7 X線CTを用いた南鳥島マンガンノジュールの核の研究：その起源に関する示唆。*寺内大貴ECS, 下村 遼, 町田嗣樹, 安川和孝, 中村謙太郎, 加藤泰浩 11:00 T7-O-8（エントリー） 南鳥島EEZにおけるマンガンノジュールの化学層序に基づく成長史の解説。*武居史也, 中村謙太郎, 町田嗣樹, 安川和孝, 大田隼一郎, 藤永公一郎, 加藤泰浩 11:15 T7-O-9（エントリー） 後方散乱強度ヒストグラムのピークフィットと海底画像の解析に基づく南鳥島周辺におけるマンガンノジュールの分布様態。*佐々木 航ECS, 安川和孝, 見邨和英, 中村謙太郎, 町田嗣樹, 加藤泰浩 11:30 T7-O-10（エントリー） 熱水噴出孔の硫化物チムニーの累帯組織と熱起電力分布―深海発電現象への考察―。*高橋美咲, 岡本 敦, 山田亮一, 佐藤義倫, 野崎達生 11:45 T7-O-11（エントリー） 独立成分分析によって抽出された沖縄トラフ伊是名海底熱水鉱床の地球化学的特徴。*森山健一, 安川和孝, 中村謙太郎, 野崎達生, 高谷雄太郎, 加藤泰浩 12:00 T7-O-12（エントリー） Re-Os年代測定法に基づく兵庫県明延鉱床における鉱化時期の検討。*小笠原光基ECS, 大田隼一郎, 石田美月, 中村謙太郎, 安川和孝, 藤永公一郎, 加藤泰浩	09:00 T8-O-1 琉球前弧の応力場と沖縄トラフのリフティングの約10万年前の変化。*大坪 誠, 山路 敦 09:15 T8-O-2 伏在する活断層の周辺地域における小断層を用いた応力逆解析の適用：1984年長野県西部地震の震源地域における例。*西山成哲ECS, 中嶋 徹, 後藤 翠, 箱岩寛晶, 長田充弘, 島田耕史, 丹羽正和 09:30 T8-O-3 歪み集中帯における第四紀応力の均一・不均一と可検出性。*大橋聖和, 田村友識 09:45 T8-O-4（招待講演） 微小地震の震源メカニズム解に基づく日本列島内陸部のストレスマップ。*内出崇彦, 椎名高裕, 今西和俊 10:15（休憩） 10:30 T8-O-5（エントリー） 堆積岩物性と応力逆解析から明らかにする宮崎層群の発達史。*吉本剛瑞, 大森康智, 千代延 俊, 張 鋒, 山本由弦 10:45 T8-O-6 応力逆解析と性状比較による断層の区分と成因評価。*小林健太, 石井拓也, 馬 寅瀚, 林 宏樹, 林 茉莉花 11:00 T8-O-7 流体供給源周辺における三次元応力状態の空間変化：中新統田辺層群に貫入した碎屑岩脈群を用いた古応力解析。*安邊啓明ECS 11:15 T8-O-8（エントリー） 沈み込みプレート境界浅部遷移帯におけるメランジュ形成時の流体圧比の地質学的制約。*細川貴弘, 橋本善孝, 乾 宏樹, 本田和輝 11:30 T8-O-9（招待講演） 応力解析史。*山路 敦 12:00（総合討論ほか）	09:00 G1-O-1 沖縄トラフ北部陸棚斜面における広域炭酸塩岩の分布の可能性。*青木 智, 南 宏樹, 川村紀子, 齋藤京太, 川上友希 09:15 G1-O-2 地震性混濁流の発生を決めるもの：地震動による表層堆積物再懸濁と堆積物強度強化。*池原 研, 宇佐見和子, 金松敏也 09:30 G1-O-3 フィリピン海背弧海盆におけるマントルかんらん岩の産出と研究の展望。*小原泰彦 09:45 G1-O-4 複合的物理探査による表層型メタンハイドレート賦存形態の把握―最上トラフ酒田海丘（仮称）の例。*浅田 美穂, 小森省吾, 横田俊之 10:00（休憩） 10:15 G1-O-5 秋田県男鹿半島鶴ノ崎における中新世巨大コンクリーション中の鯨類化石とコンクリーションの成因。*長澤 一雄, 渡部 晟, 澤木博之, 渡部 均, 川辺孝幸 10:30 G1-O-6 沈み込み帯での熱分解起源のメタンと水素の生成, 排出, 移動。*鈴木徳行, 小池恒太郎, 亀田 純, 木村 学 10:45 G1-O-7 房総半島鮮新統清澄層のタービダイトマッドおよび半遠洋性泥岩の堆積学的・有機地球化学的特徴。*加瀬善洋, 朝日啓泰, 沢田 健, 伊藤 慎 11:00（休憩） 11:15 G1-O-8 愛知県領家変成帯の足助剪断帯シュードタキライトの形成過程。石井智大, *道林克禎 11:30 G1-O-9 縮小模型による変形構造の再現：最近の実験材料開発から。MASSARO Luigi, ADAM Jurgen, *山田泰広 11:45 G1-O-10（エントリー） 歪速度変化および破壊強度変化による粒状体内部の歪分布。*八塚伸明, 月俣涼太, 坂口有人 12:00 G1-O-11 紀伊半島北山川流域の四万十帯に発達するリニアメント群の構造特性。*木村克己, 金子 誠, 菊地輝行

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※* 太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

(20)

■ 9月17日（日）午前

会場	口頭第7会場（共北38：吉田南総合館北棟）
	T3. 大地と人間活動を楽しみながら学ぶジオパーク
	座長：山崎由貴子，郡山鈴夏，藤原勇樹
9：00	
	10:00 T3-O-1
	ChatGPTのジオパークへの活用：可能性と課題，*天野一男
	10:15 T3-O-2（エントリー）
	南房総の想定ジオサイト，*吉岡拓郎ECS，竹山翔悟，高木秀雄
	10:30 T3-O-3
	下部白亜系銚子層群に挟在する礫岩から産出したペルム紀及び
	三畳紀の微化石：ジオパークにおける地質年代の“拡張”，*伊
	藤 剛，武藤 俊，岩本直哉
	10:45 T3-O-4
	大学，民間企業，自治体，ジオパークの連携によって再出現し
	た巨大スランプ露頭，*金子一夫，荒戸裕之，山本由弦，山田泰
	広，白石和也，千代延 俊，保柳康一，國香正念，吉本剛瑠，関
	山優希
	11:00（休憩）
	11:15 T3-O-5
	“絵”になる旅～心をつかむパンフレットづくり～，*竹本健太
	11:30 T3-O-6
	ユニバーサル アウトドア ジオツーリズムへの試み，*脇田浩
	二，小原北土，ウィルソン ジョアナ
	11:45 T3-O-7
	桜島・錦江湾ジオパーク，錦江湾エリアのジオストーリー，*森
	野善広，高木宏二，谷 彩音，片野真帆，紫垣真充，山口裕史

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者，（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演

第 130 年学術大会（2023 京都大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 18 日（月・祝）午前

会場	口頭第 1 会場（4 共 11：吉田南 4 号館）	
	T1. 岩石・鉱物の変形と反応	
	座長：岡崎啓史, 宇野正起, 向吉秀樹	
8：45	08:45 変形中のナノキャビティ形成をきっかけとする km スケールの延性破壊。*イヨ トーマス  , 重松紀生, ウォリス サイモン, 住田達哉, 張 春傑, 氏家恒太郎, 香取拓馬, 宮川歩夢	T1-O-11
	09:00 阿武隈山地東縁, 社地神剪断帯沿いに産する石灰岩マイロナイトの変形条件と変形史。*横山裕見  , 武藤 潤, 長濱裕幸	T1-O-12
	09:15 根尾谷断層ボーリングコアの最新すべり面に認められる高帯磁率異常。*大谷具幸, 青木駿典, 山田樹生	T1-O-13
	09:30 面構造の定量化：ホルンフェルスの変形解析。*増田俊明, 酒井瑞帆, 大森康友, 楠 賢司	T1-O-14
	T2. 変成岩とテクトニクス 	
	座長：北野一平, 中嶋 徹	
	10:00 ジルコン中のメルト・流体包有物に記録された複数の造山運動。*中嶋 徹, 仁木創太, 工藤駿平, 河上哲生, 東野文子, 平田岳史, 酒井治孝	T2-O-1
	10:15 Raman spectroscopy and thermometry analysis of carbonaceous materials from pelitic rocks of the Barovian zones in the Himalayan metamorphic belt。*HAFIZ U. REHMAN, RENA GOTANDA, YUI KOUKETSU	T2-O-2
	10:30 藍晶石中に認められる負の残留圧力を保持する石英の評価：スロベニア・ポホリエ山地に産する泥質片麻岩の例。*田口知樹, 小林記之	T2-O-3
	10:45 チェコ共和国・ボヘミア地塊に産する輝石を含む珪長質グラニュライトの変成温度圧力履歴。*内藤美桜  , 山根健輔, 中村大輔, 平島崇男, マルチン スフォイッカ	T2-O-4 (エントリー)
	11:00 粗粒ザクロ石は最高変成時の組成を保存するか。*池田 剛, 後藤 さおり	T2-O-5
	11:15 鳥取県若桜のザクロ角閃岩とトロニウム岩：古生代スラブ融解の証拠？*高橋瑞季, 遠藤俊祐	T2-O-6 (エントリー)
	11:30 栃木県西部足尾山地から見出された片麻岩の温度圧力条件。*北野一平	T2-O-7
	11:45 東五良津岩体のザクロ石グラニュライトの変成温度圧力条件。岡村知樹, *中村大輔, 青矢陸月	T2-O-8

口頭第2会場 (4 共 21：吉田南4号館)

T6. 堆積地質学の最新研究 

座長：白石史人，足立奈津子

09:00 T6-O-1 (エントリー)

和歌山県由良地域に分布する鳥巢石灰岩（上部ジュラ系）で見られる被覆性微生物類*Lithocodium*が古太平洋での礁形成に果たした役割。*船場大輝，江崎洋一，足立奈津子

09:15 T6-O-2

堆積環境の違いを反映した炭素同位体比の差異に基づく層序対比の新手法 - アブダビ沖セノマニアン階炭酸塩堆積物の事例 -。*山本和幸，高柳栄子，アルジュネイビ マリアム，アルファルファン ザハラ，佐藤時幸，辻 喜弘，井龍康文

09:30 T6-O-3

モンゴル西部ゴビ・アルタイ地域から産するセメントに富む古杯類礁（カンブリア系第二統）の構築と地球生物学的な意味。*足立奈津子，南 直斗，江崎洋一，劉 建波，渡部真人，ALTANSHAGAI Gundsambuu，ENKHBAATAR Batkhuyag，DORJNAMJAA Dorj

09:45 T6-O-4

南中国の最下部トリアス系スロンボライトの特性と含まれる海綿状組織の起源—大量絶滅事変の影響の再評価—。*江崎洋一，前田宗孝，足立奈津子，劉 建波

10:00 T6-O-5

鹿児島県喜界島中～上部更新統琉球層群の層序と分布の再検討（予報）。*松田博貴，佐々木圭一，得重和希

10:15 (休憩)

10:30 T6-O-6 (エントリー)

沖縄県久米島の礁性微生物皮殻中に見られるスフェライトの起源。*佐々木佑二郎，藤田和彦，富岡尚敬，高橋嘉夫，白石史人

10:45 T6-O-7

ペーパーシンラフトとコーティッドバブルの形成過程：気液界面におけるCaCO₃沈殿。*白石史人，秋元貴幸，富岡尚敬，甕聡子，高橋嘉夫

11:00 T6-O-8

徳之島産トゥファからのプラントオパール抽出と植生記録。*加藤大和，村田 彬，狩野彰宏

11:15 T6-O-9

三重県霧穴の石筍に記録された過去14000年間の気候変動。村田 彬，*狩野彰宏，加藤大和

11:30 T6-O-10 (招待講演)

宝石サンゴの持続的利用に向けた地球科学的研究。*奥村知世，公文富士夫

口頭第3会場 (4共30:吉田南4号館)

T12. 地球史 

座長: 佐藤峰南, 吉丸 慧, 富松由希

08:45

後期三畳紀カーニアン多雨事象におけるパンサラッサ海の海洋無酸素化と遠洋性生物応答. ***富松由希**, 野崎達生, 尾上哲治, 松本廣直, 佐藤峰南, 高谷雄太郎, 木村純一, 常 青, Rigo Manuel

T12-O-1

09:00

前期三畳紀の極端温暖化と直後の気候寒冷化に駆動された海洋無酸素化. ***高橋 聡**, 山北 聡, 武藤 俊, 小嶋 智, 海保邦夫, 山崎慎一, 土屋範芳, 熊 怡俊, ポールトン サイモン, ポール ウィグナル, 松本廣直, 板井啓明, 藤林 恵

T12-O-2

09:15

美濃帯中部三畳系層状チャートにおける放散虫・コノドント化石層序と化学層序. ***塩原拓真**, 尾上哲治, 曾田勝仁

T12-O-3 (エントリー)

09:30

X線マイクロCT技術をもちいた生物源シリカの密度測定—放散虫骨格のタフォノミー解明に向けて. ***松岡 篤**, 木元克典

T12-O-4

09:45

層状チャートを対象とした新しい放散虫・コノドント化石抽出法. ***尾上哲治**, 富松由希, 堀 早紀子, リゴ マニュエル

T12-O-5

10:00 (休憩)

10:15

蝦夷層群羽幌川層の堆積岩中に含まれる花粉・胞子化石の色に記録された古生物学的・地質学的情報解読の試み. ***早川万穂**, 中村英人, 池田雅志, 沢田 健, 高嶋礼詩, 西 弘嗣

T12-O-6 (エントリー)

10:30

北海道および北米カリフォルニアにおける白亜紀海洋無酸素事変層準堆積岩のバイオマーカー分析: 古植生変動の復元と比較. ***池田雅志**, 沢田 健, 安藤卓人, 中村英人, 高嶋礼詩, 西 弘嗣

T12-O-7

10:45

Aptian期に西太平洋地域で発生した巨大津波とその波源の候補. ***藤野滋弘**, 前田晴良

T12-O-8

11:00

北海道むかわ町の蝦夷層群函淵層産絶滅ソテツ類化石のバイオマーカー分析による分子化石の探索. ***固本悠杜**, 中村英人, 沢田 健

T12-O-9 (エントリー)

11:15

モンゴル・ゴビ砂漠上部白亜系における年代層序確立: 脊椎動物化石相変遷の理解に向けて. ***千葉謙太郎**, 実吉玄貴, 青木一勝

T12-O-10 (招待講演)

11:45

神奈川県上部中新統大磯層から産出したサイ科化石の分類学的再検討. ***半田直人**, 樽 創

T12-O-11

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第 130 年学術大会（2023 京都大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 18 日（月・祝）午前

会場	口頭第 4 会場（共北 25：吉田南総合館北棟）	口頭第 5 会場（共北 27：吉田南総合館北棟）	口頭第 6 会場（共北 37：吉田南総合館北棟）
	T13. 沈み込み帯・陸上付加体	T16. 都市地質学：自然と社会の融合領域 	G-2. ジェネラル サブセッション環境地質・第四紀地質・岩石鉱物火山
	座長：内田泰蔵, 田代圭吾	座長：野々垣 進, 中澤 努	座長：吉田 剛, 長橋良隆, 竹下欣宏, 宇野正起
9：00	09:00 T13-O-1 ロックエバル分析による短時間地質温度計の可能性。*山本由弦, 小林唯乃, 関山優希, 吉本剛瑠, 千代延 俊, Bowden Stephen 09:15 T13-O-2（エントリー） 陸上付加体の過去地震断層が記録する熱イベントの二次磁化。*内田泰蔵, 橋本善孝, 山本裕二, 畠山唯達 09:30 T13-O-3 スリップゾーンを伴う破砕帯における岩石流体間反応：四国白亜系四万十帯横浪メランジュ。*橋本善孝, 川路真子, 石川剛志, 濱田洋平 09:45 T13-O-4 室戸半島, 四万十帯中新統葉生層群における冷湧水炭酸塩岩。*原 英俊, 宇都宮正志, 松元日向子, 中村 拓, Satish-Kumar M. 10:00 T13-O-5 有馬型塩水のストロンチウム安定同位体組成 ($\delta^{88/86}\text{Sr}$)：前弧スラブ流体生成時の同位体分別。*可児智美, 三澤啓司, 森川徳敏, 風早康平, 楠原文武, 米田成一, 寺門靖高 10:15 (休憩) 10:30 T13-O-6 (招待講演) 東北沖地震震源断層の強度回復・応力蓄積過程の解明・IODP Exp.405 JTRACK及び広域観測による新たな研究プロジェクト提案。*小平秀一, 氏家恒太郎, 廣瀬文洋, 林 為人, 日野亮太, 村恭之, 久保田達矢 11:00 T13-O-7 2011東北地方太平洋沖地震の震源域における日本海溝底の地形と地質：有人潜水艇を用いたその場観察。*植田勇人, 北里 洋, ボンドトッド, マロニ ペイジ, ジャミーソン アラン, プレッシュードロップ号リング・オブ・ファイアー・エクスペディション第二次航海科学チーム 11:15 T13-O-8 相模湾プレート境界域の堆積場と冷湧水から推定した断層活動。*芦 寿一郎, 三澤文慶, 金松敏也, 池原 研 11:30 T13-O-9 潮岬海底谷の潜航調査に基づく南海付加体発達史の更新と大地震セグメント境界の地質学的実態解明：「よこすか」YK23-10S 航海速報。*山口飛鳥, 福地里菜, 濱田洋平, 高下裕章, 川村喜一郎, 井尻 暁, 奥田花也, 浜橋真理, 照井孝之介, 細川貴弘, 辰巳寛二, 芦 寿一郎, 笠谷貴史, 木下正高, 亀尾浩司, 久保田好美, 辻 健, 白石和也, 木村 学 11:45 T13-O-10 室戸沖稠密地震探査から推定した前弧域の熱流量分布：海山沈み込みの影響。*木下正高, 白石和也, 中村恭之	09:00 T16-O-1 時代の違う谷埋め軟弱層の比較：埼玉県南東部の沖積層と更新統下総層群木下層。*小松原純子, 09:15 T16-O-2 東京低地の沖積層の層相変化・埋没段丘礫層の分布に伴う地盤震動特性の変化：1923年関東地震の被害との関連。*中澤 努, 長 郁夫, 小松原純子, 坂田健太郎, 野々垣 進, 中山俊雄 09:30 T16-O-3 関東平野中央部大宮台地における更新統下総層群の層序および層相変化の検討。*米岡佳弥ECS, 坂田健太郎, 中澤 努, 中里裕臣 09:45 T16-O-4 中部更新統下総層群蔽層下部の指標テフラ。*中里裕臣, 中澤 努, 坂田健太郎, 納谷友規 10:00 T16-O-5 大阪堆積盆地の堆積変遷の特徴について－長尺ボーリングデータを用いた検討－。*北田奈緒子, 井上直人 10:15 (休憩) 10:30 T16-O-6 豪雨による谷埋め盛土の崩落メカニズム。*吉村辰朗 10:45 T16-O-7（エントリー） トンネル内で盤ぶくれを引き起こす泥質岩の最高経験温度。*関山優希ECS, 望月一磨, 今井啓文, 上野 光, 山本由弦 11:00 T16-O-8（エントリー） サブボトムプロファイラーデータによって明らかになった大阪湾における小断層の分布と沖積層の音響層序区分。*岩波知宏, 大塚宏徳, 松野哲男, 島 伸和, 浜橋真理, 佐野 守, 井和丸光, 鈴木啓太, 杉岡裕子 11:15 T16-O-9 機械学習によるボーリングデータの地層対比に有効な地盤の特徴量の検討。*野々垣 進, 根本達也, 升本真二 11:30 T16-O-10 2021年熱海土石流災害の発生原因の究明のための地球科学的研究（その2）。*北村晃寿 11:45 T16-O-11 地質地盤情報の活用と法整備－国民の安全・安心のために－。*栗本史雄	09:00 G2-O-1 養老-桑名-四日市断層帯と濃尾傾動地塊の特異なふるまい。*小松原 琢 09:15 G2-O-2（エントリー） 常時微動観測から推定した新潟県津南町における地盤特性と宮野原断層の関係。*中島展之, 小荒井 衛, 先名重樹, 金子朋紀 09:30 G2-O-3 千葉県九十九里沿岸とその沖から湧出する天然ガスの出現分布。*吉田 剛, 石井光廣, 鈴木孝太, 小倉利雄, 小島隆宏 09:45 G2-O-4 現生花粉酸素同位体比の国内地理分布と気象との関係性。*朝日博史, 山田圭太郎, 中川 毅 10:00 G2-O-5 江島周辺水域の湖底地形と近世以降の埋立。*渡辺正巳, 平石 充 10:15 G2-O-6 ブリニース噴火および大規模火砕流噴出に伴う降下テフラの火山ガラスの形状解析。*長橋良隆, 里口保文, 中川和重 10:30 (休憩) 10:45 G2-O-7 北海道南西部, 濁川カルデラ噴出物中の軽石に認められる高Ba異常とその原因: 変質を受けたりサイクル軽石の認定。*金田泰明ECS, 長谷川 健, 井村 匠 11:00 G2-O-8 沖縄県名護市安部海岸で海浜堆積物中に観察された軽石を含むイベント堆積物について ～漂流軽石の地層化プロセスの検討～。*石毛康介, 上澤真平, 竹内晋吾, 土志田 潔, 諏訪由起子 11:15 G2-O-9 大黒海山ROV調査による溶融硫黄湖における黄鉄鉱の分布の解明。*沢田 輝ECS, Chong Chen, 岩本久則, 高井 研 11:30 G2-O-10（エントリー） カルサイト合成実験における初生包有物の形成過程。*山内彩華, 坂口有人 11:45 G2-O-11 北海道鹿追町然別と愛別町愛別鉱山に産する多環芳香族炭化水素鉱物, 北海道石とカルパチア石。*石橋 隆, 田中陵二, 萩原昭人, 井上裕貴

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第 130 年学術大会（2023 京都大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 18 日（月・祝）午前

会場	口頭第 7 会場（共北 38：吉田南総合館北棟）	
	T10. 文化地質学 	
	座長：猪股雅美, 森野善広, 鈴木寿志	
8 : 45	08:45	T10-O-1
	萬世大路栗子トンネル西坑口周辺の流紋岩の岩石記載. *大友幸子, 田宮良一	
	09:00	T10-O-2
	沖縄県内で使用されていた石臼の岩石学的特徴について. *川村教一	
	09:15	T10-O-3
	石灰岩の性質と利用を体験的に学ぶ学習プログラム. *岡本 研	
	09:30	T10-O-4
	地域に根ざす地学教育教材の開発～指定文化財の活用法～. *坂本昌弥 	
	09:45（休憩）	
	10:00	T10-O-5
	土佐硯の石材評価：鉱物単体分離解析に基づく検討. *浦本豪一郎, 中村璃子, 朝山航大, 壹岐一也, 多田井 修, 濱田洋平, 谷川 亘, 廣瀬丈洋	
	10:15	T10-O-6
	青石の非破壊分析による土佐藩15代藩主山内豊信の墓石の産地同定. *谷川 亘, 徳山英一, 望月良親, 高木翔太, 中村璃子, 多田井 修, 山本哲也, 近藤康生	
	10:30	T10-O-7
	高知県土佐清水市における中世石造物の石材と流通. *先山 徹, 黒川信義, 谷川 亘, 森山由香里, 海邊博史, 田村公利	
	10:45	T10-O-8
	国産建築石材の原石調査とカタログ作成. *乾 睦子, 西本昌司, 梅村綾子, 中澤 努	
	11:00（休憩）	
	11:15	T10-O-9
	伏見稲荷・稲荷山の七神蹟周辺の石材について. *三上禎次, 貴治康夫	
	11:30	T10-O-10（招待講演）
	周辺地質からみた京都の伝統産業. *貴治康夫	

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※*太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第 130 年学術大会（2023 京都大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 18 日（月・祝）午後

会場	口頭第 1 会場（4 共 11：吉田南 4 号館）	
	T2. 変成岩とテクトニクス 	
	座長：田口知樹, 遠藤俊祐	
15：00	15:00	T2-O-9
	変成岩中の微破碎作用の意義. * 西山忠男 , 森 康, 重野未来	
	15:15	T2-O-10
	マグマ形成領域の自己組織化臨界状態と深部変成帯及び浅部ブルトンの形成. * 宮崎一博 , 池田 剛, 村岡やよい	
	15:30	T2-O-11 (エントリー)
	高压変成岩上昇機構：2次元動力学モデリングで青海エクロジャイトの変成履歴は再現できるか？* 志関弘平 , 辻森 樹	
	15:45	T2-O-12
	変成岩体の間欠の上昇過程. * 鳥海光弘	
	16:00 (休憩)	
	16:15	T2-O-13 (エントリー)
	沈み込み境界の深部スロー地震発生領域における最大剪断応力分布とその時間変化: 西南日本三波川沈み込み帯の例. * 小山雪乃丞  , ウォリス サイモン, 永治方敬, 青矢陸月	
	16:30	T2-O-14 (エントリー)
	三波川変成帯・和歌山県紀の川市藤崎に産する緑簾石レンズ中に記録された昇温期から変成ピークにかけての含ホウ素流体活動. * 横井雅範  , 河上哲生	
	16:45	T2-O-15 (エントリー)
	四国中央部三波川帯南北トラバース試料に記録されたスラブ流体：フェンジャイトの酸素・水素同位体地球化学の可能性. * 原田浩伸 , 辻森 樹, ファインマン モーリン, パストルガランダニエル, アルバレスパレロ アントニオ, 青木一勝, 板谷徹丸	
	17:00	T2-O-16
	前弧域蛇紋岩のB同位体比傾向：グローバルリファレンス値提案のための取り組み. * 辻森 樹 , 小橋知佳, 山田千夏, 常 青	
	17:15	T2-O-17
	神居古潭変成帯幌加内地域：Triple point青色片岩の模式地. * 平島崇男 , 藪田 渉, 皆川広太, 片岡晃一, 木下周祐, 道免和之	

口頭第2会場 (4 共 21：吉田南 4 号館)

T6. 堆積地質学の最新研究 

座長：三瓶良和, 山口悠哉

15:00 T6-O-11 (エントリー)

北海道日高山脈に分布する周氷河性斜面堆積物の有機分子組成の特徴. ***福地亮介**, 沢田 健, 小安浩理, 石丸 聡

15:15 T6-O-12

Reconstruction of terrigenous organic matter transport by biomarker analysis of Miocene sandy to muddy shallow water deposits of Brunei Darussalam. ***Adam Ismail**, Amajida Roslim, Ken Sawada

15:30 T6-O-13

化学堆積学シーケンスからみた中期中新世の北海道石狩堆積盆および日高堆積盆の有機物堆積過程. ***朝日啓泰**, 沢田 健

15:45 T6-O-14

北海道根室層群の白亜紀/古第三紀境界堆積岩のバイオマーカー分析による古環境復元. ***林 和生**, 池田雅志, 沢田 健, 林圭一, 高嶋礼詩, 西 弘嗣, 黒田潤一郎, 太田 映

16:00 (休憩)

16:15 T6-O-15 (エントリー)

下部白亜系手取層群北谷層北谷恐竜化石発掘現場の蛇行河川堆積物中有機物に記録された堆積環境の多様性. ***矢野況紀**, 中村英人, 湯川弘一, 安藤卓人

16:30 T6-O-16

北部北太平洋アラスカ沖における過去1000万年間の海洋基礎生産および陸源物質供給の変動. ***星 恒太郎**, 福村朱美, 沢田 健

16:45 T6-O-17

堆積性有機物のATR-FTIR分析による起源推定法の開発. ***安藤卓人**, 松岡数充

17:00 T6-O-18

セマンティックセグメンテーションを利用した砂岩薄片試料の画像解析の効率化. ***松井良一**

口頭第3会場（4共30：吉田南4号館）

T12. 地球史 

座長：富松由希, 桑野太輔

15:00

T12-O-12（エントリー）

ガーナ・アシャンチ帯ケープスリーポイント地域における火山性堆積層序の復元と年代制約. *吉丸 慧 , 清川昌一, 伊藤 孝, 堀江憲路, 竹原真美, テテ ジョージ M., ニャメ フランク K.

15:15

T12-O-13（エントリー）

カナダ、ラブラドルのヌリアック表成岩（約39億年前）の硫化鉱物に対する局所4種硫黄同位体分析：初期地球の大気化学と硫黄循環. *三堀遼太, 牛久保孝行, 清水健二, 澤木祐介, 小宮 剛

15:30

T12-O-14

原生代の大气酸素濃度変動と生命進化：変動が駆動する真核生物の食作用生命進化. *小宮 剛

15:45

T12-O-15

北部ベトナムに分布する上部デボン系のケルワッサーイベント. *小松俊文, 川島大稀, 森 晃太郎, 兒子修司, 山田敏弘, グエン ダック フォン, フン ザン デイン

16:00（休憩）

16:15

T12-O-16

チチュルブクレーター内の古第三紀石灰岩中に記録されたオスミウム同位体比変動. *佐藤峰南, 石川 晃, Lowery Christopher, Gulick Sean, Morgan Joanna

16:30

T12-O-17（招待講演）

房総半島周辺の鮮新－更新統におけるアルケノン古水温復元. *梶田展人

17:00

T12-O-18（エントリー）

紀伊水道における貝形虫群集の時空間変動と黒潮との関係. *竹内美優, 岩谷北斗, 天野敦子, 入月俊明, 有元 純, 鈴木克明, 板木拓也

17:15

T12-O-19

日本人はいつまで「第三紀」を使うのか？ *鈴木寿志

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第 130 年学術大会（2023 京都大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 18 日（月・祝）午後

会場	口頭第 4 会場（共北 25：吉田南総合館北棟）	口頭第 5 会場（共北 27：吉田南総合館北棟）	口頭第 6 会場（共北 37：吉田南総合館北棟）
	G-4. ジェネラル サブセッション地学教育・地学史 座長：矢島道子, 川村教一	T16. 都市地質学：自然と社会の融合領域  座長：北田奈緒子, 田村嘉之	G-3. ジェネラル サブセッション応用地質・古生物 座長：山崎新太郎, 西山賢一, 加瀬善洋
15：00	15:00 G4-O-1 日本の女性で初めて理学博士を取得した保井コノ（1880-1971）. *矢島道子 15:15 G4-O-2 新島襄の学んだ地質学. *林田 明 15:30 G4-O-3 明治時代におけるbasaltの和名定着の過程. *川村教一 15:45 G4-O-4 ドローン空撮による地球科学・環境科学教育用映像資料の作成と活用. *田原敬治	15:00 T16-O-12（招待講演） 都市と地質学の関わり：開発・環境・災害＜人類が集中して住む領域の大地の科学＞. *竹村恵二 15:30 T16-O-13 平尾石灰岩（福岡県）と平尾台の自然景観についてー自然保護と利用の持続的な循環を目指してー. *太田泰弘 15:45 T16-O-14 産業廃棄物最終処分場等の立地条件としての地質環境についてー社会インフラから見た条件ー. *田村嘉之 16:00 T16-O-15 世界の地盤沈下の現状－TISOLS2023参加報告. *藤崎克博 , 古野邦雄 16:15（休憩） 16:30 T16-O-16 千葉県の観測井における地下水温度の上昇傾向. *香川 淳 , 古野邦雄 16:45 T16-O-17 千葉県の養老川下流域における沖積層の層序と分布. *小島隆宏 , 風岡 修, 中澤 努, 吉田 剛 17:00 T16-O-18 液状化－流動化被害と人工地層の水文地質構造との関係：2011年東北地方太平洋沖地震時における東京湾岸埋立地北部での地質災害に関する地質調査から. *風岡 修 , 小島隆宏 17:15 T16-O-19 鹿児島県霧島市国分地区の人工地層の鉱物種構成. *高嶋 洋 , 張 池	15:00 G3-O-1 砂岩の変形と風化がもたらした深層崩壊の集中的発生場. *山崎新太郎 15:15 G3-O-2 愛媛県宇和島市に分布する崩壊堆積物に含まれる古土壌の ¹⁴ C年代. *西山賢一 , 露口耕治, 大矢基弘, 佐竹一希, 川本真由美 15:30 G3-O-3 航空レーザ測量データから取得した森林情報を活用した斜面災害リスクの検討. *小荒井 衛 , 村上 亘, 桑原祐史, 村山いであ, 渡辺啓太 15:45 G3-O-4 『電子野帳』ールートマップ・地質図作成用iPadアプリの開発ー. *亀高正男 , 北川博也, 豊田 守, 浪久 信, 柴原 幹, 佐藤 明 16:00 G3-O-5 房総半島に分布する更新統上総層群における泥質岩の鉱物組成とその時空的变化：油ガス探鉱やCO ₂ 地下貯留におけるキャップロック評価への示唆. *綿貫峻介 , 荷福 洸, 小林佑輝, 伊藤 慎 16:15（休憩） 16:30 G3-O-6（エントリー） 貝形虫化石群集解析に基づく島根県出雲平野東部の前期完新世の古環境変化. *大植 和典 , 入月俊明, 中島 啓, 瀬戸浩二, 香月興太, 中西利典, 齋藤文紀 16:45 G3-O-7 中生代アンモノイドPhylloceratinaとLytoceratinaの隠れた“共有原始形質”. *生形貴男 17:00 G3-O-8 琉球列島栗国島の鮮新統筆嶺層の大型植物化石群集：年代と植物化石群集の特徴. *矢部 淳 , 植村和彦

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第 130 年学術大会（2023 京都大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 18 日（月・祝）午後

会場	口頭第 7 会場（共北 38：吉田南総合館北棟）	
	T15. 地域地質・層序学：現在と展望	
	座長：佐藤大介, 松原典孝	
15：00	15:00	T15-O-1（招待講演） 野外調査をベースとした付加体研究45年. *脇田浩二
	15:30	T15-O-2（エントリー） 常森層の堆積場と形成史. *志原早紀, 辻 智大, 檀原 徹, 岩 野英樹, 平田岳史
	15:45	T15-O-3 四国西予ジオパーク南西部における鳥巢式石灰岩体の再検討. *堀 利栄, 平岡美侑, 佐野晋一
	16:00（休憩）	
	16:15	T15-O-4 東京都日の出町水口ユニットの地質 -黒瀬川帯東端部の再検討-.
	*宮下 敦	
	16:30	T15-O-5 白山周辺地域の下部白亜系手取層群別山谷層の層序と植物化石 群. *酒井佑輔, 藺田哲平, 寺田和雄
	16:45	T15-O-6（招待講演） 人工知能を用いた「砂つぶ」自動鑑定システム. *板本拓也, 宮 川歩夢, 松本恵子, 下司信夫

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
※ * 太字氏名：代表発表者、（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演

第 130 年学術大会（2023 京都大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 19 日（火）午前

会場	口頭第 1 会場（4 共 11：吉田南 4 号館）	
	T2. 変成岩とテクトニクス 	
	座長：大柳良介	
8：45	08:45	T2-O-18 山口県南部、大津島・野島産変成岩類の碎屑性ジルコンU-Pb年代と西南日本の地帯構造。*LU ZEJIN, 大和田正明
	09:00	T2-O-19 飛騨片麻岩体中の弱変成閃緑岩・斑れい岩のジルコンU-Pb年代と飛騨変成作用。*加納 隆
	09:15	T2-O-20（エントリー） 含水石英岩の定常再結晶組織における温度・歪速度・封圧依存性。*中小路一真ECS, 清水以知子
	09:30	T2-O-21（エントリー） マントルウェッジのCO ₂ 交代作用による滑石生成プロセスとすべり挙動に対する実験的制約。*沖野峻也ECS, 岡本 敦, 喜多倅子, 澤 燦道, 武藤 潤
	09:45	T2-O-22 海洋プレート最上部マントルの数100mスケールの構造安定性と地震波特性。*道林克禎, 柿畑優季, 夏目 樹
	T5. テクトニクス	
	座長：羽地俊樹, 藤内智士	
	10:15	T5-O-1（招待講演） 伊豆衝突帯周辺の中新世地殻変形。*星 博幸
	10:45	T5-O-2 西南日本の白亜紀古地磁気極移動曲線にヘアピンターンは存在するか。*宇野康司, 尾原帆香, 古川邦之, 金丸龍夫
	11:00	T5-O-3（エントリー） 高知県室戸半島に露出する古第三系室戸層に見られる乱堆積層の形成環境と堆積年代。*松元日向子ECS, 藤内智士, 原 英俊
	11:15	T5-O-4 イザナギー太平洋海嶺の接近・沈み込みに伴う発達史：紀伊半島・四国に分布する四万十帯付加体中の礫岩。*志村佑亮, 原英俊, 常盤哲也, 中村佳博, 浅原良浩
	11:30	T5-O-5（エントリー） 天草の白亜系と始新統の構造差：古第三紀初頭の西南日本－九州前弧域の表層テクトニクス。*牛丸健太郎ECS, 山路 敦
	11:45	T5-O-6 室戸岬斑れい岩体のジルコンU-Pb年代と中期中新世西南日本沈み込み縁辺における位置付け。*新正裕尚, 羽地俊樹, 仁木創太, 折橋裕二, 佐々木 実, 平田岳史

口頭第2会場（4共21：吉田南4号館）

T6. 堆積地質学の最新研究

座長：松本 弾

08:45

X線CTスキャナーを活用した合成地震波形の可能性。*一井直宏, 芦 寿一郎, 池原 研, 大上隆史, 阿部信太郎, 多良賢二

T6-O-19

09:00

駿河湾奥で確認された2つの堆積過程－富士川と三保半島沖の例－。*坂本 泉, 横山由香, 中村 希, 柴尾創士, 平 朝彦

T6-O-20

09:15

礫の有無による水中土石流の変化。*金崎勇斗, 清里弘志, 正田陽宏, 湯浅紀之, 横川美和

T6-O-21

09:30

定常的海水準変動サイクルのもとで実現する下流域沖積系の無下刻フェイズ：三次元水槽実験による検証。*武藤鉄司, 本宮圭悟, 飯嶋耕崇, 大野研也, 王 俊輝

T6-O-22

09:45

前弧・背弧堆積盆発展埋積トレンドと後背テクトニックサイクル・堆積システム・シーケンス。*高野 修

T6-O-23

10:00

中新統田辺層群白浜層の潮汐低地堆積物に挟在する巨大津波堆積物。*奈良正和, 石塚創太, 今井 悟, 藤野滋弘

T6-O-24

10:15

（休憩）

10:30

環境DNAで見る現世と過去の巨大津波の痕跡。*篠崎鉄哉, 井口 亮, 西島美由紀, 後藤和久, 藤野滋弘

T6-O-25

10:45

有機・無機地球化学分析による869年貞観津波の浸水域復元。*古明地海杜, 篠崎鉄哉, 菅原大助, 石澤堯史, 池原 実, 藤野滋弘

T6-O-26（エントリー）

11:00

津波堆積物の逆解析による2011年東北地方太平洋沖地震津波の断層パラメーター推定。*飯嶋耕崇, 成瀬 元, 菅原大助

T6-O-27

11:15

室戸岬東方沖のタービダイトの堆積環境と古地震履歴。*芦 寿一郎, 村山雅史, 中西 諒, 金松敏也

T6-O-28

11:30

半遠洋性泥質堆積物の供給源が示唆する黒潮の碎屑物長距離輸送。*齋藤 有

T6-O-29（招待講演）

口頭第3会場（4共30：吉田南4号館）

S1. 環太平洋地域における白亜紀フレアアップ

座長：河上哲生，中村佳博

10:00 S1-O-1

西南日本花崗岩・火山岩の包括的なジルコンU-Pb年代測定から明らかになった、白亜紀～古第三紀におけるパルス状の珪長質地殻形成。*谷健一郎，堤之恭，今岡照喜，堀江憲路，Dunkley Daniel

10:15 S1-O-2（招待講演）

九州の白亜紀花崗岩の年代から見る東アジア収束域の火成活動の変遷。*堤之恭，谷健一郎

10:30 S1-O-3

領家帯におけるパルス状の花崗岩質マグマ貫入と地殻の応答。*河上哲生

10:45 S1-O-4（招待講演）

西南日本愛媛県梶島に産する白亜紀深成岩に記録された白亜紀フレアアップ期の花崗岩質マグマ生成プロセス。*下岡和也ECS，長田充弘，小北康弘，高橋俊郎，谷健一郎，齊藤哲

11:00 S1-O-5（招待講演）

Linking Japan-NW Pacific plate tectonics and arc magmatism since the Cretaceous。*Jonny Wu, Tsung-Jui Wu, Ken Yamaoka

11:30 S1-O-6（招待講演）

白亜紀フレアアップイベントと中央構造線・棚倉構造線沿いの延性変形との関連性。*中村佳博，宮崎一博，長田充弘，高橋浩

11:45 S1-O-7（招待講演）

日本の白亜紀－古第三紀火成活動の時空間変遷と拡大海嶺沈み込みテクトニクスとの関係。*山岡健，ウォリスサイモン

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名：代表発表者、（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演

第 130 年学術大会（2023 京都大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 19 日（火）午前

会場	口頭第 4 会場（共北 25：吉田南総合館北棟）	口頭第 5 会場（共北 27：吉田南総合館北棟）	口頭第 6 会場（共北 37：吉田南総合館北棟）
	T11. 南極研究の最前線	T9. マグマソースからマグマ供給システムまで 	T10. 文化地質学 
	座長：足立達朗, 森 祐紀, 菅沼悠介	座長：齊藤 哲, 江島圭祐	座長：高橋直樹, 坂本昌弥, 大友幸子
8：45	08:45 T11-O-1 南極の基盤地質研究の現況と展望：東南極ドロンイングモードランドからエンダビーランドの地質と太古代～原生代の地殻発達と高温～超高温変成作用。* 外田智千 09:00 T11-O-2（招待講演） 地球物理観測から推定される南極域の地質構造の現状。* 野木義史 09:30 T11-O-3 東南極プリンスオラフ海岸の二番東岩の複変成作用の温度・圧力・年代。* 森 祐紀  , 池田 剛, 宮本知治, 外田智千, 堀江憲路, 竹原真美 09:45 T11-O-4 東南極・リュツォ・ホルム岩体, ベルナバネの原岩構成と変成年代から推定される形成テクトニクス。* 中野伸彦 , 馬場壮太郎, 加々島慎一 10:00 T11-O-5 東南極リュツォ・ホルム複合岩体のあけぼの岩に産する変花崗岩類をもたらした火成活動。* 亀井淳志 , 市田花歩, 粟田晶, 外田智千, 堀江憲路, 竹原真美, 馬場壮太郎, 北野一平, Setiawan Nugroho, Nantasin Prayath, Dashbaatar Davaa-ochir, 本吉洋一 10:15 T11-O-6 東南極セール・ロンダーネ山地, メーニパに産する異なるP-T-t履歴を示す変成岩類。* 足立達朗 , 河上哲生, 東野文子, 宇野正起 10:30 T11-O-7 東南極, セール・ロンダーネ山地の岩石学から見る下部地殻での流体移動現象の解明と地震研究への展開。* 土屋範芳 , Mindaleva Diana, 宇野正起, 奈良拓実 10:45 T11-O-8 最終間氷期の海水準・氷床量変動と固体地球の粘弾性応答。* 奥野淳一 , 石輪健樹, 菅沼悠介 11:00 T11-O-9 完新世における東南極の氷床変動復元：地質試料分析とGIAモデルによるアプローチ。* 石輪健樹  , 奥野淳一, 徳田悠希, 板木拓也, 佐々木聡史, 菅沼悠介 11:15 T11-O-10（招待講演） 海底地形に制約された完新世の東南極トッテン氷床変動。* 板木拓也 , 菅沼悠介, 関 宰, 大森貴之, 石輪健樹, 奥野淳一, 中山佳洋, 小長谷貴志, 天野敦子, 清家弘治, 山本正伸, 平野大輔, 藤井昌和, 鈴木克明, 尾張聡子, 池原 実, 阿部彩子, 青木茂 11:45 T11-O-1 トッテン氷河前縁陸棚域の堆積物元素組成が示唆する環境変動。* 鈴木克明 , 板木拓也, 菅沼悠介, 天野敦子, 清家弘治, 大森貴之, 石輪健樹, 尾張聡子 12:00 T11-O-12 ウェッデル海（パウエル海盆）のコア解析に基づく最終氷期以降の南極底層水変動。* 池原 実 , Weber Mike	09:00 T9-O-1（招待講演） 北部九州白亜紀花崗岩類の岩体区分—特に糸島花崗閃緑岩についての提言。* 村岡やよい , 宮崎一博 09:15 T9-O-2 西南日本のフレアアップにおける火山岩と深成岩の同時性。* 中島 隆 09:30 T9-O-3 東北日本, 吾妻山の最新マグマ噴火噴出物をもたらしたマグマ供給系。* 伴 雅雄 , 菅野 舜, 佐藤初洋, 井村 匠, 常松佳恵, 長谷川 健 09:45 T9-O-4 白亜紀北部九州花崗岩バソリスに対する北多久鉄質複合岩体の地質学的意義。* 江島圭祐 , 大和田正明, 亀井淳志 10:00 T9-O-5（エントリー） マグマだまり熱モデリングと斜長石の拡散モデリングの併用による深成岩体形成過程制約の適用可能性評価と三河地方深成岩体への適用。* 諸星暁之  , ウォリス サイモン 10:15 T9-O-6 葛根田地熱地域のアクティブな接触変成温度履歴と熱モデリング：地殻浅部マグマ熱水系の熱輸送メカニズム。* 宇野正起 , 岡本 敦, 土屋範芳, 赤塚貴史 10:30 T9-O-7（エントリー） 茨城県岩船閃緑岩の鉱物微量元素組成。* 山崎陽生  , 昆慶明, 江島輝美 10:45 T9-O-8 花崗岩中のジルコンに含まれるメルト包有物の均質化実験と組成解析：地質圧力計としての利用例。* 齊藤 哲 , 谷脇由華, 川島泰地, 下岡和也	08:45 T10-O-11 和歌山県南部にある熊野酸性岩類山麓にある棚田地形の分布と土石流の関係。* 此松昌彦 09:00 T10-O-12（エントリー） 中世城館跡で発生した土砂移動への地質の影響。* 猪股雅美  09:15 T10-O-13 須恵器の鉱物組成とその胎土の推定。* 小滝篤夫 09:30 T10-O-14 地形・地質が仕込み水に, そして仕込み水の性質が清酒醸造に及ぼす影響。* 久田健一郎 , 藪崎志穂, 唐田幸彦, 工藤菜々子, 奥田将生, 上用みどり, 寺本聡子, 向井伸彦 09:45（休憩） 10:00 T10-O-15 日本最大の碎屑岩脈「春採太郎」の文化地質学。* 松原尚志 10:15 T10-O-16 『榊原の貝石山』『柳谷の貝石山』の三重県天然記念物指定の経緯と現状。* 栗原行人 , 中川良平 10:30 T10-O-17 地域を重層的に捉える積み重ね：「秦野まちあるき」の実践から。* 田口公則 10:45 T10-O-18 山陰海岸ジオパーク京丹後エリア, 日本海拡大期のジオツーリズム。* 森野善広 11:00（休憩） 11:15 T10-O-19（招待講演） 庭石にみる先達の心と技。* 加藤友規 11:45 T10-O-20 岩石に精神は宿るのか。* 鈴木寿志

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※* 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第 130 年学術大会（2023 京都大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 19 日（火）午前

会場	口頭第 7 会場（共北 38：吉田南総合館北棟）	
	T15. 地域地質・層序学：現在と展望	
	座長：成瀬 元, 菊川照英, 里口保文	
9：00	09:00	T15-O-7 兵庫県姫路市夢前町勘野，菅生川河床における白亜紀ベベライ トの産状. *毛利元紀, 松原典孝, 原田正信
	09:15	T15-O-8 和歌山県袋崎における下部中新統田辺層群の泥ダイアビルと変 形構造. *中川太陽, 川村喜一郎
	09:30	T15-O-9 秋吉台若竹山周辺におけるドリーネの形状的特徴：数値地形モ デルデータを用いた検討. *曾根原崇文
	09:45	T15-O-10 蝦夷層群の統合層序と凝灰岩の放射年代に基づく白亜紀海洋無 酸素事象OAE1aの年代モデルについて－日米英共同プロジェ クトの成果－. *高嶋礼詩, Singer Bradley, Selby David, Schmitz Mark, Sageman Bradley, Li Youjuan, Podrecca Luca, Savatic Katarina, 林 圭一, 山中寿朗
	10:00	T15-O-11 秋田県矢島地域の中新統女川層のジルコンU-Pb及びFT年代： その日本海古海洋環境変遷史における意義. *中嶋 健, 岩野英 樹, 檀原 徹, 平田岳史, 朝比奈健太, 高橋幸士, 花村泰明
	10:15（休憩）	
	10:30	T15-O-12 多摩丘陵の下部更新統上総層群小山田層～飯室層の珪藻化石群 集：Lancineis rectilatusの産出層位. *納谷友規, 鈴木毅彦
	10:45	T15-O-13 掛川層群と淡路島の大坂層群に挟在する後期鮮新世・前期更新 世境界のテフラの対比. *中谷是崇, 水野清秀
	11:00	T15-O-14（エントリー） 房総半島南端地域に分布する海成上部鮮新統千倉層群布良層に おける層序学的研究. *谷元暁太, 岡田 誠, 柴田翔平
	11:15	T15-O-15 南房総海成鮮新－更新統の第四系基底部における定方位ボーリ ングコアを用いた超高時間解像度を持つ古地磁気－酸素同位体 複合層序構築の試み. *岡田 誠, 柚原涼花, 長友大輝, 菅沼悠 介
	11:30	T15-O-16 残留磁化分析による東京低地における沖積基底礫層の堆積年代 決定. *羽田裕貴, 田邊 晋, 小田啓邦
	11:45	T15-O-17 地質図の新たな産業利用に向けて－農業分野(テロワール)・金融 分野への展開－. *斎藤 真

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※ * 太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第 130 年学術大会（2023 京都大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 19 日（火）午後

会場	口頭第 1 会場（4 共 11：吉田南 4 号館）
	T5. テクトニクス
	座長：中嶋 徹, 高下裕章
15：00	15:00 T5-O-7 伊那地域に分布する領家花崗岩類のジルコンU-Pb年代. *常盤哲也, 北川 奏 15:15 T5-O-8 北部秩父帯－御荷鉾緑色岩類－三波川帯の構造関係：関東山地のイライト K-Ar 年代からの視点. *清水以知子, 盧 志強, 板谷徹丸, 嶺嶺結衣, 辺 笛 15:30 T5-O-9（エントリー） 関東山地四万十帯小仏層群盆堀川層と相模湖層群権現山層の年代論と後背地. *坂東晃紀ECS, 浅原良浩, 大藤 茂 15:45 T5-O-10 ネパールヒマラヤ, アンナプルナ山塊のカタストロフィクな巨大山体崩壊とそれに伴うポカラ盆地の埋積 *酒井治孝 16:00 T5-O-11（エントリー） 南海トラフ室戸沖プレート境界断層周辺に発達する充填鉱物の分布解明:掘削コア試料のX線CTデータからのアプローチ. *野村夏希ECS, 藤内智士, 福島 颯, 弓井浩暉 16:15 T5-O-12 P波反射法地震探査からみた糸魚川－静岡構造線活断層系神城断層南部の地下構造. *木村治夫, 青柳恭平, 高橋秀暢, 秋永康彦, 山田浩二, 今吉 隆, 末廣匡基 16:30 T5-O-13 秋田地域新第三系の弾性波速度異方性：地層の圧密と広域応力場の影響. *西川 治, 仁井田拓己, 齊藤温人, 今井忠男 16:45 T5-O-14 西南日本の地震活動の地震帯区分と南海Trough巨大地震. *新妻信明

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※*太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第130年学術大会（2023京都大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月17日（日） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（吉田南総合館北棟 1-2 階）

T1. 岩石・鉱物の変形と反応

T1-P-1

脆性-塑性遷移領域における石英の破壊と微小剪断. *福田惇一

T1-P-2

沈み込みメランジュにおける滑石形成と剪断集中. *森 康, 重野未来, 合地信生, 西山忠男

T1-P-3

石英の摩擦素過程に及ぼす湿度の影響評価. *服部 諒^{ICS}, 堤 昭人

T1-P-4

長野県伊那地域・三波川帯における超苦鉄質岩類の鉱物組み合わせの空間変化に基づく蛇紋岩化及び接触変成プロセスの解明. *延原香穂^{ICS}, 築島由理恵, 森 宏, 永冶方敬, 新屋貴史, 早川由帆

T1-P-5

五島列島久賀島に分布する花崗岩類の地球化学的特徴. *杉本峻平, 古賀一恕, 壺井基裕

T1-P-6

五島列島, 中通島地域に分布する花崗岩とそれに伴う苦鉄質岩の全岩化学組成. *関 秀彪^{ICS}, 壺井基裕

T1-P-7

カンラン石多結晶体の脆性塑性遷移領域におけるレオロジーとアウトワーライズ域における地震と断層形成との関連. *岡崎啓史

T1-P-8

火山ガラススメクタイト混合系の中速度域での摩擦特性. *奥田花也, 廣瀬丈洋, 山口飛鳥

T1-P-9

高効率ピークフィッティングパッケージEMpeaksRの地質学分野への展開. *松村太郎次郎, 中村佳博, 宮崎一博

T1-P-10

高間隙な凝灰角礫岩の脆性-延性変形遷移に伴うせん断帯内部の歪み分布の変遷. *上原真一, 溝口一生, 谷口友規

T1-P-11

蛇紋岩の炭酸塩化におけるブルーサイトの選択的溶解の役割と反応誘起破壊. *五十嵐大輝, 宇野正起, 岡本 敦

T1-P-12

Geological records of magma intrusion possibly related to subvolcanic deep low-frequency earthquakes. *Takumi NARA^{ICS}, Masaoki Uno, Diana Mindaleva, Tetsuo Kawakami, Fumiko Higashino, Tatsuro Adachi, Satoshi Matsuno, Shinichi Yamazaki, Noriyoshi Tsuchiya

T1-P-13

長石の熱水変質に伴う3次元空隙構造の幾何学的特徴の考察. *藤原秀平^{ICS}, 岡本 敦, 宇野正起, 吉田一貴, 石井友弘, 木村正雄

T1-P-14

高温高压条件下における葛根田花崗岩の水理特性. *北村真奈美, 高橋美紀, 石橋琢也

T1-P-15

野母半島長崎変成岩類に分布する蛇紋岩メランジュに見られる交代・変形作用. *木村太星, 平内健一

T1-P-16

根尾谷断層最新すべり面及びその近傍における方解石の形成過程. *岡田直也^{ICS}, 吉田拓海, 大谷具幸

T3. 大地と人間活動を楽しみながら学ぶジオパーク

T3-P-1

下北ジオ検定を通じた学習効果の検討と教職員へのフィードバック. *朝日啓泰^{ICS}, 太田原潤, 中村健一, 宮北健一, 長内孝太, 甲 健太, 東出桃子

T3-P-2

栗駒山麓ジオパークにおける荒砥沢地すべり地の防災教育への活用. *原田拓也, 佐藤英和

T3-P-3

3Dプリンタ等を活用した触って学ぶ糸魚川フォッサマグナミュージアムの石の特別展. *小河原孝彦, 茨木洋介, 郡山鈴夏, 香取拓馬, 竹之内 耕

T3-P-4

相模トラフがつくる海岸地形と東と西をつなぐ歴史のみちが生んだ日本の投げ釣り. *笠間友博

T3-P-5

山陰海岸ジオパークにおけるユネスコ理念の普及と地質物品の販売に対する持続可能な対応の検討. 松原典孝, *藤原勇樹

T3-P-6

日本地質学会が支援する地震火山地質こどもサマースクール. *柴田伊廣, 青山 裕, 加納靖之, 星 博幸, 佐藤明子, 松原誠, 横山 光

T4. 中生代日本と極東アジアの古地理・テクトニクス的リンク：脱 20 世紀の新視点

T4-P-1

東北日本 前期石炭紀付加体である根田茂帯網取ユニットにおける碎屑性ジルコンU-Pb年代測定. *青木翔吾, 内野隆之, 福山藩子, 中野 竜

T4-P-2

白亜紀古日本陸弧-海溝系の岩石分布の連続性と前弧堆積盆の広域層序対比. *安藤寿男

T7. 鉱物資源研究の最前線

T7-P-1

西南日本外帯の野々脇および三尾層状含銅硫化鉄鉱鉱床のテクトニックセッティング. *湯川正敏, 渡辺 洵, 星野健一

T7-P-2

深層学習に基づく画像検出システムを用いた南鳥島レアアース泥の化学層序ユニットのイクチオリス年代決定. *北澤亮大, 見邨和英, 安川和孝, 大田隼一郎, 藤永公一郎, 中村謙太郎, 加藤泰浩

T7-P-3

多変量解析および同位体分析に基づく北西太平洋レアアース泥の高次元化学層序とその起源. *安川 和孝, 田中えりか, 宮崎隆, Vaglarov Bogdan, 常 青, 中村謙太郎, 大田隼一郎, 藤永公一郎, 岩森 光, 加藤泰浩

T8. フィールドデータにおける応力逆解析総決算

T8-P-1

異方性岩石中の岩脈群と古応力の方向の検討：四国中央部, 三波川変成岩中の中新統高岩流紋岩の例. *羽地俊樹, 宮崎一博

T8-P-2

応力逆解析における小断層解析法と岩脈法のフォワードモデルの比較. *佐藤活志

T8-P-3

応力逆解析の解にもとづく応力軌跡描画. *山路 敦, 本間健一郎, 越谷 信

T8-P-4

日本海拡大時の棚倉堆積盆から得られた応力解析結果の評価. *細井 淳

T8-P-5

秋田県横手市古海底地すべり露頭の古応力解析. *林 茉莉花, 林 宏樹, 田中宗一郎, 小林健太

T8-P-6 (エントリー)

足柄層群中の小断層から復元される伊豆弧衝突帯の古応力方向. *竹山翔悟^{ICS}, 高木秀雄

T8-P-7

三浦半島城ヶ島における応力逆解析を用いた古応力の推定. *酒井 亨, 高木秀雄

T8-P-8

高知県本山町における三波川帯南部の結晶片岩中に発達する石英脈を用いた古応力解析. 永野栄一, *藤内智士

T8-P-9

断層地形に乏しいひずみ集中帯内の小断層すべりデータから推定される応力場：山陰ひずみ集中帯を例に. *向吉秀樹, 内田嗣人, 市村正如, 吉田歩夢, 香川加奈, 吉崎那都, 金本翔真

T8-P-10 (エントリー)

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第130年学術大会（2023京都大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月17日（日） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（吉田南総合館北棟 1-2 階）

活断層未成熟地域における小断層の再活動性：2000年鳥取県西部地震余震域の例。***内田嗣人**，向吉秀樹，藤内智士，山口昌克，小林健太

T14. 原子力と地質科学

T14-P-1

先新第三紀付加体堆積岩類地に関する質環境特性データの拡充。横田秀晴，大城遥一，***後藤淳一**，國丸貴紀，西尾 光，松岡稔幸，三枝博光

G. ジェネラルセッション

G-P-1

IODP Exp.399「生命のビルディング・ブロック」アトランティス岩体掘削速報。***阿部なつ江**，McCaig Andrew，Lang Susan，Blum Peter，野坂俊夫，IODP Exp.399 Science Party

G-P-2

沖縄島に分布する四万十帯名護層の風化砂岩の特徴。***箴島聖二**，吉田孝紀

G-P-3

徳島平野沿岸部における地下第四系層序と堆積環境。***羽田裕貴**，中谷是崇，水野清秀，納谷友規，中島 礼，西山賢一

G-P-4

大山火山北西麓（淀江地域）の地質構造。***和田卓也**，横納吏契，吉田健司，橋本和茂，田代誠士

G-P-5

沖縄県宮城島西部に分布する島尻層群の堆積環境及び貝化石と碎屑性ジルコンを用いた年代測定。***千徳明日香**，富田恭平，宋 科翰，新城竜一，相澤正隆，徳田悠希，奥村大河，市村康治

G-P-6

X線CTによる礫形状の3次元測定。溝口一生，***飯田高弘**，飯塚幸子

G-P-7

西表島南方の海底から発見された未知の火山灰層。***相澤正隆**，峯田祥太郎，屋富祖淳史，宋 科翰，中西 諒，新城竜一

G-P-8

兵庫県豊岡市に分布する玄武洞玄武岩活動前の古環境と火山活動。***松原典孝**，佐野恭平，中嶋灯奈，藤原泰誠，八木公史，高橋 峻，川合功一

G-P-9

鳥取県西部江尾構造帯の構造発達史。***川口健太**，木村光佑，中野伸彦，足立達朗

G-P-10

新潟県糸魚川市に分布するペルム系小滝層の再検討。***高橋啓太**，松岡 篤

G-P-11

布田川断層浅部掘削コアに見られる変形構造と阿蘇火砕流堆積物の層序（序報）。***大橋聖和**，澁谷奨，改原玲奈，辻 智大

G-P-12（取消）

G-P-13

伊勢湾・三河湾の表層堆積物の粒度，元素，鉱物分布からみた現在の海底環境。***天野敦子**，清家弘治

G-P-14

熊本県西原村断層トレンチにおける断層構造解析。***渡邊和輝**，小俣 雅，渋谷典幸，杉本 淳，足達健人

G-P-15

栃木県北部蛇尾川で発見された関谷断層露頭が示す活動履歴。相馬朱里，***北沢俊幸**

G-P-16

テフラ層すべりを準備したテフラ被覆斜面の地質構造。***廣瀬 亘**

G-P-17

細菌叢解析（環境DNA）を用いた 地下水の水質分類と地下水流動検討。***森 啓悟**，改田行司，万木純一郎，畠中与一，原 大輔，和田茂樹，水野貴文，山崎智美，棟方有桂

G-P-18

構造化したシームレス地質図V2を用いた地すべり発生頻度の地質依存性評価。***宮崎一博**，阿部朋弥，水落裕樹

G-P-19

簡易モデルによる水銀圧入毛細管圧力（MICP）測定結果を用いた二酸化炭素回収地中貯留（CCS）遮蔽岩能力評価法の検討。***辻 隆司**，小沢光幸，八木正彦，上田 良，齋藤雄一

G-P-20

地中レーダーを用いたテフラ層すべりの内部構造の特徴化－北海道中標津町の例－。***加瀬善洋**，小安浩理，仁科健二，石丸 聡，藤原 寛，宇佐見星弥

G-P-21

不連続性岩盤の発破掘削と基礎岩盤への発破影響の確認－パークッション削孔孔を用いた岩盤確認事例－。***大河内誠**，西智宏，森 千裕，山本高之

G-P-22

干渉SAR解析と斜面ベクトル解析を用いたハザードモニタリングについて。***中村貴子**

G-P-23

高大連携を活用して推進する高校生の研究活動～地域の鉱物学的研究から国際研究への展開～。***川勝和哉**

G-P-24

一般市民の防災リテラシー向上に向けた地方公設試験研究機関の取り組み。***小田原 啓**，本多 亮，道家涼介，長岡 優

G-P-25

長野県北部，野尻湖西方で発見された活断層の垂直変位量。

***竹下欣宏**，関めぐみ，近藤 洋一，花岡邦明，宮下 忠，中川知津子，廣内大助，野尻湖地質グループ

G-P-26

火山ガラスの化学組成に基づくテフラ対比への統計的アプローチ：PERMANOVAの適用。***立石 良**

G-P-27

奈良市三条町NB-1コアの古地磁気層序。***三田村宗樹**，森高健，林田 明

G-P-28

島根県東部宍道湖における斐伊川東流イベントの年代と堆積環境の変化。***瀬戸浩二**，香月興太，仲村康秀，辻本 彰，安藤卓人，入月俊明，齋藤文紀

G-P-29

ボーリングコア解析と地中レーダ探査による丹那断層の完新世の活動性評価。***中西利典**，木村治夫，湯川芽依，細矢卓志，ソン キソク，ホン ワン

G-P-30

新潟県糸魚川市小滝地域に分布するペルム紀付加体姫川コンプレックスの地質形成史。***漆山 凌**，松岡 篤

J1. ジュニアセッション

J1-P-1

沖縄県に漂着した軽石の組成とその産出地に関する考察。***二松学舎大学附属高等学校理数科学研究部**

J1-P-2

西南日本山陽帯と山陰帯のマグマ分化末期の熱水残液の循環－深成岩の角閃石から発見される波状累帯構造から－。***兵庫県立姫路東高等学校科学部地学系研究部**

J1-P-3

淡路島南東部和泉層群北阿万層に見られる浅海性堆積物の特徴。***大阪府立泉北高等学校**

J1-P-4

南紀白浜の礫岩層の起源。***和歌山県立田辺高等学校**

J1-P-5

次の桜島大噴火時の降灰分布を予想するⅢ。***鹿児島県立国分高等学校サイエンス部地学班**

J1-P-6

茨城県阿見町の更新統下総層群から産出したウミシダ骨板化石。***群馬県立太田女子高等学校 理科研究部**

J1-P-7

学校の周囲の大気現象から環境の変化を考える。***学校法人池田学園池田中学・高等学校**

J1-P-8

江戸時代の気象復元のための手法の検討 －「鈴木日記」を使って。***学校法人池田学園池田中学・高等学校**

J1-P-9

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），ジェネラルセッション（G）のそれぞれに，ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします。

※* 太字氏名：代表発表者，（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演

第130年学術大会（2023京都大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月17日（日） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（吉田南総合館北棟 1-2 階）

「稲東家日記」の天候記述で江戸時代の気象を復元する。 *学校法人池田学園池田中学・高等学校

J1-P-10

桜島南岳火口における噴火に伴う火山雷の特性評価。 *学校法人池田学園池田中学・高等学校

J1-P-11

桜島火山地域における簡易アルカリろ紙法による火山ガス測定法の確立と広域火山ガス調査。 *学校法人池田学園池田中学・高等学校

J1-P-12

温度記録計と簡易火山ガス希釈法による指宿火山群の火山ガス調査。 *学校法人池田学園池田中学・高等学校

J1-P-13

堆積岩における風化プロセスの再現。 *東京学芸大学附属高等学校附属高等学校

J1-P-14

皿状構造の再現と形成過程の研究。 *東京学芸大学附属高等学校附属高等学校

J1-P-15

火炎構造の奥行きを探れ—荷重痕の変形構造の立体分布—。 *名古屋中学校自然科学部, 名古屋高等学校地球科学部

J1-P-16

青森県階上町の震度はなぜ大きくなりやすいのか？ *青森県立三本木農業恵拓高等学校

J1-P-17

京都府京都市伏見区日野の歴史と地質。 *京都府立桃山高校グローバルサイエンス部岩石班

J1-P-18

岐阜県白川町で発生したバックウォーター現象による河川氾濫。 *岐阜県立加茂高等学校自然科学部

J1-P-19

月食画像から月の大きさを推定する。 *岐阜県立加茂高等学校自然科学部

J1-P-20

北海道白金青い池を「青く」見せている成分の再現。 *中央大学附属高等学校

J1-P-21

下総台地北西部に位置する美濃輪湧水における水温の季節変化の検証。 *市川学園市川高等学校地学部1

J1-P-22

知らない現象（不知火現象）を科学する4～不知火観測の実態と発生原理～。 *熊本県宇土高等学校科学部地学班

J1-P-23

不知火海で吹く風について。 *熊本県宇土高等学校科学部地学班

J1-P-24

えっ！？鳥が浮いてる？浮島現象を科学するⅥ。 *熊本県宇土高等学校科学部地学班

J1-P-25

飯山高校の地下を探る -断層は存在するのか？-。 *長野県飯山高校自然科学部

OR. アウトリーチセッション（一般公開）

会場：地質情報展会場（吉田南1号館地階）
コアタイム：13:30-15:00

OR-P-1

ヒマラヤ地学ツアーへのご招待。 *吉田 勝, 学生のヒマラヤ野外実習プロジェクト

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第130年学術大会（2023京都大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月18日（月・祝） コアタイム 13:30-15:00（会場：ポスター会場（吉田南総合館北棟1-2階））

T2. 変成岩とテクトニクス

T2-P-1

炭質物ラマンスペクトルから最高変成温度を推定する際のピークフィッティングの自動化：Part 2. ***金本俊也**, 纈纈佑衣, 青矢陸月, 中村佳博, Wallis Simon

T2-P-2 (エントリー)

赤石山地北部・三波川帯の変成温度解析と熱モデリングによる糸魚川-静岡構造線周辺の地質分布復元. ***早川由帆**, 新屋貴文, 森 宏, 延原香穂, 山岡 健, 常盤哲也, 田中 渉, 築島由理恵

T2-P-3 (エントリー)

関東山地の三波川変成岩における応力・温度推定：深部スロー地震との関連性. ***前原誠也**, ウォリス サイモン

T2-P-4 (エントリー)

静岡県北西部浜川地域三波川帯泥質片岩の温度構造と石英ファブリック. ***片桐星来**, 纈纈佑衣, 道林克禎

T2-P-5 (エントリー)

ラマン分光法を用いた接触変成帯における石灰岩の変成温度推定. ***宍岐美乃**, 壺井基裕

T2-P-6 (エントリー)

高遠-駒ヶ根地域の領家変成帯における温度構造の再検討.

***吉岡拓郎**, 高木秀雄

T2-P-7 (エントリー)

山口県光市, 千坊山周辺地域の領家帯の変成分帯. ***原山翔**, 志村俊昭

T2-P-8 (エントリー)

山口県柳井地域領家変成帯の最高変成度地域のザクロ石の産状. ***林 里沙**, 池田 剛

T2-P-9 (エントリー)

愛媛県高縄半島の領家変成帯から, ざくろ石堇青石片麻岩の発見. ***椿 陽仁**, 志村俊昭

T2-P-10

栃木県西部足尾山地に産する片麻岩に含有されるクリソベリルの産状報告と意義. ***北野一平**

T2-P-11

山口県東部屋代島の深成岩類の火成活動史：九州地域との比較. ***大和田正明**, 宮下由香里, 佐藤大介, 小山内康人, 北野一平

T2-P-12

三波川帯の変成アルカリ玄武岩岩脈：イザナギプレート上の小規模プレート内火成活動. ***遠藤俊祐**, 崎 海斗, 八木公史

T2-P-13

九州中部肥後変成帯に産する高度変成岩のシェードセクション解析と部分溶融. ***小林記之**

T2-P-14 (エントリー)

飛騨帯清水岩体に産する変成岩の岩石学. ***三上航大**, 水上

知行

T2-P-15 (エントリー)

ざくろ石の包有物岩石学から読み解くスロベニア・ポホリェ山地のプログレード変成履歴. ***西 玄偉**, 田口知樹, 小林記之

T2-P-16 (エントリー)

Water content of olivine in kimberlite from the Kaapvaal Craton, Kimberley Pipeline, South Africa—An overview of experiments by laser Raman and Fourier Transform infrared spectroscopy. ***Wenzhao DONG**, Yui KOUKETSU, Katsuyoshi MICHIBAYASHI

T2-P-17 (エントリー)

オマーンオフィオライト下部地殻—上部マントルの蛇紋岩化によるFe(III)の空間分布：マルチスケール観察からの考察. ***吉田一貴**, 岡本 敦, 大柳良介, 藤井昌和, 丹羽尉博, 武市泰男, 木村正雄

T2-P-18 (エントリー)

海洋コアコンプレックスの延性剪断帯における流体-岩石反応とレオロジー特性. ***二村康平**, 道林克禎, 針金由美子, 小原泰彦

T2-P-19

かんらん石-斜長石境界における流体流動—元素移動—変質反応のカップリング：流通式水熱反応実験からの示唆. ***大柳良介**, 沢田 輝, 桑谷 立

T2-P-20

アンチグライト蛇紋岩中の細粒かんらん石脈の形成. ***曾田祐介**, 森下知見, 奥平敬元, 水上知行

T2-P-21 (エントリー)

北海道幌満カンラン岩体の変形構造と地震波特性. ***松山和樹**, 道林克禎

T2-P-22

北海道様似町幌満地域周辺の構造地質学的・岩石学的研究. ***福田倫太郎**, 豊島剛志, 植田勇人

T2-P-23 (エントリー)

早池峰超苦鉄質岩体カンラン岩の構造岩石学的特徴. ***原野あゆ**, 道林克禎

T2-P-24

西彼杵変成岩類に見られる変形構造の重複関係. ***重野未来**, 森 康, 井上和男

T2-P-25

愛知県新城地域の中央構造線沿いに分布する断層岩の構造岩石学的特徴. ***丹羽美春**, 道林克禎

T6. 堆積地質学の最新研究

T6-P-1

流れの速度変化に関連した水中土石流堆積物中の砂礫の分布.

***正田陽宏**, 金崎勇斗, 清里弘志, 湯浅紀之, 横川美和

T6-P-2

礫の有無による水中土石流堆積物の含泥率の変化. ***清里弘志**, 金崎勇斗, 正田陽宏, 湯浅紀之, 横川 美和

T6-P-3

河川と混濁流のつくるクレバススプレイ堆積物の違い：数値実験による検討. ***成瀬 元**, 山田昌樹, 酒井祐一

T6-P-4 (エントリー)

深層学習モデルを用いた混濁流の初期条件および順計算モデルパラメーターの推定. ***藤島誠也**, 成瀬元

T6-P-5

露頭の3次元点群データに対するResUNetを用いた岩相自動判定. ***佐藤瑠晟**, 成瀬 元

T6-P-6 (エントリー)

上部白亜系和泉層群砂岩層に見られる多重逆級化構造の粒子配列とその特徴. ***長門 巧**, 成瀬 元

T6-P-7

畳み込みニューラルネットワークを用いて海底掘削コア断面画像から生物攪拌強度と生痕多様性を自動推定する試み. ***菊地一輝**, 成瀬 元

T6-P-8

奄美大島周辺海域における古地震履歴解明に向けたタービダイト層および火山灰層の供給源推定. ***中西 諒**, 前田 歩, 芦 寿一郎, 天野敦子, 山口飛鳥

T6-P-9

ベンガル湾IODP U1445地点における過去600万年間の酸素同位体層序. ***入野智久**, 山本正伸, Giosan Liviu, Clemens Steven

T6-P-10 (エントリー)

駿河湾奥部における洪水性堆積物重力流による堆積物特徴とその変化. ***中村 希**, 坂本 泉, 横山由香, 平 朝彦

T6-P-11

三保半島沖の海底谷-海底扇状地における堆積物の特徴. ***柴尾創士**, 坂本 泉, 横山由香, 中村 希, 平 朝彦

T6-P-12 (エントリー)

広田湾における2011年東北沖地震津波による津波堆積物の砂粒鉱物組成特徴. ***渡邊聡士**, 坂本 泉, 横山由香

T6-P-13

2011年津波堆積物にみられる堆積学的特徴の多様性. ***松本 弾**, 澤井祐紀, 谷川晃一郎, 行谷佑一, 宍倉正展, 椿原京子, 藤原 治, 篠崎鉄哉

T6-P-14

霞ヶ浦西浦および北浦における湖底表層堆積物の粒径の特徴：対数正規分布成分への分離による解析. ***山口直文**, 大内孝雄

T6-P-15

Documentation of channel morphology and backscatter intensity facies along the Shinomisaki Canyon, Nankai Trough, using newly acquired multi-beam bathymetry data and surface sediment cores. ***浜橋真理**, 高下裕章, 照井孝之介, 福地里

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第130年学術大会（2023京都大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月18日（月・祝） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（吉田南総合館北棟 1-2 階）

葉，川村喜一郎，奥田花也，山口飛鳥，濱田洋平，井尻 暁，辰巳寛二，細川貴弘

T6-P-16（エントリー）

白亜系那珂湊層群の東アジアテクトニクスと堆積相解釈：ファンデルタスロープ＝海底扇状地。***才鷹純平**，川村喜一郎

T6-P-17

新第三系宮崎層群蛇ノ河内層最上部の層相とその層序的变化。明石凌河，***石原与四郎**

T6-P-18

Provenance analysis based on detrital zircon U-Pb ages from the Sanbagawa Metamorphic Rocks in eastern Kii Peninsula.

***李 琪**，竹内 誠，橋 颯人，藪田桜子，浅原良浩

T6-P-19（エントリー）

古土壌を用いた古環境比較：東北日本常磐地域の古第三系始新統-漸新統と新第三系下部中新統を例に。***杉山春来**，吉田孝紀

T6-P-20

富山県上市町の下部中新統稲村水中地すべり堆積物の内部構造解析における三次元デジタル露頭モデルの構築と活用。***荒戸裕之**，山本由弦，山田泰広，保柳康一，金子一夫，國香正稔，白石和也，千代延 俊，吉本剛瑠，関山優希

T6-P-21（エントリー）

A hot, hydrothermally-fed microbial tidal flat of the Paleoproterozoic - Hints and evidence from the Moodies Group, Barberton Greenstone Belt, South Africa. ***Hannes STENGEL**，Christoph HEUBECK

T6-P-22

長崎県，中新統五島層群中の泥岩層についての堆積場復元。***高橋宏明**，清川昌一，安永 雅，池端雄太，池原 実，高畑直人

T6-P-23（エントリー）

モンゴル西部ゴビ・アルタイ県のカンブリア系下部Bayan Gol層（Cambrian Terreneuvian）から産する樹状オンコイドの特徴と形成様式。***上村 葵**，足立奈津子，江崎洋一，劉 建波，渡部真人，Gundsambuu ALTANSHAGAI，Batkhuyag ENKHBAATAR，Dorj DORJNAMJAA

T6-P-24（エントリー）

秋吉帯青海石灰岩における後期石炭紀Moscovian期後期～Kasimovian期の造礁生物相。***中村 拓**，栗原敏之

T6-P-25

鹿児島県たまた箱温泉に発達するシリカ堆積物の堆積速度実験。***高島千鶴**，奥村知世，狩野彰宏

T6-P-26

南オーストラリアに分布する現世土壌成炭酸塩の産状。***佐久間杏樹**，村田 彬，高島千鶴，狩野彰宏

T6-P-27

新潟県東頸城丘陵八石背斜東翼における堆積相解析と有機化学分析を用いた堆積システムの復元。***浅野 凱**，河西夏美，保柳康一

T6-P-28

初期統成過程における鉄還元帯でのアンモナイトコンクリーションの形成。***村宮悠介**，吉田英一，勝田長貴，隈 隆成，三上智之

T12. 地球史

T12-P-1

NanoSIMSを用いたカナダ・ラブラドル地域から産出した初期太古代堆積岩中のグラファイトの炭素同位体測定。***伊規須素子**，田中健太郎，高畑直人，小宮 剛，佐野有司，高井 研

T12-P-2（エントリー）

西オーストラリア，ビルバラ地域における太古代の縞状鉄鉱層および熱水系チャート中の鉱物同定による堆積場復元。***井口祐輔**，清川昌一，武田侑也，上原誠一郎

T12-P-3（エントリー）

ペルム紀-三疊紀における地球外³He流入量の復元。***瀬戸山功平**，高畑直人，尾上哲治，塩原拓真，佐野有司，磯崎行雄

T12-P-4（エントリー）

美濃帯犬山地域のノーリアン/レーティアン境界(後期三疊紀)におけるコノドント・放散虫化石層序。***大島温志**，尾上哲治，富松由希，Rigo Manuel

T12-P-5

北海道北斗地域に分布する更新統富川層の浮遊性有孔虫化石群集に基づく古環境変動の復元。***山崎 誠**，高橋春樹，小澤福之，根本直樹，嶋田智恵子

T12-P-6

徳島県勝浦町に分布する下部白亜系立川層より産出したアドクスカメ類化石。***蘭田哲平**，小布施彰太，辻野泰之，中尾賢一，中山健太郎

T12-P-7（エントリー）

モンゴル国ゴビ砂漠上部白亜系バインシレ層から産出した恐竜歯化石のアパタイトU-Pb年代測定。***西村 玲**，千葉謙太郎，青木一勝，小木曾 哲

T12-P-8（エントリー）

根室層群における白亜紀-古第三紀境界のオスミウム同位体層序。***太田 映**，黒田潤一郎，高嶋礼詩，星 博幸，林圭一，鈴木勝彦，石川 晃，西 弘嗣

T12-P-9（エントリー）

過去1万2千年間におけるトカラ列島宝島西方海域の古底層環境変遷。***上野智広**，岩谷北斗，鈴木克明，板本拓也，清家弘治，中野太賀

T12-P-10

過去1000万年間における中部北西太平洋の古海洋学的進化(ODPサイト1208)。***松崎賢史**

T12-P-11

浮遊性有孔虫化石群集に基づく秋田県中部から北部の鮮新世末

から更新世始めの古環境変遷。***小澤 周**，山崎 誠，馬場創太，向江祐貴，椿野将輝

T12-P-12（エントリー）

東部赤道太平洋における上部鮮新統-下部更新統の石灰質ナノ化石基準面とReticulofenestra属の個体サイズの変化。***根本英利**，亀尾浩司

T12-P-13

北西太平洋海域における石灰質ナノ化石に基づく表層海水温の推定。***桑野太輔**，亀尾浩司

T12-P-14（エントリー）

上総層群黄和田層上部の底生有孔虫化石群集と前期更新世における上総海盆の海底環境。***尾内千花**，亀尾浩司，桑野太輔，北里 洋

T12-P-15

銚子コアの酸素同位体比及び石灰質ナノ化石層序に基づく前期更新世の海洋環境の推定。***小杉裕樹**，桑野太輔，久保田好美，亀尾浩司，相崎翔太

T13. 沈み込み帯・陸上付加体

T13-P-1

横峰メランジュにおける石英脈濃集帯が放出する地震波のモデル化の試み。***矢部 優**，大坪 誠，氏家恒太郎

T13-P-2（エントリー）

沈み込む海洋性プレートからの脱水によるhydrofracturingの地震学的証拠。***伊藤陽介**，中島淳一

T13-P-3（エントリー）

剪断脈と古応力から推定する形成深度と定常的流体圧の制約：四国白亜系四万十帯横浪メランジュ。***平岡 空**，高橋佑希，細川貴弘，橋本善孝

T13-P-4（エントリー）

現世の震源断層と対比可能なスケールで分布する興津断層。***隅田 匠**，市来政仁，坂口有人

T13-P-5

陸上付加体に見られる破碎帯の帯磁率異方性によるひずみ解析：白亜系四万十帯・横浪メランジュ。***三谷陣平**，橋本善孝

T13-P-6

Isotopic variation of syn-tectonic calcite veins formed in stress regimes located in subducted plates boundary-implication of geofluids evolution with seismic cycle in Mugé mélange. ***Wenjing WANG**，Yoshitaka HASHIMOTO，Takahiro HOSOGAWA，Masafumi MURAYAMA

T13-P-7

房総半島における新第三系および第四系前弧海盆の圧密異方性。***神谷奈々**，宮崎裕博，林 為人，林田 明3

T13-P-8（エントリー）

三浦半島南部三崎層中に発達するインブリケート衝上断層の摩

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），ジェネラルセッション（G）のそれぞれに，ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名：代表発表者，（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演

第130年学術大会（2023京都大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月18日（月・祝） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（吉田南総合館北棟 1-2 階）

擦特性. *笠井佑樹^{ECs}, 堤 昭人, 山本由弦

T13-P-9（エントリー）

付加体浅部の断層におけるせん断による液状化発生過程に関する実験的研究. *田代圭吾, 堤 昭人, 山本由弦, Wang Gonghui, Chang Chengrui, Huang Chao

T13-P-10

クローンウェッジにおける基底部弱層の有無とプロトデコルマ発達の関係性. *橘 隆海^{ECs}, 藤内智士, 高下裕章

T13-P-11

孔内観測とDONETから捉えられた浅部スロースリップイベント：2020年3月と2023年3月との比較検証. *有吉慶介, 飯沼卓史, 山本揚二郎, 宮澤泰正, ヴァーラモフ セルゲイ, 松本浩幸, 町田祐弥, Saffer Demian, 荒木英一郎, 堀川博紀, 末木健太郎, 矢田修一郎, 高橋成実, 堀 高峰, 小平秀一

T13-P-12

熊野冲南海付加体前縁部における地すべり表層堆積物中の堆積岩礫の間隙率. *福地里菜, 趙 陽, 白石和也, 浜橋真理, 村山雅史, 芦 寿一郎, 山口飛鳥

T13-P-13

日本海溝北部アウターライズから陸側斜面にかけての反射法地震探査. *中村恭之, 野 徹雄, 三浦 亮, 藤江 剛, 三浦誠一, 小平秀一, 鶴 哲郎, 朴 進午

T15. 地域地質・層序学：現在と展望

T15-P-1

5万分の1地質図幅「外山」（岩手県盛岡地域）の地質. *内野隆之, 小松原 琢

T15-P-2

北部北上帯における“構造線”の再検討. *武藤 俊

T15-P-3

北部北上山地における後期白亜紀から古第三紀の陸成層（岩手県岩泉町）：堆積年代・粘土鉱物・ビトリナイト反射率. *野田 篤, 森本和也, 高橋幸士, 檀原 徹, 岩野英樹, 平田岳史

T15-P-4（エントリー）

福島県下部白亜系相馬中村層群最上部小山田層の堆積年代の再検討. *都丸大河, 高嶋礼詩, 折橋裕二, 山中寿朗, 安藤寿男, 浅原良浩, 西 弘嗣, 黒柳あずみ

T15-P-5

日立地域, カンプリア系赤沢層中に挟在する石炭系金山石灰岩のジルコンU-Pb年代. *田切美智雄, 大路樹生, 安藤寿男, 埜勝利, 及川 晃, 加藤太一

T15-P-6

タイ国中央部チャオブラヤ平野に分布するベルム系層状チャートの地質学的帰属. *鎌田祥仁, Phrosuwan Waraphorn, 上野勝美, Charoentitirat Thasinee, Sardsud Apsorn

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名：代表発表者,（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演

第130年学術大会（2023京都大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月19日（火） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（吉田南総合館北棟 1-2 階）

T5. テクトニクス

T5-P-1

デコルマ設定条件の違いによる付加サイクル中の付加体の変形パターンの違い。*野田 篤, Fabien Graveleau, Cesar Witt, Frank Chanier, Bruno Vendeville

T5-P-2

中央構造線と関東山地のナップテクトニクス。*小野 晃

T5-P-3

四国南西部、中新統三崎層群の小断層の産状と応力解析。*羽地俊樹, 安邊啓明

T5-P-4

第四紀黒部川花崗岩と北アルプスのネオテクトニクス。*伊藤久敏

T5-P-5 (エントリー)

沖縄トラフ南部、八重山海底地溝における海洋底拡大前の海底地形とリフト構造の関係。*山本朱音^{ECS}, 大坪 誠, 三澤文慶, 新井隆太, 竹村貴人

T5-P-6 (エントリー)

天草の始新統を切る低角正断層と始新世伸張テクトニクス。*牛丸健太郎^{ECS}, 山路 敦

T5-P-7

中央構造線掘削コア試料の活用。*坂口有人

T5-P-8

愛媛県西条市の湯谷口露頭における中央構造線の右ずれ変形構造。*窪田安打, 竹下 徹

T5-P-9

湯ノ岳断層の破碎帯性状：福島県浜通りの地震による活動部と非活動部の比較。*酒井 亨, 高木秀雄

T5-P-10

谷川岳地域における鮮新世の応力転換：花崗岩類中の石英に発達するマイクロクラック方位を利用した古応力解析。*安邊啓明^{ECS}, 南 沙樹

T5-P-11

北陸地方下のフィリピン海スラブウィンドウとマントル流。

*宮崎一希^{ECS}, 中島淳一

T5-P-12 (エントリー)

中央構造線近傍・三波川帯における延性変形構造の空間変化に基づく固着度不均質性評価。*長谷川凌平^{ECS}, 森 宏, 山岡健, 山岸弘治, 常盤哲也, 木村陽介, 野部勇貴

T5-P-13

長大変形下の砂箱実験における付加体形成時の応力変化とサブダクションチャネルの重要性。*高下 裕章^{ECS}, 野田 篤, 宮川歩夢, 大熊祐一, 橘 隆海, 兼子尚知, 大坪 誠

T9. マグマソースからマグマ供給システムまで



T9-P-1 (エントリー)

西南日本島根県奥出雲町高田付近に分布する高田花崗閃緑岩のマグマ過程。*中山瀬那, 亀井淳志, 谷 健一郎, 岩田智加, 薬師寺亜衣, 松場康二

T9-P-2 (エントリー)

島根県隠岐島後に産する変花崗岩類の火成活動。*平井智望, 谷 健一郎, 遠藤俊祐, 藤原まい, 亀井淳志

T9-P-3

日本の珪長質深成岩体の噴火能力。*佐藤博明, 田結庄良昭, 金丸龍夫, 新井敏夫

T9-P-4 (エントリー)

伊豆衝突帯甲斐駒ヶ岳岩体へのジルコンメルト包有物地質圧力計の適用：角閃石Al地質圧力計との比較。*谷脇由華^{ECS}, 齊藤 哲

T9-P-5

LA-ICP-MS による10万年より若い火山岩のU-Th放射非平衡年代測定とその応用：三瓶火山の例。*岩野英樹, 仁木創太, 坂田周平, 浅沼 尚, 折橋裕二, 平田岳史, 檀原 徹

T9-P-6 (エントリー)

山口県東部、ジュラ紀付加体玖珂層群を貫く土生花崗閃緑岩の定置過程とマンガン鉱床の形成。*秋本悠作, 大和田正明, 亀井淳志, 永寛真理子

T9-P-7 (エントリー)

愛媛県伯方島産白亜紀花崗岩類に伴う交代性閃長岩類の岩石学的研究：対照的な2種類のNa交代作用。*福井堂子^{ECS}, 下岡和也, 小北康弘, 長田充弘, 高橋俊郎, 斉藤 哲

T9-P-8 (エントリー)

茨城県大子・常陸大宮地域～栃木県茂木地域における中新世アダカイトの時空分布。*小坂日奈子^{ECS}, 長谷川 健, 内山玄基, 田切美智雄, 細井 淳

T9-P-9 (エントリー)

石鎚コールドロンに産する溶結凝灰岩と花崗岩に含まれるメルト包有物の組成解析。*福田圭一郎^{ECS}, 齊藤 哲

T10. 文化地質学



T10-P-1

千葉県における第四紀堆積岩石材。*高橋直樹, 赤司卓也

T10-P-2

弥生石器, 高機型石斧の岩石学的特徴。*柚原雅樹, 梅崎恵司, 川野良信, 森 貴教

T10-P-3

路傍に置かれる「いけず石」の岩石種と分布調査（予察）。*中条武司

T10-P-4

相模原市周辺の1923年関東地震の伝承碑。*河尻清和, 山本菜摘, 鈴木汐歩音

T11. 南極研究の最前線

T11-P-1

東南極リュツォ・ホルム岩体の大構造とユニット区分についての問題点。*豊島剛志

T11-P-2

東南極ナピア岩体Mt. Cronusにおける新太古代～古原生代にかけての地殻熱イベント。*加々島慎一, 遠藤美空, 谷 健一郎, 野原里華子

T11-P-3

東南極プリンスオラフ海岸東部、ちぢれ岩に分布する泥質片麻岩の変成作用と変成年代。*馬場壮太郎, 中野 伸彦, 加々島 慎一, 亀井 淳志, 外田智千

T11-P-4

東南極リュツォホルム岩体(LHC)二番岩に産する苦鉄質岩脈の産状と貫入時期についての考察。*宮本知治, 山下勝行, Dunkley J. Daniel, 角替敏昭, 加藤陸実

T11-P-5

ペトロクロノロジーで明らかにする東南極セール・ロンダーネ山地における複数回のザクロ石形成時期。*東野文子, 河上哲生, 坂田周平, 平田岳史

T11-P-6 (エントリー)

東南極セール・ロンダーネ山地メーフィエルに産する珪線石－黒雲母－ザクロ石片麻岩中のモナズ石の産状と組織観察。*中野美玖, 東野文子, 河上哲生, 足立達朗, 宇野正起

T11-P-7

東南極、セール・ロンダーネ山地産のジルコノライト：京都府産新鉱物「河辺石」との関係。*志村俊昭, 宮脇律郎, 門馬綱一, 亀井淳志, 東田和弘, 柚原雅樹, 大和田正明

T11-P-8

Meso-Neo-Archean Basin Formation and associated deformation in the Dharwar Craton : new insights from structural relation and Zircon U-Pb geochronology. *Sreehari Lakshmanan^{ECS}, Keisuke Suzuki, Tsuyoshi Toyoshima, Hayato Ueda, Satish-Kumar Madhusoodhan

T11-P-9

南極観測第X期重点「東南極氷床変動の復元と急激な氷床融解メカニズムの解明」の概要。*菅沼悠介

T11-P-10

東南極宗谷海岸露岩域の沿岸湖沼の珪藻群集と基盤隆起。*香月興太, 菅沼悠介, 石輪健樹, 川又基人, 佐々木聡史, 徳田悠希, 板本拓也, 瀬戸浩二

T11-P-11 (エントリー)

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※* 太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演

第130年学術大会（2023京都大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月19日（火） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（吉田南総合館北棟 1-2 階）

東南極トッテン氷河沖の表層海底堆積物を用いたBe同位体分析に基づく近過去海洋環境復元。***山崎 友莉**，菅沼悠介，板木拓也，天野敦子，山口耕生

T15. 地域地質・層序学：現在と展望

T15-P-7

飛騨帯地質図。***加納 隆**

T15-P-8（エントリー）

関東山地で見られる御荷鉾緑色岩および上位の珪質岩（柏木ユニット）への漸移的变化。***高山 隼**，高木秀雄

T15-P-9

関東山地東部，横瀬町芦ヶ久保地域の秩父累帯。***加藤 潔**

T15-P-10

四国西部，北部秩父帯の大規模逆転層をナップとして覆う水なし山ユニット。***辻 智大**

T15-P-11

近畿地方北部の超丹波帯付加複合体における層序区分と堆積時期の再検討。***中江 訓**

T15-P-12

20万分の1地質図幅「京都及大阪」地域に分布する白亜系。***佐藤大介**

T15-P-13

兵庫県姫路市南東部に分布する白亜紀火山岩類の地質構造。

***毛利元紀**，松原典孝，能美洋介

T15-P-14

北海道女満別図幅地域における常呂帯仁頃層群付加体と新生界被覆層基底部の層序と地質構造。***植田勇人**，加瀬善洋，林圭一，渡辺真人，廣瀬 亘，長谷川 健

T15-P-15

古第三紀における古千島弧での碎屑物供給源変化と海嶺沈み込み：碎屑性ジルコン年代分布のBayesian population correlation解析。***成瀬 元**，Buburanda Harisma，平田岳史，仁木創太

T15-P-16（エントリー）

東北日本，男鹿半島北西海岸赤島一ごんご崎における火山岩類のジルコンU-Pb年代。***千葉 明**，青木翔吾，昆 慶明，池田栞道，平田 碧，菊池瑛美，大場 司

T15-P-17

北海道岩見沢市幌向層軽石火山礫凝灰岩のジルコンU-Pb年代と化学組成。***辻野 匠**，中嶋 健，朝比奈健太，鈴木祐一郎，下川修司，服部泰久，金子光好

T15-P-18（エントリー）

北海道中央北部添牛内地域の碎屑性蛇紋岩。***金澤安蓮**，吉田孝紀

T15-P-19

西南日本弧富山堆積盆で日本海拡大期に起きた漸新世～中新世火成活動の時間変遷。***山田来樹**，高橋俊郎，長田充弘，植田

勇人

T15-P-20

三重県中新統阿波層群横野層の含礫泥岩層の岩相と微化石群集。***入月俊明**，黒川聡美，林 広樹，辻本 彰，瀬戸浩二

T15-P-21

生痕化石Tasselia ordamensisから産出した保存良好な放散虫化石群集と層序学的重要性：三浦層群天津層の例。***菊川照英**，相田吉昭，古川 登，小竹信宏

T15-P-22（エントリー）

静岡県相良－掛川油田地域における下部～中部中新統の石灰質ナノ化石層序と地質構造。***三村匠海**，北條龍生，千代延 俊

T15-P-23

北部ベトナムのランソン省に分布するナーズン層最上部～リンチュア層の花粉化石。***種子涼太**，小松俊文，ルグラン ジュリアン，山田敏弘，ザン ディン フン

T15-P-24

岩相解析に基づいた兵庫県但馬御火浦(たじまみほのうら)－浜坂・居組エリアに分布する北但層群の古環境復元およびU-Pb年代測定。***松原典孝**，郡山鈴夏，佐野恭平，羽地俊樹，檀原徹，岩野英樹，平田岳史

T15-P-25（エントリー）

青森県津軽西海岸，十二湖凝灰岩のジルコンU-Pb年代。***金指由維**，折橋裕二，仁木創太，岩野英樹，平田岳史

T15-P-26

隠岐島後，都万地域の海成中新統層序。***林 広樹**，能海冬馬，渡辺真人

T15-P-27（エントリー）

鮮新統宮崎層群生目層の貝形虫化石と古底層環境。***矢野稜真**，岩谷北斗

T15-P-28（エントリー）

宮城県荒砥沢地域の地質。***水戸悠河**，高嶋礼詩，折橋裕二，黒柳あずみ，浅原良浩

T15-P-29

古地磁気層序とテフラ層序に基づく房総半島南端の下部更新統千倉層群と同半島東部の上総層群の対比。***小西拓海**，岡田 誠，宇都宮正志，田村糸子，小塚大輝

T15-P-30（エントリー）

房総半島南端に分布する海成更新統の約1.9-2.2Maの年代区間における詳細な古地磁気－酸素同位体複合層序。***小塚大輝**，岡田 誠，小西拓海，江部裕太

T15-P-31

古琵琶湖層群上野層のウェーブリップル斜交葉理。***里口保文**

T15-P-32

レイリー波探査を用いた長野市街地における1847年善光寺地震の地表地震断層の可視化の試み。***中川知津子**，室田真宏，吉永佑一

T16. 都市地質学：自然と社会の融合領域



T16-P-1（エントリー）

広島市北部に分布する花崗岩類の風化に伴う化学組成変化。***唐 強**，壺井基裕

T16-P-2

地盤情報データベースから作成した大阪平野上町台地周辺地下の表層3次元地質構造モデル。***櫻井 啓生**

G. ジェネラルセッション

G-P-31

地中海西方アルポラン海における海洋堆積物間隙水の地球化学。***尾張聡子**，Ketzer Marcelo，鈴木 渚，d'Acremont Elia，Lafuerza Sara，Leroy Sylvie，Praeg Daniel，Migeon Sébastien，Oliveira de Sa Alana

G-P-32

割れ目を通じた溶岩内部への水の浸入によってできたエンタブラチャーの冷却速度－岩手県玄武洞溶岩－。***星出隆志**，岩橋慶亮，石橋 直

G-P-33

衛星画像とGISを用いた，2023年4月のシベルチ火山噴火に伴い発生した火砕物密度流堆積物の体積見積り。***上澤真平**，石毛康介

G-P-34

島根県江津地域の舞鶴帯に産する“夜久野岩類”のジルコンU-Pb年代とその意義。***木村光佑**，川口健太，中野伸彦，足立達朗，早坂康隆，Das Kaushik

G-P-35

新燃岳2011年噴火噴出物の残存状況調査。***清杉孝司**

G-P-36（エントリー）

中海における過去約60年間の現生貝形虫群集の時間空間変化。

***石垣 璃**，入月俊明，瀬戸浩二，嶋池実果，辻本 彰

G-P-37（エントリー）

島根県宍道湖周辺における完新世ヤマトシジミの殻外形の形態変異。***越智輝耶**，入月俊明

G-P-38

なぜナウマンゾウ（Palaeoloxodon naumanni）は高地をめざしたのか？***近藤洋一**

G-P-39

沖縄トラフ北部西側斜面における最終氷期最盛期以降の堆積相変化。***齋藤京太**，青木 智

G-P-40

ヒマラヤで野外地学を学ぶー第11回学生のヒマラヤ野外実習ツアー（2023年3月）報告。***吉田 勝**，Paudel Mukunda，在田一則，酒井哲弥，Upreti Bishal

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），ジェネラルセッション（G）のそれぞれに，ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします。

※***太字氏名**：代表発表者，（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演

日本地質学会 *News*

Vol.26 No.8 August 2023

The Geological Society of Japan News

一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル 6F

編集委員長 松田達生

TEL 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156

main@geosociety.jp (庶務一般)

journal@geosociety.jp (編集)

http://www.geosociety.jp

Contents

巻頭 日本地質学会第130年学術大会 (2023京都) プログラム…… (1) ~ (38)

案内……2

産総研コンソーシアム主催第4回鉱物肉眼鑑定研修各賞助成/公開シンポジウム：文化施設としての自然史系博物館を考える

各賞・研究助成……2

2024年日本アイソトープ協会奨励賞候補者募集/2023年度「第44回猿橋賞」募集/日本科学協会笹川科学研究助成募集

公募……3

信州大学理学部理学科地球学コース教員(助教)公募/東京大学地震研究所教授公募/九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門教授公募/茨城大学大学院理工学研究科理学野地球環境科学領域助教公募

CALENDAR……4

紹介……5

高レベル放射性廃棄物処分場の立地選定－地質的不確実性の事前回避－千木良雅弘著(石渡 明)

博物館とジオパークで地球を学ぼう(20)……6

京都大学総合博物館

支部コーナー……8

関東支部：関東地震100年関連行事 講演会「関東地震から100年」のお知らせ/講演会「県の石－埼玉の岩石・鉱物・化石－」開催報告

表紙紹介……9

第14回惑星地球フォトコンテスト：スマホ賞「スナヘビの大群」(高場智博)

地質学雑誌：新しい論文が公開されています……10

学会記事……11

2022年度第5回(定例)理事会議事録

2022年度第9回執行理事会議事録/2022年度第10回執行理事会議事録/2023年度第1回執行理事会議事録

入会申込書……20

巻末 会費口座振替依頼書

印刷・製本：日本印刷株式会社 東京都豊島区東池袋4-41-24

IGC2024に関する会長メッセージ

IGC2024の2nd circularが6月末に公開されました。これに伴い、会長からメッセージがありますので(7月24日付)、学会HP、会員ページでご確認ください。

<http://sub.geosociety.jp/members/content0117.html>

(※会員番号によるログインが必要です)



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します。

産総研コンソーシアム主催 第4回鉱物肉眼鑑定研修

日程：2023年10月25日（水）～27日（金）
主催：産総研コンソーシアム「地質人材育成コンソーシアム」

研修場所：産総研つくば第七事業所
研修内容：鉱山会社に勤務する技術者が、金属鉱山等で産出する鉱物を肉眼で鑑定できるよう、実際の鉱物を用いてその特徴を理解し、判別可能な能力を身につけることを目的とします。

定員：5名（研修生は鉱業系の会社（商社含む）・組織の方に限っております）。

※申込締切：10月2日（月）（ただし定員に達し次第受付終了となります）

CPD：24単位

参加要件（会費）：産総研コンソーシアム「地質人材育成コンソーシアム」に36口（1口1000円）の会費が必要です。

お申込先：training-gsj-ml@aist.go.jp

詳細は地質調査総合センター HPをご覧ください。

<https://www.gsj.jp/geoschool/koubutsu/4th.html>

【お問い合わせ】

産総研 地質調査総合センター 鉱物肉眼鑑定研修 事務局

TEL：029-861-3540

E-mail：training-gsj-ml@aist.go.jp

公開シンポジウム：文化施設 としての自然史系博物館を考える

日時：2023年9月23日（土）13:00-18:00

場所：オンライン開催（配信，定員500名）
どなたでもご参加いただけます。

主催：日本学術会議 地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会，統合生物学委員会・基礎生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生物学分科会

後援：公益社団法人東京地学協会

参加費無料 下記URLから事前登録してください

<https://forms.gle/SjaaLvTF8oJvgGLJ8>

参加申込締切：9月21日（定員になり次第〆切ります）

開催趣旨：自然史系博物館には、標本資料の収集・整理・保管，専門教育・普及，研究の充実が期待されている。いま博物館では、上

記業務の継続や、標本資料の収蔵庫（バックヤード）など展示以外の施設確保など、多くの困難に直面している。このシンポジウムでは、自然史学についての知見や標本資料を集約し、それらを誰もが活用する文化施設としての博物館の現況を確認し、その持続性にむけて展望したい。

問合せ先：sympo.muse@gmail.com（専用アドレス）

プログラム等詳しくは、

<https://www.scj.go.jp/ja/event/2023/348-s-0923-2.html>

各賞・研究助成



日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します。

2024年日本アイソトープ 協会奨励賞候補者募集

放射性同位体及び放射線に係わる基礎並びに応用研究において、独創的かつ顕著な成果を挙げ、将来の利用拡大・発展への寄与・社会貢献等が期待される若手・中堅の研究者個人を顕彰します。自薦・他薦を問わず、広く候補者を募集いたします。

分野：

放射性同位体及び放射線に係わる基礎並びに応用研究を対象とする。なお、放射性同位体及び放射線の管理、啓発、普及活動、社会活動についても考慮する。

資格（以下の条件を満たす者）：

(1) 2024年4月1日において、満45歳未満、または博士の学位取得後10年以内の者。ただし、出産・育児・介護等のライフイベントによる休業期間及び研究開始猶予期間を考慮する。

(2) 過去において本賞を受賞していないこと。

応募書類

(1) 日本アイソトープ協会奨励賞候補者推薦書

(2) 代表的な論文3報

(3) 主要論文以外に具体的な活動を示す著作物がある場合、その写し

応募締切：2023年10月31日（火）

その他：

当協会奨励賞候補者選考委員会が選考し、当協会が3名程度の受賞者を決定する。選考結果は受賞者に通知し、2024年3月をめどに公表する。

受賞者は、当協会主催のアイソトープ・放射線研究発表会にて受賞講演を行い、当協会の学術誌であるRADIOISOTOPES誌に論文を投稿する。

応募の詳細は、協会ホームページをご覧ください。

(<https://www.jrias.or.jp/report/cat1/309.html>)

お問合せ先

公益社団法人日本アイソトープ協会

学術振興部学術課日本アイソトープ協会奨励賞事務局

TEL：03-5395-8081

E-mail：shoreisho-r@jrias.or.jp

2023年度「第44回猿橋賞」 募集

女性科学者に明るい未来をのこすには、『女性科学者のおかれていた状況の暗さの中に、一条の光を投げ、いくらかでも彼女らを励まし、自然科学の発展に貢献できるように支援する』という願いをこめ、1980年に創立されました。

この創立の趣旨を継承し、当会は、これまで自然科学の分野で、優れた研究業績を収めている女性科学者に、毎年、賞(猿橋賞)を贈呈してまいりました。

対象：推薦締切日に50才未満で、創立の趣旨に沿って自然科学の分野で優れた研究業績を収めている女性科学者（ただし、日本に在住・在職で、かつ今後も国内で若手の育成に貢献できる人）

表彰内容：賞状、副賞として褒賞金（50万円）、1件（1名）

締切：2023年11月30日（必着）

募集要項等は下記HPをご確認ください。

<https://saruhashisho.wordpress.com/>

日本科学協会 笹川科学研究助成募集

主な募集条件：

【学術研究部門】

- ・大学院生等（修士課程・博士課程）
- ・35歳以下の任期付き雇用の若手研究者
- ・ただし、「海に係る研究」は重点テーマとして支援し、雇用形態は問わない。
- ・助成額は、1件150万円を限度とする

【実践研究部門】

- ・学校・NPO職員等に所属している方
- ・博物館、図書館等の生涯学習施設に所属している学芸員・司書等
- ・年齢、雇用形態は問わない。
- ・助成額は、1件50万円を限度とする

申請期間：2023年9月15日から2023年10月16日23：59まで

申請方法：Webからの申請となります。詳細は本会Webサイトをご確認下さい。

<https://www.jss.or.jp/ikusei/sasakawa/>

問い合わせ先：

公益財団法人日本科学協会 笹川科学研究助成係
TEL : 03-6229-5365
URL : <https://www.jss.or.jp>
E-mail : josei@jss.or.jp

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては、採用結果をお知らせいただけますようお願い致します。



信州大学理学部理学科 地球学コース教員（助教）公募

1. 公募の趣旨・背景：信州大学理学部理学科地球学コースでは、「地層科学分野」と「地球物質科学分野」を柱として、地質学を中心とした地球学の基礎を重視した教育と研究を進めています。特に、気候変動、地震、火山噴火、地滑り、河川氾濫、津波などの地球環境の変動と多発する自然災害を踏まえ、野外における観察に基づいた科学的方法論の修得を目指した教育を実施しています。この度、当コースの教育・研究・学内運営を充実させるため、フィールドワークに基づいた地質学（特に固体地球科学）に関わる研究・教育に意欲的に取り組む方を募集します。
2. 職名・人員：助教（テニュア・トラック）1名
3. 所属学系：信州大学学術研究院 理学系
4. 主担当学部等：理学部理学科地球学コース
5. 研究分野：地質学（特に固体地球科学）
6. 職務：上記分野における研究のほか、大学院総合理工学研究科山岳環境科学分野（博士課程）、大学院総合理工学研究科理学専攻理科学分野地球学ユニット（修士課程）及び学部（理学科地球学コース）関連の教育と研究指導を担当していただきます。なお、松本キャンパスにおいて共通教育科目を担当していただくこともあります。また、研究活動に支障のない範囲で大学運営業務にも従事していただきます。
7. 応募資格：博士の学位を取得している方、または着任時までに博士の学位を取得できる方で、地質学（特に固体地球科学）の研究業績を有するとともに、外部資金の獲得、社会活動、国際的活動に対しても意欲的に取り組んでいただける方。日本語による教育および大学運営業務ができる方。外国人の場合は日本語によるコミュニケーションが十分に可能な方。将来的に信州の自然を活かした研究を展望できる方が望ましい。
8. 採用予定日：令和6年4月1日
9. 任期：テニュア・トラックの期間（5年間）

応募締切：令和5年9月8日（金）

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/others/recruitment.html#r5geo1>

東京大学地震研究所教授公募

職名及び人数：教授1名
採用予定時期：採用決定後のできるだけ早い時期
就業場所：地震研究所（東京都文京区弥生1-1-1）
所属：採用後に決定
研究分野：マグマ学・岩石学分野
地震研究所では、複数の火山観測所を基点とした観測研究を進めるとともに、地球物理学や物質科学など、多分野の成果を融合した総合的なマグマの成因研究および火山活動予測研究を推進している。本公募では、マグマの発生・上昇過程、噴火準備過程における熱的および物質的な変化や、マグマ溜まり・火道中での減圧・発泡過程など、火山活動と噴火現象を物質科学的手法と地球物理学的観測データ解析に基づき理解するとともに、火山噴出物の分析装置等を用いた共同利用を推進し、災害軽減に向けた研究を主導する人材を求める。更に、この人材には、大学院教育を通じて、次世代の人材育成に貢献することも期待されている。
応募資格：博士の学位を有する者（外国での同等の学位を含む）

応募締切：令和5年10月13日（金）午後5時必着

問い合わせ先：
東京大学地震研究所地震予知研究センター
上嶋 誠 TEL: 03-5841-5739
e-mail: uyeshima@eri.u-tokyo.ac.jp
提出書類ほか公募の詳細は下記を参照してください。
<https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/recruitinfo/>

九州大学大学院理学研究院 地球惑星科学部門教授公募

職種・人員：教授1名
所属：理学研究院地球惑星科学部門 固体地球惑星科学講座
専門分野：火山科学
担当業務等：地質調査、物質科学分析、室内実験、数値シミュレーションなどの手法を用いて、火山現象を研究する方。学生指導などの専攻教育及び基幹教育（全学初年度教育）に熱意をもって取り組み、地球惑星科学部門の運営にも積極的に参画できる方。
応募資格：博士の学位を有する者 国籍は問わないが日本語で業務ができること。
採用予定日：決定後できるだけ早い時期
応募締切：令和5年9月30日（土）（必着）

本公募に関する問い合わせ先：
〒819-0395 福岡市西区元岡 744
九州大学大学院理学研究院 地球惑星科学部門
選考委員長 寅丸敦志
電話番号：092-802-4215
E-mail : application@geo.kyushu-u.ac.jp
本部門の教育研究の概要等は次のホームページをご参照ください。
<https://www.geo.kyushu-u.ac.jp>

茨城大学大学院理工学研究科 理学野地球環境科学領域助教公募

職名および人数：助教（テニュアトラック）1名
所属：大学院理工学研究科理学野 地球環境科学領域 ※令和6年度に予定されている教員組織改革により所属が変更になる可能性があります。
担当予定の主な授業科目：
理学部：地質学Ⅰ・地質学Ⅱ・岩石鉱物学入門などの科目からいずれか1科目（2単位）括弧内の6科目の一部を3～4名の教員で分担する（地質調査基礎演習、地質調査発展演習、地質学実験、岩石鉱物学実験、岩石化学実験、地球科学巡検）。卒業研究等。
理工学研究科（大学院担当資格を取得された後）：博士前期課程理学専攻地球環境科学コースにおける授業科目。
※今後の教育課程の再編成等により、上記以外の科目を担当いただく可能性があります。
研究分野：地質学・岩石鉱物学またはその周辺の研究分野
求める人材：（1）独立して独創的な研究を行うことができる方（2）理学部理学科の教育や組織運営に積極的に関与できる方（3）地質調査に関する実習・実験・研究指導のできる方（4）着任後に大学院博士課程の担当資格を取得し、大学院生の研究指導を通じて本学の研究の発展に寄与することができる方（5）茨城大学水戸キャンパスに通勤可能な方
応募資格：以下の条件をすべて満たしていること
（1）博士の学位（外国において授与される学位で、これに相当するものを含む）を有する、もしくは着任時までにこれらの学位取得が見込まれる（2）上記の主な担当予定授業科目を担当できる知識・技能を有する（3）業務遂行に支障のない日本語能力を有する（4）国立大学法人茨城大学就業規則第4条の2〔欠格事項〕に該当しない
勤務形態：常勤（テニュアトラック制）※試用期間6ヶ月
採用予定日：令和6年4月1日
主たる勤務地：茨城大学水戸キャンパス（茨城県水戸市文京2-1-1）
問い合わせ先：

【公募内容に関する問い合わせ先】
茨城大学大学院理工学研究科（理学野）
地球環境科学領域長 野澤 恵
E-mail: satoshi.nozawa.i@vc.ibaraki.ac.jp
【待遇・賃金等に関する問い合わせ先】
総務部人事労務課人事係
電 話：029-228-8013, E-mail: ninyou1@ml.
ibaraki.ac.jp
応募締切：令和5年10月16日(月)（必着）
詳細は下記リンクをご覧ください
https://www.ibaraki.ac.jp/employment/r6_earth.pdf

CALENDAR

2023.9～

地球科学分野に関する研究会、学会、国際会議、などの開催日、会合名、開催学会、開催場所をご案内致します。会員の皆様の情報をお待ちしています。
★印は学会主催、（共）共催、（後）後援、（協）協賛。

2023年

9月 September

第40回歴史地震研究会（小田原大会）

9月1日（金）～3日（日）
会場：小田原三の丸ホール（神奈川県小田原市本町1丁目7-50）
<https://www.histeq.jp/index.html>

（後）第66回粘土科学討論会

9月12日（火）～13日（水）
会場：戦災復興記念館（仙台市青葉区大町）
<http://www.cssj2.org/>

日本鉱物科学会2023年年会・総会

9月14日（木）～16日（土）
会場：大阪公立大学杉本キャンパス（大阪市住吉区杉本）
<http://jams.la.coocan.jp/>

★日本地質学会第130年学術大会（2023京都）

9月17日（日）-19日（火）
会場：京都大学

2023年防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）

9月17日（日）-18日（月・祝）
場所：横浜国立大学（横浜市保土ヶ谷区常盤台）
<https://bosai-kokutai.jp/2023/>

（共）2023年度日本地球化学会 第70回年会

9月21日（木）～23日（土）

開催場所 東京海洋大学品川キャンパス会場（一部ハイブリッド）
口頭（ハイブリッド）、ポスター（対面）
<http://www.geochem.jp/meeting/>

第32回 地質汚染調査浄化技術研修会（座学オンライン第6回目）

9月22日（金）19:30～21:30
内容：地質汚染調査におけるボーリング調査その1
講師：風岡 修/檜山知代/成澤 昇
参加費無料（事前登録制）
<http://www.npo-geopol.or.jp/sympo.htm>

学術会議公開シンポジウム：文化施設としての自然史系博物館を考える

9月23日（土）13:00～18:00
オンライン開催（配信、定員500名）
参加費無料・要事前登録
9月21日締切（定員になり次第締切）
<https://www.scj.go.jp/ja/event/2023/348-s-0923-2.html>

日本堆積学会20周年記念行事

9月30日（土）
会場：法政大学市ヶ谷キャンパススカイホール
早期参加登録（9月15日締切）
<https://sites.google.com/view/ssj20th/home>

10月 October

（協）Techno-Ocean 2023

10月5日（木）～7日（土）
会場：神戸国際展示場2号館（ほか）
<https://to2023.techno-ocean.com/>

JAAS年次大会2023「会いに行ける科学者フェス」

10月7日（土）～13日（金）
会場：秋葉原UDX（東京都千代田区外神田）&ハイブリッド
<https://meetings.jaas.science/>

国際 Gondwana 研究連合 (IAGR) 2023年総会及び第20回 Gondwana からアジア国際シンポジウム

10月8日～9日（シンポジウム）
10月10日～11日（糸魚川ユネスコ世界ジオパーク野外巡検）
会場：新潟大学中央図書館ライブラリーホール（新潟市西区五十嵐2の町8050）
問い合わせ：M. Satish-Kumar, iagr2023@geo.sc.niigata-u.ac.jp

2023年度日本火山学会秋季大会

10月18日（水）～21日（土）
会場：かごしま県民交流センター（予定）
<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/>

2023年度第2回地質調査研修

10月23日（月）～27日（金）

場所：島根県出雲市長尾鼻周辺（小伊津海岸）
定員：6名（初級者向けの内容です。定員になり次第締切）
<https://www.gsj.jp/geoschool/geotraining/2023-2.html>

第4回 鉱物肉眼鑑定研修

10月25日（水）～27日（金）
主催：産総研コンソーシアム「地質人材育成コンソーシアム」
研修場所：産総研つくば第七事業所
定員：5名（鉱業系の会社（商社含む）・組織の方に限る）
申込締切：10月2日（定員になり次第締切）
<https://www.gsj.jp/geoschool/koubutsu/4th.html>

第32回 地質汚染調査浄化技術研修会（座学オンライン第7回目）

10月27日（金）19:30～21:30
内容：地質汚染調査におけるボーリング調査その2
講師：風岡 修/檜山知代/成澤 昇
参加費無料（事前登録制）
<http://www.npo-geopol.or.jp/sympo.htm>

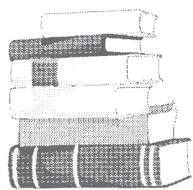
12月 December

第32回 地質汚染調査浄化技術研修会（座学オンライン第8回目）

12月8日（金）19:30～21:30
内容：観測井戸の設置地点・深度、電気検層他
講師：成澤 昇
参加費無料（事前登録制）
<http://www.npo-geopol.or.jp/sympo.htm>

地質学史懇話会

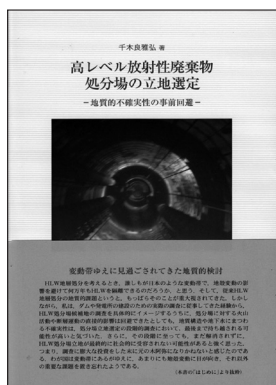
12月17日（日）13:30～17:00
場所：王子、北とびあ 805号室
小澤健志：ライブニッツ(1646-1716)から見たP.ハルツィングの風車・水車計画
矢島道子：日本最初の理学博士保井コノ
問い合わせ：矢島道子 pxi02070@nifty.com



紹介

高レベル放射性廃棄物処分場の 立地選定 —地質的不確実性の事前回避—

千木良雅弘 著



近未来社 2023年6月8日発行
ISBN 978-4-906431-55-7 c1044, A5判
168ページ、文献リスト付き 索引なし

近未来社からの著者の8冊目の学術書である。本書の構成は、「はじめに」(p. 7-)、第1章「日本の高レベル放射性廃棄物 (HLW) 地層処分に向けた研究開発の流れ」(p. 15-)、第2章「日本のHLW地層処分の考え方と処分場立地選定の方法」(p. 23-)、第3章「日本のHLW地層処分研究の問題点」(p. 39-)、第4章「隠れた地質的問題」(p. 45-)、第5章「様々な地質の構造と性質」(p. 73-)、第6章「不確実性の事前回避と最近の立地選定の状況」(p. 145-)、「あとがき」(pp. 155-162)となっている。「はじめに」の冒頭には「本書は私個人の責任で書いた著作であり、私が理事長を務めている公益財団法人深田地質研究所の総意を著したのではない」という断り書きがある。また、10頁では「HLW地層処分関係の研究開発に地質学の立場から第三者的に長くかかわってきた人は意外に少なく、私はその一人だと思う」としてその関わりを述べている。

本書の帯には「変動帯ゆえに見遇されてきた地質的検討」という見出しで「はじめに」の抜粋があり、それを更に要約すると、「処分場に対する火山活動や断層運動の直接

的影響は回避できたとしても、地質構造や地下水にまつわる不確実性は、処分場立地選定の段階的調査において、最後まで持ち越される可能性が高い・・・わが国は変動帯にあるがゆえに、あまりにも地殻変動に目が向き、それ以外の重要な課題を置き忘れたようである」とのことである。この「不確実性」を実例に沿って解説したのが本書のほぼ半分を占める第5章で、原子力発電環境整備機構 (NUMO) によるセーフティーケース (包括的技術報告書、概要説明: <https://www2.nra.go.jp/data/000359348.pdf>) の検討対象母岩の3つのモデルの設定にとらわれず、著者の地質調査経験から、地層本来の均質 (不均質) 性に注目して、新第三紀火山岩類 (寿都・神恵内、NUMOの3モデル外)、新第三紀堆積岩類 (幌延、NUMOも同語)、付加体 (「先新第三紀堆積岩類」)、花崗岩類 (瑞浪、深成岩類) の4種の地質を解説している。

新第三紀火山岩類についてNUMOは「処分場の設計および安全評価の観点から深成岩類と類似」とするが、本書ではこれを「間違いである」と断言している (p. 74)。深成岩類は割れ目を除けば均質なに対して、新第三紀火山岩類は本来の性質として不均質であり、非常に透水性が高い部分があって、同じ地質の泊発電所の例を挙げ、多数のボーリング調査をしないと地下の構造を把握するのが難しく、そのような調査を行うこと自体が、処分場の建設には好ましくない」と述べている。

新第三紀堆積岩類は「軟岩」であるがゆえに破断することなく変形し、割れ目ができては続成作用の過程で閉じてしまい、このような性質はHLW地層処分にとって有利な性質と考えられてきた (p. 97)。しかし、珪藻泥岩など化学的条件で硬くなった地層は割れやすく、高圧の地下水によって泥火山が生じることもあり、「日本海側の褶曲地域は、油田胚胎地域や断層沿いではないにしても、処分場立地選定にはあまり好ましいとは言えない」(p. 111)。なお、石狩、常磐、北九州などの古第三紀堆積岩地域は、その多くが石炭層を含んでおり、将来採掘される可能性があるため、これも処分場立地には不適である。

付加体は資源エネルギー庁の「科学的特性マップ」(2017) の「好ましい特性が確認できる可能性が相対的に高い地域」に多く含まれ、上述のNUMOの3モデルのうち「先新第三紀堆積岩類」に当たる。著者の評価では、付加体は大規模な破砕帯を伴う衝上断層を多く含み、「文献調査の結果断層破砕帯はあまりないように見えても、調査をしてみた結果、多数の破砕帯があった、という結果になりうる。付加体は地質的不確実性が高いことから、HLW地層処分場の立地選定には適していない」(p. 123)。

花崗岩類は、我が国など多くの国で処分場の母岩として検討されてきた。実際、フィンランドやスウェーデンでは花崗岩にHLW地層処分場が決定された。ただし、これらは安定大陸にあり、割れ目も少ない。一方、我が

国で見る花崗岩は大部分が多くの割れ目を有している。しかし、日本でも花崗岩体の芯の部分は割れ目が少なく、そこはHLW地層処分場の有力候補である (p. 124)。岐阜県瑞浪の超深地層研究施設 (既に閉鎖、埋め戻し済み) では深さ500mまで立て坑と水平坑道が展開されたが、これらは高角度の断層と交差する形で掘削され、断層近傍の岩盤の性質に関しては詳しいデータが得られたものの、断層から離れた、割れ目の少ない花崗岩の情報に限られている (p. 143)。

本書には若干記述不足や誤りと思われる部分がある。本書56頁に、原子力発電所の新規制基準では「将来活動する可能性のある断層等」の活動性評価において、「12~13万年前より古い地層が断層を被覆し、断層によって切断されていなければ将来的な断層の活動を考慮する必要はない」とされている」と書いてある。これは「上載地層法」による評価であり、それ自体は正しいが、実際は原子力規制委員会が新規制基準への適合性を認めた発電所等の約半数において、「鉱物脈法」が用いられてきた (地質審査ガイド, p. 13 (5), 20 (2) ⑥: <https://www.nra.go.jp/data/000069164.pdf>)。

本書では著者の豊富な野外調査経験に基づくエピソードが多く語られる。1/5万地質図「南部」(山梨・静岡県境) で数kmにわたって断層がない山地でも、実は20~100m間隔で平行な断層が分布し、それに沿って「山向き小崖」や「線状凹地」が発達する (p. 54-55)。一方、千葉県北東部の屏風ヶ浦では7kmの範囲で断層がほとんどない (p. 58-59, 口絵①)。そして、四万十付加体の中に地下発電所を建設しようとして (場所は不詳)、その周囲の半径1km程度を踏査したら、塊状硬質な砂岩が連続して露出していた。この段階で「もう調査はいらないですね」となったが、念のため予定地をボーリング掘削して「大丈夫」なことを確かめた。「このように、「安心して」調査・工事を進められることは、HLW地層処分にあたってきわめて重要である。そのために、不確実性の回避は不可欠なことである」(p. 146) という話は、「付加体は処分場の立地に不適」とする上述の著者の主張と一見矛盾するが、HLW地層処分場選定の段階的調査においては、まず地質踏査を優先して行うべきとの著者の指摘 (p. 40-44) は説得力がある。

なお、原子力規制委員会は、「第二種廃棄物埋設の廃棄物埋設地に関する審査ガイド」(2022.04.20, 改正前は「中深度処分の…」) (<https://www.nra.go.jp/data/000387588.pdf>)、 「特定放射性廃棄物の最終処分における概要調査地区等の選定時に安全確保上少なくとも考慮されるべき事項」(2022.08.24, 資料の表題は「地層処分において安全確保上…」) (<https://www.nra.go.jp/data/000402042.pdf>) などを公表してきた。

拙稿に貴重な御意見を賜った原子力規制委員会委員長代理の田中 知先生に感謝する。(正会員 原子力規制委員会委員 石渡 明)



図1 東大路から見た博物館外観

京都大学をめぐる研究者達の足跡

高井正成・竹之内惇志

博物館の沿革

京都大学総合博物館は、京都大学に附属する博物館です（図1）。京都大学は、明治30年に京都帝国大学として創設されましたが、十全な研究・教育活動を行なうための拠点として学術標本を収蔵・管理するための施設が必要であると考え、創立当初から大学博物館の設置を構想し、一次資料の収集を開始していました。明治40年に、文科大学（のちの文学部）史学科の開設によって国史学・地理学・考古学の資料収集に拍車がかかり、大正3年には陳列館の最初の建物が竣工しました。以後3次にわたる増築によって全館が完成し、史学科各講座と美学美術史学の文化史関係資料が収蔵されるようになりました。この一学部としては比類のない貴重なコレクションによって、文学部陳列館では内外の注目を集める学術活動が進められました。

しかし、陳列館の建物は戦後には老朽化が進行して資料の活用に困難をきたすようになったため、文学部は昭和30年に文部省により博物館相当施設の指定を受け、同34年陳列館を博物館と改称し、収蔵品目録を刊行するなど、博物館機能の回復と新たな展開を試み、同時に老朽化した建物の改築に着手し、昭和61年に新館を竣工しました。長らく停止していた一般公開を実現し、収蔵品の研究と保全をさらに推進するなど、活動内容を飛躍的に高めることとなりました。

一方、理学部・農学部・教養部（旧第三高等学校）などでも、研究に用いられてきた学

術標本資料が膨大な数量となりました。その十分な管理と活用のため、平成元年に『京都大学自然史博物館基本計画』が作成され、既存の文学部博物館と新設の自然史博物館とを統合した「京都大学総合博物館」が構想されました。さらにこれに加え、工学部・農学部などに収蔵されていた歴史的価値の高い技術史関係の機器・実験器具・資料を加えて、文化史・自然史・技術史の3つの分野からなる京都大学総合博物館として、平成9年4月1日に発足しました。建物は京都大学吉田キャンパス本部構内の西端に位置し、旧文学部博物館を文化史系展示場（北館）、南側に自然史系展示場として新館（南館）を増設して、平成13年6月に開館・一般開放を始めました。開館後は、常設展示と年1〜2回の企画展を中心に、適宜特別展を行うとともに、標本の維持・管理の充実に努めています。また、社会貢献・教育活動の場として、毎月公開講座等を企画・運営しています。京都大学が開学以来、100年以上に亘って収集してきた貴重な学術標本資料（文化史、自然史、技術史）を約260万点以上収蔵しています。

平成28年には総合博物館1階ロビーに研究資源アーカイブ映像ステーションを移設し、これまで京都大学の教員が行ってきた国内外のフィールド調査などの映像資料をアーカイブ化し、常時上映展示を行っています。本稿では、主に理系標本と理系の研究活動について紹介します。



図2 愛媛県市ノ川鉱山産輝安鉱の群品

館内展示

東大路に面している正面玄関を通って内部に入ると、正面に総合博物館の紹介パネルがあり、左は映像ステーションの鑑賞スペースがある広いホールになっていて、ホールの奥は文化史系の展示スペースと北館の陳列室へと続いています。右に続いている自然史系の展示スペースには、最初に京都盆地の地質構造を解説するパネルが並んでいます。当館には京都市内から来るお客さんが多いので、直ぐ近くを走っている花折断層の説明を読んでいる人がたくさん見受けられます。さらにその奥に進むと、本学名誉教授の鎮西清高博士が収集した様々な牡蠣類の化石の展示があります。マガキ（*Crassostrea gigas*）をはじめとした、カキ類がどのように進化してきたのかを、実物の化石を展示して丁寧に解説しています。つづいて鉱物の常設展示コーナーには、愛媛県市ノ川鉱山の巨大な輝安鉱の群品が置かれています（図2）。保存状態が極めてよく、左右48 cmにもなるこれほど大きな標本は国内に類のない最高峰の標本です。また、このコーナーの標本は旧京都帝国大学の標本室で利用されていた棚を再利用した棚に展示され、当時の標本室の様子を体感できるようになっています。

その奥の展示スペースには、京都大学理学部地質学鉱物学教室の教員が中心となって収集した日本産のゾウ化石が並べられています。入口に設置されたショーケースには、ナウマンゾウ（*Paleoloxodon*）の頭骨化石の模型と現生のアジアゾウ（*Elephas*）の頭骨が並んでいます（図3）。頭骨の「額」の部分に空いている穴が鼻孔で、ここからゾウの特徴である長い鼻が伸びています。ゾウはその進化の過程で頭骨の形状が大きく変化しました。右奥には岐阜県瑞浪市で見つかった原始的なゾウの1種であるゴンフォテリウム（*Gomphotherium*）の下顎骨が展示されていますが、ナウマンゾウと比べると顎が前後に長く、下顎にも牙がある事がわかります。このコーナーには、ステゴドン（*Stegodon*）やマンモス（*Mammuthus*）の歯が展示されているので、ゆっくり見て下さい。ゾウの下顎や歯は、その進化の過程で形がすっかり変わっていることがわかります。

さらに左に進むと、京都大学発祥の霊長類研究の展示コーナーが続いています。戦前に宮崎県幸島での野生ニホンザルの研究から始まった日本の霊長類学が、やがて海外へと進出し、アフリカのチンパンジーやゴリラとい



図3 ゾウ化石の展示コーナー。手前のショーケースに並んでいるのが、ナウマンゾウ（左）と現生アジアゾウ（右）の頭骨。右端の展示棚にはゴンフォテリウムの下顎が置かれています。



図4 (左) 白亜紀チューロニアン期の巨大なアンモナイト。直径が85 cmもあります。1997年8月に、斎藤良氏などが北海道夕張市大夕張白金沢で発見したもの。図5 (右) 三稜石(西山コレクション)。南極の乾燥した条件下で、風食作用を受けて表面が磨かれて特徴的な平面や稜が形成されています。

った類人猿研究へと発展してきた歴史がパネルにまとめられています。それまでの欧米の研究者とは違って、日本の霊長類学者は100頭を超えるサルの子の群れの全ての個体に名前を付け、それぞれの個体の行動を追跡することでニホンザルにおける社会行動や個性を明らかにしてきました。中央に設置されているモニターでは、こういったニホンザルの生態観察のビデオが常に流れているので、しばらく立ち止まってご覧になることをお勧めします。また、その奥にある円形の階段状の「ミュージラボ」では、1ヶ月おきに京都大学出身の研究者による一般向けの講演が行われています。

更に進むと、京都大学の研究者が行ってきた栽培植物の起源に関する展示と温帯林の生物多様性についての展示がならんでいます。その奥に、マレーシアのカリマンタン島の熱帯雨林を模した「ランビルの森」が茂っています。時々、雷鳴がとどろき雨の音がしてくるのでびっくりさせられます。階段を上って2階にあがると、この森に住む昆虫類の展示があり、森を上からのぞき込むことができます。

2階の企画展示室では、その時々々の企画展が行われています。2階の南館と北館を繋ぐスペースには、技術史展示室があり、実験機器や機構模型を動かして遊ぶことができます。北館に渡ると、江戸時代の京都の古地図や古文書などが展示されており、1階に降りてくると巨大な石棺や石碑が迎えてくれます。また1階のフロアーには、北海道夕張市で発見された白亜紀中期の巨大なアンモナイト (*Pachydesmoceras pachydiscoide*) が飾られています。直接手で触ってひんやりした化石の重さを実感して下さい(図4)。

活動紹介(教育普及・資料収集・調査研究)

当館では、基本的な資料収集の他に教育普及と調査研究を平行して進めています。現在、学術標本資料約260万点が収蔵されており、さらに毎年文系・理系の両方の数千点の標本が寄贈されています。こういった標本の中には、国宝・重要文化財・タイプ標本・パウチャー標本が多く含まれていて、収蔵庫で大切に保管され、研究や教育のために活用されています。現在、分類群ごとに少しずつ所蔵標本の目録化作業を進めており、2022年には、「京都大学総合博物館収蔵資料目録第10号：教養部・第三高等学校由来動物標本(第一部脊椎動物標本)」が出版されました。現在、京都大学学術情報ポジトリ(KURENAI)

の以下のサイトで公開されています。

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/281790>

調査研究としては、東南アジア諸国(中国・ベトナム・台湾・ラオス・タイ・ミャンマー・フィリピン)の研究機関と学術交流協定を結び、様々な調査交流事業を推進しています。東南アジアにおける齧歯類や食虫類などの現生の小型哺乳類の多様性に関する野外調査や、ミャンマーにおける新第三紀の陸棲哺乳類の進化に関する古生物学的調査を進めています。

教育普及活動としては、博物館の教員が中心となって、学芸員養成課程の授業(博物館展示論・博物館教育論・博物館情報・メディア論・博物館資料保存論・博物館実習)や、博物館の施設や標本を使用した様々な講義・セミナーを受け持っています。また、館外から講演者を招待して開かれる「レクチャーシリーズ(ミュージラボで隔月開催)」に、主に館内の研究者が行う「総合博物館セミナー(南館2階セミナー室で隔月開催、オンラインで視聴可)」に、館内外の研究者が講師を務める「夏休み学習教室(8月集中開催)」に、学内のボランティアが中心となって開催する「子ども博物館(1階フロアで土曜日不定期開催)」などの社会貢献活動も行っています。

主な地質学関係の所蔵資料

<鉱物標本> 当館には125年前から教育・研究用に蒐集された2万点を超える鉱物・岩石標本が所蔵されています。当館の鉱物標本には大きく3つの由来があり、それぞれ移管元の名をとって「三高標本」「農学部標本」「工学部標本」と呼んでいます。三高標本は旧制第三高等学校から教育学部へ引き継がれてきたもので、3163点260種の鉱物から成るコレクションです。島津製作所標本部やドイツのクランツ商会から購入した標本が数多く含まれ、教育用標本としての側面が強く見られます。農学部標本は、現在整理中の標本で標本数は400～500点程度と少なめのコレクションです。ラベルや標本が散逸しているものが多く、保存状態も決して良くはないですが、輝安鉱の巨晶などいくつかの立派な標本が含まれています。工学部標本は1万点以上の当館最大の鉱物コレクションで、主に旧京都帝国大学の採鉱冶金学科教授の比企忠によって蒐集されたものです。私達は親しみを込めて比企標本とも呼んでいます。日本の鉱山最盛期の鉱石標本が多く、現在では入手不可能な

一級品の標本が数多く含まれています。また比企コレクションには、日本の隕石54個のうちの一つである岡野隕石(1904年に兵庫県丹波篠山市に落下)も含まれています。これらの鉱物標本はその由来にあるように、特に教育への利用を推進しているため、収蔵室の教育目的での見学や展示等での標本貸出をご希望の場合はいつでもご相談ください。

<岩石標本> 当館には、工学部や農学部から寄贈された鉱石・岩石標本も多数保管されています。2017年には、工学部資源工学科(旧地質鉱床学研究室、旧応用地質学研究室)及びエネルギー科学研究科(資源エネルギーシステム研究室)などから、1,319点の鉱石・岩石標本(国内550点、海外584点、その他185点)が寄贈されました(図5)。これらの標本は、京大名誉教授の西山孝博士が中心になって中国・オーストラリア・インドネシア・ニューカレドニア・コンゴ・南アフリカ・南極など、7大陸20カ国から収集したものです。現在、「西山コレクション」として目録冊子の公開の手続きを進めており、1階展示スペースでの展示も検討しています。

<化石標本> 地下の収蔵庫には数万点に及ぶ化石標本が保管されています。大部分の標本はまだ整理できていませんが、京都帝国大学の横山次郎博士が収集した化石(676点)など、学術雑誌に記載されている標本はデータベース化され、JPaleoDBとしてネット上で公開されています(<http://jpaleodb.org/institution/result.php?datsr=KtUM>)。また、化石の比較同定のために必要な現生生物は、哺乳類が約2万2千点、爬虫類が約8万点、両生類が約20万点、そして魚類は約10万点も収蔵されています。このなかには山梨県の西湖で再発見されたクニマス(サケ科)や野生絶滅種のミナミトミヨ(トゲウオ科)のタイプ標本も含まれています。また、植物標本は120万点以上収蔵されており、国内最大級のコレクションとなっています。当館の誇るコレクションを是非ご利用下さい。おこしやす。

info

京都大学総合博物館

〒606-8501

京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館

休館日：月曜日、火曜日

<https://www.museum.kyoto-u.ac.jp>

☆関東支部

お知らせ

関東地震100年関連行事
講演会「関東地震から100年」のお知らせ

日本地質学会関東支部は、1923年関東地震から100年を機に、地質災害としての記憶を新たにすることを企図し、日本地質学会地質災害委員会と協力して、講演会と野外巡検を企画しています。講演会はオンライン形式で開催し、2名の講師にお話しいただきます。テーマは「1923年関東地震で発生した土砂災害」と「歴史地震の発生履歴から見た大地震発生の傾向分析」です。主催：日本地質学会関東支部・日本地質学会地質災害委員会 後援（予定）：一般社団法人 関東地質調査業協会

日程：9月30日（土）13:30-16:10（入室は13:00から）

対象：地質学会会員・関東協会会員企業に所属する社員および一般の方（オンライン形式：会員優先）

定員：150名を上限とする

CPD単位：2.5取得可

申込期間：9月1日（金）～9月22日（金）17:00締切

申込方法：地質学会HPから申込を行ってください。

お問合せ先：関東支部幹事 笠間友博（箱根ジオパーク）

メール：kasama@mh.scn-net.ne.jp

プログラム

13:30～13:33 開会 司会挨拶・連絡

13:33～13:35 開会の挨拶 日本地質学会地質災害委員会委員長 松田達生

13:35～14:35 『関東大震災と土砂災害』講師：井上公夫 氏（一般財団法人砂防フロンティア整備推進機構）

【概要】演者は中央防災会議・災害教訓の継承に関する専門調査会（2006）の関東地震小委員会で、土砂災害地点の調査と分布状況の調査を行った。これらの調査結果をまとめて、拙著『関東大震災と土砂災害』を10年前の9月1日に発刊した。関東地震による激震や火災によって、10万5000人もの死者・行方不明者となったが、土砂災害のみでも1000人以上の犠牲者となっている。震源域が神奈川県から房総半島南部地域であったため、神奈川県を中心に激甚な土砂災害が多発した。土砂災害調査については現在も調査を継続しており、①横浜（ブルの逃避行ルートを歩く）、②横須賀・浦賀、③秦野・震生湖、④小田原市（根府川・白糸川流域）の4地域の現地見学会を行った。これらの結果については、いさぼうネット「歴史的大規模土砂災害地点を歩く」のコラム37,38,39,40,41,42,74,82,83,84などで公表している。ここでは、関東地震による土砂災害の分布状況と地形・地質特性の概要について説明する。

14:35～14:45 質疑応答

14:45～14:55 休憩

14:55～15:55 『将来の関東地震・南海トラフ地震と地震西進系列』講師：石渡 明 氏（元地質学会会長・原子力規制委員会）

【概要】河角（1970）は関東大地震69±13年周期説を唱えたが、既に大正関東地震から100年経過した。南海トラフ地震は684年以來9回の記録があり周期性が指摘されるが、それらの間隔は90～262（平均158）年と一定せず、最近3回（宝永、安政、昭和）の間隔は147年及び90年と短い。日本付近の大地震の時空分布を概観すると、北海道・東北地方太平洋沖から関東を経て南海トラフ、琉球・台湾へと大地震が西進する傾向が認められる（石渡、2019）。最近の例は1896明治三陸地震津波、1923大正

関東地震津波、1944・46昭和南海トラフ地震津波に代表され、同様の西進系列は1854安政、1707宝永、1498明応、887仁和の南海トラフ地震にも認められる。2011東北地方太平洋沖地震は最新の西進系列の東の代表であり、過去5回の西進系列の東北地震と南海地震の間隔は18～60年なので、次の南海地震は2029～71年の間に来る（そして、その前に関東地震が来る）ことが予想される。

15:55～16:05 質疑応答

16:05～16:07 閉会の挨拶 関東支部支部長 向山 栄

16:07～16:10 閉会 連絡

☆関東支部

報告

講演会「県の石－埼玉の岩石・鉱物・化石－」
開催報告

日本地質学会は、全国47都道府県の特徴的な岩石・鉱物・化石について「県の石」として選定し、2016年5月10日（地質の日）に発表した。関東支部では県の石の講演会を、神奈川県（2022年3月5日）、茨城県（2023年1月22日）とオンラインで実施してきた。今回はその第3弾として、ハイブリッド方式で2023年7月8日（土）に埼玉県県の石の講演会を共催の埼玉県立自然の博物館（秩父郡長瀬町）にて、同博物館スタッフのご支援のもと行った。加えて今回は、講演会終了後に岩石と鉱物の見学会を荒川の河原で、化石の見学会を自然の博物館展示室でそれぞれ講演者の案内で行った。

募集は現地60名、オンラインはネット環境に合わせて40名とし、現地52名、オンライン29名、合計81名の参加があった。CPD単位取得者（2.5単位）は22名であった。会員・非会員の割合は、現地参加は約2/3が非会員、オンライン参加は逆に2/3弱が会員であった。現地参加者は博物館関係者によると、博物館友の会員等の馴染みの参加者だけではなく、広く一般の参加者が多かったとのことであった。

県の石の岩石（片岩）と鉱物（スチルプノメレン）は、『秩父青石の利用と宮沢賢治・保阪嘉内在歌に詠んだ岩石・鉱物』というタイトルで、元埼玉県立自然の博物館館長の本間岳史氏が講演を行った。三波川帯の解説からスチルプノメレンの結晶の特徴、産状の紹介があり、石材としての片岩の歴史的な利用について、秩父青石を使用した板碑およびその採石・製作遺跡について具体例を挙げて説明があった。また、片岩と文学との関わりについて、宮沢賢治と親友の保阪嘉内の秩父巡検旅行を取り上げ、詠まれた2人の歌とその作風の違いについての説明などがあった。

県の化石（パレオパラドキシア）は、『県立自然の博物館の世界一のパレオパラドキシア化石コレクションとその研究』というタイトルで、埼玉県立自然の博物館学芸員の北川博道氏が講演を行った。パレオパラドキシアの名前の由来から、化石自体が世界で60例程しか知られておらず、その約3分の1が埼玉県からの産出である事の紹介があり、博物館にある大野原標本と般若標本の全身骨格2体の体の向き、堆積後の骨の移動の解説などがあった。

講演会後、参加者は2グループに分かれて、荒川の河原にある虎岩（スチルプノメレン片岩）と博物館のパレオパラドキシアの化石標本の解説を受けた。終了近くに雨が降り出したが、



写真（上段左）本間岳史氏。（上段左中）北川博道氏。（上段右）会場の様子。（下段左）県の岩石と鉱物の見学会。（下段右）県の化石の見学会

観察会は無事終了した。

アンケートは回収が12と少なかったが、講演内容、運営に関して概ね評価4以上をいただいた。良かったと思う意見としては「大変分かり易く解説されていました。」、「板碑でよくみる緑泥片岩の他にも化学組成の異なる多種類の片岩があることを認識しました。骨から読み解けることがたくさんあることを知りました。」など、また、改善すべき点としては「Zoomのクリック音（入室・退室時の？）が頻繁にあって聞きづらかったです。」、「講演会後の現場見学会もリモートでみたいです。」など、今後の日本地質学会関東支部に期待する講演会、シンポジウム、

見学会等については「講演会が素晴らしかったですので、過大な要望かもしれませんが、説明に出てきた露頭や発掘場所などを回る見学会なども別途、合わせて開催されたら嬉しいです。」など、関東支部に対するご意見ご要望については「岩石や地層、地質は大好きなのですが専門の勉強をした訳ではない素人なので、今後も一般向けの講演や現地見学会が開催されると嬉しいです。」などの意見をいただいた。

「県の石」講演会は好評で、関東支部では今後も引き続き講演会を開催する予定である。

（箱根ジオパーク推進室 笠間友博）

表紙紹介

第14回惑星地球フォトコンテスト：スマホ賞 「スナヘビの大群」

写真：高場智博（長崎県）

撮影場所：長崎県 五島列島福江島の高浜海岸島

審査委員長講評：写真とタイトルを見て一瞬、何だろうと思わせるのがこの作品の魅力です。解説を読むとなるほどと納得です。この作品では余分なものを一切いれず、スケールとなるものが入っていないが魅力となっています。現在のスマホでは標準的な1200万画素のカメラで撮影していますが、このカメラならA4サイズのプリントには十分です。（審査委員長 白尾元理）

地質解説：高浜ビーチは、五島列島、福江島の北西部に位置する遠浅ビーチです。透明な海水と真っ白い砂浜で夏は海水浴で賑わいます。周囲は中新世の五島層群に取り囲まれ、すこし北に行くと三井楽地域の数万年前の玄武岩台地からなり、黒い岩石の地質帯のなかに突然現れる真っ白い砂は、細かな貝殻の破片からなっています。冬の季節風と強い波によって海底からの細かい貝殻破片が狭い高浜ビーチに寄せ集まります。潮が引くと、ウエーブリップルが教科書のように残り、美しい景観を残しています。接写でリップルの状態を取ったのは、ジオパーク教育が浸透してきたことをうかがえます。一般の人は砂蛇にみえるのかと驚きました。NHK朝ドラの「舞いあがれ」でも何度も登場しました。（清川昌一：九州大学）

地質学雑誌

地質学雑誌は、2022年（128巻）からは完全電子化となりました。会員の皆様に、公開されている新しい論文をご紹介します。ぜひJ-STAGE上で本論文を閲覧してください。QRコードからも各原稿にアクセスして頂けます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/geosoc/-char/ja>

新しい論文が公開されています

巡検案内書 モデル実験から理解する沖積河川の堆積・侵食・地形発達作用

成瀬 元

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2023.0012>

このワークショップでは、堆積地質学で用いられるモデル実験を体験し、その意義について議論する。まず、小型の水路を使って沖積河川を模した実験を行う。この実験では沖積河川を流れる土砂の流量や粒度を変化させ、河川地形に与える影響を検討する。水路の下流端に堰を設け、海や湖・ダムへそそぐ河川の地形発達作用を観察する。次に、簡便な数値モデルを用いて2種類の数値実験を行う。一つ目の実験は土砂流量を変化させることで起こる河川地形変化を再現する。二つ目の実験は水平2次元格子モデルによるベッドフォームの形成実験である。計算領域の格子間で土砂を流入・流出させ、ベッドフォームが発達し移動する様子を観察する。これらの実験を通じて、モデル化により複雑な自然現象の本質を抽出することの楽しみが参加者に伝わることを主催者は期待している。



巡検案内書 オープンソースGISを使ってみよう

根本達也、植田允教、ラガワン ベンカテッシュ

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2023.0010>

GIS (Geographic Information System) は空間情報を扱う地質学分野において非常に有効なシステムである。本コースでは、GISを利用するための基礎的な概念や機能について解説する。また、オープンGISのGRASSとQGISを用いた実習を行う。実習では、地形解析、人工衛星画像解析、3次元地質モデルの可視化などを行う。



論説 沖縄本島、前期更新世“知念変動”におけるメタン由来ドロマイト・コンクリーションの生成

松本 良、武内里香、中川 洋、佐藤時幸、井龍康文、松田博貴、小松原純子、佐藤道夫

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2023.0008>

沖縄本島南部に広く分布する島尻層群とそれを覆う知念層の関係については、長い時間間隙/陸上不整合説と同時異相/整合説の2つが提示されてきた。新たに出現した大規模露頭の精査により島尻層群最上部の新里層を時間間隙なく厚い砂質スランプ層が覆い、これが知念層基底を成すことが分かった。境界付近にはドロマイト・コンクリーションが多産することも明らかになった。ドロマイトの同位体組成は両層の境界付近で堆積盆が少なくとも250 m浅化したことを示す。広域的浅海化によりスランプが発生、同時に島尻層群のメタンハイドレ



トが分解してメタン・フラックスが強くなりメタン由来ドロマイト・コンクリーションの生成が進んだと考えられる。

巡検案内書 淀川の氾濫と河川改修

三田村宗樹

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2023.0007>

琵琶湖より下流の淀川流域は、これまで幾度も氾濫を繰り返してきた。1885年（明治18年）の氾濫は、淀川流域の水害の中でも最大規模であった。この水害をきっかけとして、本格的な淀川の河川改修がなされた。この改修では、大阪平野域の淀川の蛇行が和らげられ、現在の淀川本流となる直線的な排水路としての新淀川が開削された。大阪市内中心部を流れる大川（旧淀川）は、毛馬洗堰によって新淀川と分離され、大川への流量制御が行われるようになる。この毛馬洗堰には、水準測量の基準点である水準基標が設置されていた。しかし、1946年昭和南海地震に伴う地殻変動、第二次世界大戦後の復興期の過剰な地下水揚水に伴う地盤沈下によって、基標の変動が生じ、水準基標は茨木市福井に移設された。現在の毛馬には、改築された洗堰や大規模排水機場があり、大阪市内の洪水防止を担う重要な箇所となっている。本巡検では、毛馬から大川沿いを歩き、災害履歴や河川改修とともに地域の水害リスクを考える素材としての明治18年淀川大洪水や淀川改修工事にかかわる石碑や遺構などを見学する。



論説 アパタイト微量元素組成を用いた仙台地域の鮮新統・向山層の層序と凝灰岩の対比

草川 遥、高嶋礼詩

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2023.0005>

鮮新統の仙台層群・向山層の岩相層序を検討した結果、同層からは対比可能な6つの凝灰岩が認められ、下位より、大堤沢凝灰岩、広瀬川凝灰岩、蒲沢凝灰岩、鹿落坂凝灰岩I、鹿落坂凝灰岩II、塩野沢凝灰岩と名付けた。これらの凝灰岩はアパタイト微量元素組成により明瞭に識別可能で、仙台地域で広く対比可能であることが明らかになった。ただし広瀬川凝灰岩に関しては、一部の地域でアパタイトや斜方輝石・角閃石の有無に大きな違いがみられ、同一の噴火によるものか、堆積後の風化・続成作用によるものかについては今後さらなる検討が必要と考えられる。向山層の凝灰岩のジルコンのU-Pb年代によると向山層の年代は3.7~3.5 Maと推定される。



学 会 記 事

2022年度第5回（定例） 理事会議事録

日 時：2023年4月15日（土）14:00-17:30
【WEB会議形式】

出席者：出席理事43名，出席監事2名

・会長1名：岡田 誠
・副会長2名：杉田律子・星 博幸
・常務理事1名：中澤 努
・副常務理事1名：緒方信一
・執行理事13名：保坂（内尾）優子・内野隆之・尾上哲治・加藤猛士・狩野彰宏・亀高正男・小宮 剛・坂口有人・高嶋礼詩・辻森 樹・松田達生・矢部 淳・山口飛鳥
・理事会議長1名：芦 寿一郎
・理事会副議長1名：小松原純子
・理事23名（議長・副議長を除く）：青矢睦月・天野一男・磯崎行雄・大友幸子・大橋聖和・笠間友博・神谷奈々・亀田 純・本郷（川村）紀子・北村有迅（14-15時出席）・桑野太輔・佐々木和彦・沢田 健・下岡和也・高野 修・西 弘嗣・野田 篤・細矢卓志・保柳康一・榊原（堀）利栄・三田村宗樹（17時退出）・山路 敦・山本啓司

監事：岩部良子・山本正司

欠席者：欠席理事7名

・理事：清川昌一・平出（黒柳）あずみ・斎藤 真・菅沼悠介・松田博貴・道林克禎・矢鳥道子

＊成立要件：理事総数50名の過半数26名 本日の出席者43名で本理事会は成立。

＊議決：出席者の過半数22名

＊開催にあたって、大橋理事および大友理事を書記に指名した。

＊会議開催にあたり、岡田会長より、挨拶：新体制となって2年目に入った。会員数の減少に歯止めをかけることが課題であり、若手会員の増加やダイバーシティの向上をさらに図っていきたい。

＊前回議事録確認

報告事項

1. 執行理事会報告（中澤常務）昨年12月以降の執行理事会議事録に基づいて説明が行われた（2023京都大会でのマスク着用、定款・規則類の整理が進行中であること、フォトコンテストの審査結果、地震火山地質子どもサマースクール、関東大震災100周年関連事業、共通テストの地学関連科目に対する地質学会からの意見について（ほか）。

2. 総務委員会（亀高理事）

・会員動静について報告された。

・ご逝去された会員（4名）について報告があり、黙祷を行った。

・オンライン会員システムの公開準備が概ね完了した旨、資料に基づき説明がなされた。また選挙システムについて、7月末を目処にシステムを作成したい、との報告があった。

・亀高理事より、資料に基づいて今年の永年顕彰者の紹介がなされた。

70年顕彰者：2名（1952年度入会者：2022年度会費まで納入済）加藤 昭・久保誠二

60年顕彰者：5名（1962年度入会者：2022年度会費まで納入済）福富幹男・宮沢忠治・原田正史・菅野重也・大口健志

50年顕彰者：12名（1972年度入会者：2022年度会費まで納入済）※1973年1～3月入会者のみ、※1972年1～12月入会者は2022年顕彰済。

小林哲夫・佐々木哲・柴 正博・鈴木清一・高橋正樹・但馬達雄・錦織英機・増田俊明・矢鳥道子・矢野孝雄・山口廣文・吉野博厚

40年顕彰者：58名（1982年度入会者：2022年度会費まで納入済）相田 優・油井 裕・荒川竜一・飯島 力・石井秀明・伊與田紀夫・内田 克・大石 徹・大野裕記・大箸義人・大和田正明・岡田浩明・兼子尚知・北川明

照・栗原秀平・郷家正志・越谷 信・榊原孝雄・佐々木理・佐々木浩・佐藤尚弘・重田寿夫・篠原 暁・柴崎俊明・柴田 尚・清水公二・清水秀登・末武晋一・杉山和稔・鈴木桂子・鈴木英雄・角井朝昭・隅田まり・仙石昭栄・曾野哲人・多賀 優・高木哲一・高見智之・田野崎隆雄・千葉茂樹・辻 喜弘・寺戸真・戸栗和広・飛田健二・中村康雄・野口一郎・野 誠二・野田芳和・久国浩之・堀内誠示・松岡敬二・松田博貴・峯崎智成・山路敦・百合野俊彦・横山義人・吉田英一・渡辺真司

3. 行事委員会（高嶋理事・山口理事）

・学術大会関連：高嶋理事より、学術大会の進捗状況について、資料に基づいて報告がなされた。2023年京都大会は、16のトピックセッションを採択した。地質情報展・市民講演会の科研費は不採択。巡検案内書は7件が査読中、未提出は2件。2024年山形大会は、会期2024年9月8日（日）～10日（火）、8コースの巡検を計画。2025年大会は熊本大学で開催予定。

・ショートコース：山口理事より、第6回ショートコース（2022年12月18日開催）および第7回ショートコース（4月2日開催）の実施報告がなされた。第7回は、応募者が定員（70名）を超えたため、10月頃に同内容（応力逆解析法）で再度実施予定とのこと。

4. 専門部会連絡委員会（尾上理事）

資料に基づいて各専門部会の2022年度活動報告報告がなされた。

5. 地質学雑誌編集委員会（小宮理事）

資料に基づいて編集状況の報告がなされた。現在23編が査読中であるが、さらに多くの投稿を期待している。

6. アイランドアーク編集委員会（狩野理事）

資料に基づいて編集状況の報告がなされた。投稿状況は順調である。受理率は60%程度。IFは1.3程度で去年より下がる見込み。

7. 地質技術者教育委員会（坂口理事）

第3回JABEEシンポジウム（3月5日開催、YouTube公開中）の実施報告と、CPD単位

の重み係数の変更について、口頭で説明がなされた。新しいCPD単位については、ジオスクーリングネットや学会HPを参照してほしいとのこと。

8. 地質の日（矢部理事）

2023年「地質の日」の学会関連の各種行事の案内があった。5月13日（土）に3つのジオパークを取り上げたオンライン普及講演会を実施する（YouTube配信）。

9. 若手育成事業検討WG（内野理事）

研究奨励金に関する書式や通知の準備状況が報告された。また、フィールドワーク賞の賞金について10万円に定めたとの報告がなされた。

10. ジオパーク支援委員会（天野理事）

市民対象公開シンポジウム「ジオパーク地域に伝わる伝承と地質学：古代からの自然観を今に活かす」（2023年1月28日開催）の実施報告がなされた。参加者214名のうち、約7割が非会員で、会員以外に多数参加いただくという目的を果たした。また高齢参加者が多く、各地域のジオガイドの参加が多かったことを反映していると考えられる。参加者の満足度は高く、イベントとしては成功した旨報告がなされた。

11. 名誉会員推薦委員会（星副会長）

名誉会員推薦における「推薦プール制度」の廃止について、次回9月理事会での審議に向けて説明がなされた。2013年に定められたプール制度は、推薦者の誤解を招きかねず、今後の推薦候補者選定に支障が出る懸念があること、候補者推薦におけるメリットが小さいことなどから廃止を提案したいと考えている。

12. ジェンダー・ダイバーシティ委員会（堀理事）

男女共同参画学協会連絡会（日本地質学会加盟）から、任期付き研究者の雇用問題解決に向けて、要望書「若手・氷河期世代研究者の待遇改善が研究力強化につながる」が発表・公開されたことについて、説明がなされた。

13. 若手有志会（下岡理事、桑野理事、神谷理事）

・地質系業界オンライン交流会実施報告：下岡理事より、資料に基づいて地質系業界オンライン交流会（2023年2月17日開催）の実施報告がなされた。今後も同様のイベントを継続して実施したい意向であることが述べられた。

・若手巡検準備状況：桑野理事より、資料に基づいて若手巡検（7/8-9実施予定、北海道洞爺湖有珠山ジオパーク）の準備状況について報告がなされた。5月参加申込受付開始予定。

・京都大会若手宿泊プラン：神谷理事より、資料に基づいて若手宿泊プランについて説明がなされた。宿泊施設は関西セミナーハウス（6200円/泊）を予約済みであり、募集や運営は若手有志会が担当する旨報告された。

14. その他

山口理事より、資料に基づいて学生優秀発表賞の具体的な選考過程について説明がなされた。2022年12月10日の理事会からの変更点として、当日多忙なLOCを評価者候補から外すこととした旨報告があった。

審議事項

- 1) 名誉会員候補者の選出（星副会長）
名誉会員推薦委員会から推薦された名誉会員候補者について資料に基づき審議が行われ、候補者2名を総会に諮ることが承認された。
- 2) 各賞受賞者の決定（山路理事）
各賞選考委員会山路委員長から受賞候補者等の選考結果が報告され、審議の結果、以下の受賞が決定した。
学会賞（1件）道林克禎会員
功績賞（2件）小山内康人会員、佐藤比呂志会員
都城秋穂賞（該当なし）
Island Arc Award（1件）田村芳彦氏
H. E. ナウマン賞（該当なし）
小澤儀明賞（1件）沢田 輝会員
柵山雅則賞（1件）大柳良介会員
論文賞（4件）入月俊明会員ほか、内野隆之会員ほか、野田篤会員ほか、吉田健太会員ほか小藤文次郎賞（該当なし）
地質学雑誌特別賞（該当なし）
研究奨励賞（4件）原田浩伸会員、佐久間杏樹会員、鈴木康太会員、山岡 健会員
フィールドワーク賞（2件）江島圭祐会員、羽地俊樹会員
日本地質学会表彰（該当なし）
- 3) 研究奨励金支給対象者の決定（内野理事）
研究奨励金選考委員会内野委員長から2022年度研究奨励金審査結果が報告され、奨励金支給対象者5名を承認した（柴田翔平会員、遠藤悠一会員、江島圭祐会員、志関弘平会員、杉浦 慶会員）。なお、内1件については使途の一部が対象外であると判断し減額したこと、審査結果の詳細を応募者に通知すること、単なるサンプリング調査は対象外であることなどが報告された。また、磯崎理事から、倫理的には当然のことであるが、過去にハラスメントや研究不正があった者は、奨励金応募や賞の推薦人・被推薦人になれないことをどこかに明記した方がよい、関連学協会でも同様の措置がとられているとの意見があった。これについて、中澤理事より表彰制度検討WGで検討したいとの返答があった。
- 4) 選挙規則類の改正（杉田副会長）
代議員、理事のダイバーシティ確保および電子投票への対応を主な目的とした、選挙規則類改正の経緯と考え方について、杉田理事より規則の新旧対照表を元に説明がなされた。所属区分別定数（旧所属別最低充足数）に加え、新たに40歳未満の正会員及び性別の属性別定数を設け、それら理事の一定数確保を目指す。審議の結果、改正案を総会に諮ることが承認された。
- 5) 若手活動運営委員会設立（下岡理事、神谷理事）

- ・非公式な組織であった若手有志会を学会の正式組織（若手活動運営委員会）とする提案が前回12月理事会で承認され、それに基づき、委員会設立の準備が進められた。担当理事より趣意書、構成委員、予算案、規則案等が説明され、審議の結果、若手活動運営委員会の設立が承認された。
 - ・辻森理事より、規則中の“若手”の定義（満35歳以下の正会員）について、学会全体での整合性や共通認識が大切ではないかとの意見があり、学会における“若手”の定義について、執行理事会、理事会で継続して議論することとなった。
- 6) 「学生会員」への学術大会等巡検参加費補助（内野理事）
若手育成事業検討WGの内野理事より、「学生会員」への学術大会等巡検参加費補助について説明があり、承認された。今後学術大会等の巡検代金（昼食代、現地までの交通費は除く）の半額が補助される。
 - 7) IGC2024に関して（岡田会長）
継続的に情報共有・協議してきたIGC2024の問題に関して、岡田会長より最近の動向として、今年2月に公開された1st circularには懸案事項であった竹島巡検および海洋呼称は含まれていないことと、3月13日付で韓国LOCから会長宛に送付された手紙には1st circularを公開したことが示される一方、それら懸案事項について直接の言及はされていないことなどが説明された。西理事（学術会議地球惑星科学委員会IUGS分科会委員長）より、IUGS分科会はIGCへの参加・協力については、個人または各組織の判断に委ねる方針である旨説明があった。また、JpGUの4月1日付メッセージ（「万国地質学会議（IGC）2024開催について」）の内容を理事会で確認した。意見交換、審議の後、公式には状況は変わっていないことから、地質学会としてサポートレターを撤回した立場を変更することは難しいという認識で一致した。一方、1st circularには懸案事項が含まれないなどの現状について、会長から会員に対して報告することとなった。
 - 8) 2022年度事業実績概要（中澤常務）
2022年度事業実績概要（案）について、12月理事会以降に実施された事業等について記述が追加された旨の説明がなされ、本事業実績概要（案）を総会に諮ることが承認された。
 - 9) 2023年度事業計画（岡田会長）
2023年度事業計画骨子（案）について、12月理事会以降の追加点として、学会HPのリニューアル、若手活動運営委員会等若手活動の支援・推進などを追加した旨説明があり、本事業計画骨子(案)を総会に諮ることが承認された。
 - 10) 2022年度決算概算（亀高理事）
2022年度決算概算について、資料に基づき亀高理事から説明がなされ、審議の結果、本決算概算を総会に諮ることが承認された。未払いの過年度会費などがあり、会員数は減少したが会費収入は増収、雑収入もショートコー

ス・業界説明会などで増収、支部・部会活動はコロナの影響があり収入・支出ともに減収した。地質学雑誌オンライン化のため、印刷・通信費が抑えられたこと、学術大会会場費がかからなかったため早稲田大会はコンパクトな収支となったことなどが共有された。全体収支は、最終的には増収となり、引当金の取り崩しはなかったことが報告された。雑誌オンライン化の影響もあり全体として約390万円の黒字であるが、新たな会費制度（院生会費の軽減等）が2023年度から始まるため、来年からは大きな黒字は見込めない見通しであるとの指摘がなされた。また、辻森理事からは、Wiley社からのIsland Arc関連収入（約200万円）がいつまで続くか懸念する声が上がった。このような契約は希で、見直しの時になるかもしれないとのことである。

- 11) 2023年度予算案（亀高）
2023年度予算案について、資料に基づき亀高理事から説明がなされ、審議の結果、本予算案を総会に諮ることが承認された。なお、会員数は年5%減で会費収入を計上していること、2023年度より新たに「若手育成事業」の項目を設け、収支が計上されていることなどが説明された。学術大会や支部活動など、コロナ前の活動を想定した事業費を予算計上しており、学会HPのリニューアルや選挙システム構築の費用も計上したため、全体として支出が大きくなり、600万程度引当金を取り崩す予定であることが示された。
- 12) 支部活動報告および承認（杉田）
支部活動報告について、資料に基づき杉田理事から説明がなされ、承認された。
- 13) 総会議案の決定（中澤）
総会議案について、資料に基づき中澤理事から説明がなされた。例年の議案に加え、運営規則（学生優秀発表賞に関するもの）および選挙規則の変更があることが示された。審議の結果、承認された。

監事報告

岩部監事より：審議事項が多い中で活発な議論があった。特にIGC2024への対応について、学会としてどのように会員に周知していくか、丁寧に議論がなされた。今後とも韓国側の動静に注視して対応をお願いしたい。
山本監事より：これまで長年、学会の財務状況をみてきたが、状況悪化は食い止められつつあると思う。今後もオンライン会員システムの構築、ダイバーシティの推進など、News誌のオンライン化も含めて、引き続き改革していく必要があるだろう。
中澤常務理事より：次回の総会は6月3日（土）。理事会は9月9日（土）いずれもWebでの開催を予定している。

以上

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・

捺印する。

2023年5月2日

理事：議長 芦 寿一郎
理事：副議長 小松原純子
代表理事：会長 岡田 誠
理事：副会長 杉田律子
理事：副会長 星 博幸
監事：山本正司
監事：岩部良子
理事：出席理事名（省略）

2022年度 第9回執行理事会議事録

日 程：2023年4月8日（土）13:00 - 18:30

【WEB会議】

出席：岡田 誠、杉田律子、星 博幸、中澤
努、緒方信一、内尾（保坂）優子、内野隆
之、尾上哲治、加藤猛士、狩野彰宏、亀高正
男、小宮 剛、坂口有人、高嶋礼詩、辻森
樹、松田達生、矢部 淳、山口飛鳥
監事：山本正司、岩部良子

事務局 澤木

* 定足数（過半数：10）に対し、執行理事18
名の出席

* 前回22-8（3/4）議事録案確認
事務的な修正を行い、承認された。

報告事項

1. 全体的報告
2. 運営財政部会（亀高・加藤）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
・三浦半島活断層調査会主催 観察会「観音
崎の地層と関東大震災の傷跡をたどる」
（「地質の日」の行事：6/4実施）への後援
依頼があり、承諾した。

・資源・素材学会役員就任挨拶（書面）（会
長：笹木圭子〔九州大学大学院〕）。

・計測自動制御学会役員就任挨拶（書面）
（会長：高橋桂子〔早稲田大学〕）。

・防災科学技術研究所理事長就任挨拶（書
面）（理事長：寶 馨）

・2024-2025年開催藤原セミナー募集案内
（7/31締切）【→ニュース4月号、geo-
flash4/4掲載】

・伊藤科学振興会研究助成公募（宇宙地球科
学分野）の案内（7/5締切）【→ニュース4
月号、geo-flash4/4掲載】

・令和5年度日本学術振興会志賞候補者推
薦依頼（学会推薦5/12締切）【→ニュース4
月号、geo-flash4/18掲載】

<会員>

1. 今月の入会者：10名

正会員一般（2名）：久森洗希、高橋浩一

正会員学生（8名…単年度：3名、2年バック：
3名、3年バック：2名）：岩城昂平、片桐星
来、原野あゆ、丹羽美春、関山優希、小林唯
乃、工藤駿平、DONG Wenzhao

2. 今月の退会者 なし

3. 今月の逝去者 なし

4. 2023年3月末会員数

賛助：27、名誉：37、正会員：3069〔正会
員：2950、院割：112、学部割：7〕合計
3133（昨年比-74）

5. その他【回覧資料あり】

①2022年度末退会者(107名、正会員：102名、
正（院割）：5名)

②2022年度末除籍者(正会員62名)

③新・永年会員顕彰制度の顕彰者77名(名簿
あり、4月理事会にて報告予定)。

対象者：顕彰年度の前年度までにそれぞれ40
年、50年、60年、70年間の会費を納入した会
員。

<会計>

・2022年度決算案、2023年度予算案（→審議
事項へ）

<その他>

・オンライン会員情報管理サイトについて
（亀高）：テストランを実施し、システムを
修正した。修正結果を反映させたマニュアル
を作成し、4~5月中に会員への公開を行う予
定。

・選挙投票システムを準備中。7月中にシス
テムを完成させ、8月にテスト予定。

3. 広報部会（内尾・松田）

1) 広報委員会（内尾）

特になし

4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1) 行事委員会（高嶋・山口）

・2023京都大会

▷トピックセッション16件を採択（昨年比
+3）。

▷（株）アカデミックプレインズに大会運
営を委託することとした

▷2023年度科研費（地質情報展・市民講演
会）は不採択となった

▷LOCシンポジウムの現状

▷巡検案内書編集状況（全9コース：巡検6
件【A~F】、アウトリーチ巡検1件【O】、
ワークショップ2件【W1, W2】）査読後
小修正で著者へ返却：3件（C, W1,
W2）、査読後、未返却（結果は小修正）：
1件（G）、査読中：2件（D, F）、未提
出：2件（B, E）、差し戻し：1件（A）

▷市民講演会：講演1：「歴史記録と地質か
らみた京都の地震」（産総研：小松原 琢
氏）/講演2：「微小地震から見た京都周
辺の地震活動と地震を起こす力」（京都
大学：飯尾能久氏）を予定

▷LOCシンポジウム「白亜紀フレアアッ
プ（仮題）」世話人：河上哲生（京都
大学）・谷健一郎（国立科学博物館）を
検討中

▷学生の宿泊プランを若手有志会、LOC
を中心に検討中。理事会にて状況報告が
予定されている。

▷地質系業界説明会は、今年も対面（9/18）
とオンライン（9/22）での開催を予定。
オンライン開催予定日が他の行事と重複

しないことを本執行理事会にて確認し
た。

・2024山形大会の状況

▷巡検案が出そろい、案内者への依頼終
了。コースの詳細を案内者に依頼中（以
下コースの予定。1)蔵王山（伴 雅雄）
/2) 山寺の地質と文化地質学（田宮良
一・大友幸子・荒木志伸）/3) テフラ・
地すべり（八木浩司）/4) 山形県中西部
の地質と化石（長澤一雄・本山 功）
/5) 鳥海・飛鳥 未定/6) 松島（高嶋礼
詩）/7) 蔵王山 鉱床と西藏王（井村
匠）/8) 基盤岩類 未定/）

▷案内書編集委員会：山崎 誠（秋田大：
編集委員長）、大場 司（秋田大）星出
隆志（秋田大）、根本直樹（弘前大）、西
川 治（秋田大）

▷旅行代理店は山交観光株式会社に決定。

▷アウトリーチ巡検「山形城遺跡と石材」
（齋藤・大友）は、学会巡検とは別枠で
実施を予定しており、案内書の地質雑へ
の掲載無し。

▷山形大学との共催、後援があれば会場費
の減額措置がある見込み（4/10確認）。

・7回ショートコース（山口）：2023年4月2日
（日）応力逆解析法についての基礎・実習
を開催した。申込者数69名。参加者のうち
希望者は当日の講義内容（動画）を期間限
定で視聴可能（4/10-18）。定員で締切った
が、さらに参加希望が寄せられているた
め、10月に同内容を再度行うことを検討
中。

・8回ショートコース（山口）：2023年6月予
定で「年代測定」をテーマとして講師打診
中。

2) 専門部会連絡委員会（尾上）

・各部会より年次報告を収集中。4/15理事会
報告予定。

3) 国際交流委員会（辻森）

・IGC韓国LOCからのレター（23/3/13付）
への対応（→審議事項へ）

4) 地質標準化委員会（内野）

特になし

5. 編集出版部会（狩野・小宮）

1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）

(1)編集状況報告（2023年4月5日現在）

・2023年投稿論文：23〔内訳〕論説6（和文
6）、ノート2（和文2）、レター3（和文3）、
報告3（和文3）、フォト1（和文1）、討論1
（和文1）、巡検案内書7

査読中：33、受理済み：1

・129巻：公開済み21、入稿・校正中1

(2)その他

・特集号「コンクリーション」が完成（構成
原稿が全て公開）。会員優先で冊子体購入
の予約受付を開始した（会員価格2,600円、
5/31締切）。

・129巻オンデマンド印刷の受付を終了した
（希望者9名）。公開論文の分量に合わせて
適宜冊子体を作成・送付する。

・京都大会巡検案内書について、著者から原

稿取り下げの申し出があった。

2) アイランドアーク編集委員会（狩野）

(1)編集状況報告

3) 企画出版委員会（松田）
特になし

6. 社会貢献部会（坂口・矢部・内野）

1) 地学教育委員会（坂口）
・「令和5年度大学入試共通テストの地学関連科目に関する意見書」を提出した（3/10）。

2) 地質技術者教育委員会（坂口）
・地質系若手人材動向調査（2022年度）実施予定
・大学と学会との関係強化策の検討状況

①目的：地質学の発展と地質専門家の育成に大学の役割は大きく、学会として大学の教育研究活動を支援する。②内容：各大学の学科や研究科に所属する会員と教育研究現場状況の情報を共有し、学会としての支援策を検討する。③各大学の参加メリット：地質学分野の大学の研究教育状況の情報共有/キャリア教育支援、地質系業界説明会、地質系若手のためのキャリアビジョンなどの後援に入ること、学科のキャリア教育実績になる/大学等への要望書、大型研究費の応募、学科再編、巡検などに使用する大学バスの継続など教育研究に資するもの。④スケジュール：大学と学会とのWeb懇談会を5月初旬をめどに開催予定。今後大学関係者と日程調整予定。学会からは三役及び委員長の出席を予定。

3) 生涯教育委員会（矢部）
特になし

4) 地震火山地質子どもサマースクール（星）
特になし

5) 地質の日（矢部）
・地質の日のイベント情報を学会HPで公開した（地質の日事業推進委員会にもリンク）。
・街中ジオ散歩in横浜（5/14）の参加者募集を開始した。4/16まで受付けし、申し込み多数の場合には抽選する。広報は学会HP・（SNS）および神奈川県立生命の星・地球博のHPなど。

・オンライン普及講演会「日本列島の地質探訪—古生代から新生代まで」（5/13、9:30-12:05）のチラシを坂口理事に作成いただいた。広報を開始した。ジオパーク支援委員会、日本ジオパークネットワークなどへ情報提供済み。今後は関連学協会への広報依頼を行う予定。

・フォトコンテスト入選作品の地質解説を作成中。

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネジメント委員会（中澤）
特になし

2) 若手育成事業検討WG（内野）
・2023年度研究奨励金審査結果を理事会へ上程する。また、交付決定通知および受給申請書等関連書類の書式が提示された。不採択となった会員へは、個別の理由を記載する。あるいは個別審査項目の点数を通知す

ることが望ましい。また来年度は審査基準を募集時に事前に公表する。

3) 表彰制度検討WG（中澤）
・ジュニアセッションの優秀賞と奨励賞の位置づけが、明文化されていないため、今後本WGで検討する。現時点では細則等のレベルよりも下のレベルで良いと考えている。

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会（矢部）
特になし

2) 地学オリンピック支援委員会（坂口）
特になし

3) 支部長連絡会議（杉田）
特になし

4) 地質災害委員会（松田）
・関東大震災100年に関連行事進捗状況：1. 神奈川県秦野市震生湖方面の巡検（秋季の土曜または日曜日に開催を予定。植生が繁茂する時期は避ける）2. 講演会（歴史地震に関する話題）実施形態等の詳細は検討中。

5) 名誉会員推薦委員会（星）
・3/7推薦委員会を開催し、2名の名誉会員候補者を選定したので理事会に推薦する。
・「推薦プール制度」の廃止について検討を依頼する（→審議事項へ）

6) 各賞選考委員会（中澤）
特になし

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会（辻森）
・「男女共同参画学協会連絡会（日本地質学会オブザーバー参加、JpGU正式加盟）から男女共同参画学協会連絡会要望書「科学技術系分野における任期付き研究者の雇用問題解決に向けての要望：若手・氷河期世代研究者の待遇改善が研究力強化につながる」とその説明資料について案内があった。ニュース、メルマガで会員にも周知する。

8) 連携事業委員会（中澤）
特になし

9) 法務委員会（中澤）
特になし

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会（委員長 大和田正明）
特になし

2) 法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）
特になし

10. その他
・若手有志会関連（代理 星）
▷地質系業界オンライン交流会実施報告があった。2/17開催、5名の団体・企業からご参加いただいた。学生参加者35名、巡検企画の進捗報告。
▷地質若手巡検・研究集会準備状況：7/8-9実施。北海道洞爺湖有珠山ジオパーク、定員40名（最小最高人数28名）、参加費16,000円程度を予定。

審議事項

1. 選挙規則の改正について
理事（役員）選挙の所属別最低充足数について、学生の理事は2名で優先固定。他の理事数については、都正会員の所属別構成比で算出することとし、「別に定める」とした。算出基準とする年月日については、事務局と相談し、規則変更案を理事会へ上程する。

2. 選挙細則の改正について
電子投票に対応した記述に変更する（該当箇所：第2条、第5条、第6条、第11条、第12条、第14条）。立候補方法について「郵送」は削除し電子システムのみする方法とする。また立候補時には、「立候補名簿への属性（若手・性別）の表示の意思」を明示してもらうこととする。規則変更案を理事会へ上程する。

3. IGC韓国LOCからのレター（23/3/13付）への対応
23/3/13付IGC韓国LOCから会長宛のレターを受領した。レターでは竹島、日本海呼称の懸案課題や日本からのサポートレター撤回に対する具体的な対応や方針は触れられていない。今後の学会としての対応は4/15理事会で議論する。またIUGS分科会の対応を注視する。

4. 令和6年春の科学技術に関する褒章受賞候補者の推薦について
文部科学省より、褒章受賞候補者の推薦依頼があった。推薦基準に照らし適宜対象となる会員を推薦する。科学研究貢献分野に照らして該当する褒章の種類については文科省担当者に見意見を求める。

5. 名誉会員推薦時の「推薦プール制度」の廃止について
推薦人数の制限があるために有力な候補が選考から外れた場合、推薦者が希望すれば推薦書を次年度も有効とすることが推薦委員会の申し合わせ事項とされている。これを廃止したい旨の説明があった。実際上は「再推薦を妨げない」旨が明記されていれば差支えないと考えられる。今後理事会で審議する。

6. 学生優秀発表賞の具体的な選考過程について
新設される学生優秀発表賞の選考方法について議論した。行事委員会で引き続き検討し、執行理事会で承認する。理事会には報告レベルとする。7月までに会員へ開示する。

7. 学術大会におけるネームホルダー変更の提案
若手有志会より、参加者の属性（特に学生）や求職中であることをわかりやすく明示し、関係会員同士の交流を促進することを目的とした名札に変更したいという提案があった。主旨には概ね賛同。現会員証（バーコード付）での受付の利便性も尊重しつつ、提案内容をできるだけ反映させるよう検討することとした。

8. 2022年度事業実施概要
理事会上程案について承認された。

9. 2023年度事業計画

理事会上程案について承認された。

10. 2022年度決算概算

現時点での未払支出があり概算となっている。会費収入が予算よりも増収である理由は、過年度会費（滞納分等の今年度収受）がプラスされて計上されているためであるとの説明があった。その他各項目について個別に補足説明があった。決算案を了承し、理事会に諮ることとした。

11. 2023年度予算案

2023年度事業計画骨子に沿って予算案を計画した。個別では、会費収入は170名減を想定して計上し、年会開催事業費は京都大学の会場費が有料となるため支出が増加している。また、2023年度から若手育成事業支出（全額引当金から拠出）が始まる。予算案を了承し、理事会に諮ることとした。

なお、引当金300万の取り崩しを含めないと単年度は300万円の赤字となるが、これは近い将来として解消すべきである。収入増・支出減について、具体的な検討を引き続き進める必要がある。

12. 理事会審議事項の確認

4/15理事会での審議事項、担当、資料などを確認した。

- 1)名誉会員候補者の選出（星）
 - 2)各賞受賞者の決定（山路）
 - 3)研究奨励金支給対象者の決定（内野）
 - 4)選挙規則類の改正（杉田）
 - 5)若手活動運営委員会設立（下岡）
 - 6)「学生会員」への学術大会等巡検参加費補助（内野）
 - 7)2022年度事業実施概要（中澤）
 - 8)2023年度事業計画（岡田）
 - 9)2022年度決算概算（亀高）
 - 10)2023年度予算案（亀高）
 - 11)支部活動報告および承認（杉田）
 - 12)総会議案の決定（中澤）
 - 13.理事会報告事項の確認
- 4/15理事会での報告事項と担当、資料などを確認した。

14. その他

・京都大会巡検について
一部コースについて案内書原稿の取り下げと巡検実施取り止めの可能性がある。今後、行事委員会とLOCも交えて案内者と協議する。巡検案内書原稿については、地質学雑誌上でのカテゴリーを明確にし、「巡検案内書」として独立した形での公開やより上梓しやすい形とすべきではないかとの意見があった。編集委員会、行事委員会、LOC等とも意見交換し議論を進める。

監事コメント

（山本監事）地質学雑誌の電子化が財政に寄与しているが会員減少もあり安心できないため財政については今後も留意されたい。若手育成事業費を計上しているのは学会の将来のために有益である。4/15は総会前の理事会であるので理事の出席者を管理して欲しい。理事としての職責を果たすために、今後も理事

の出席を促して欲しい。

（岩部監事）総会前の理事会では、選挙規則について理に対して分かり易い資料と説明をお願いしたい。韓国との関係については、会員の今後の行動に影響を与えるため、正確な情報をもとに理事会で十分に議論をして頂きたい。電子化については冊子体印刷の取扱い等も含めて、今後も議論を進めて頂きたい。

以上

2023年5月19日

一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）岡田 誠
署名人 執行理事 中澤 努

2022年度 第10回執行理事会議事録

日 程：2023年5月20日（土）13:00～16:30

【WEB会議】

出席：岡田 誠、杉田律子、星 博幸、中澤努、緒方信一、内尾（保坂）優子、内野隆之、加藤猛士、狩野彰宏、亀高正男、小宮 剛、高嶋礼詩、辻森 樹、矢部 淳、山口飛鳥
監事：山本正司、岩部良子
事務局 堀内
欠席：尾上哲治、松田達生、坂口有人
*定足数（過半数：10）に対し、執行理事15名の出席
*前回22-9（4/8）議事録案は改めて確認、承認された。

報告事項

1. 全体的報告
 - ・全地連創立60周年記念誌への寄稿依頼があった。岡田会長執筆予定。執筆期日：6/16（金）
 - ・防災学術連携体、関東大震災100年企画冊子への寄稿依頼があった。関東大震災で何が起こったか、その後の100年間における展開、変化、今後の課題について、A4版2ページ分、6/5締切。関東大震災以降沖積層の研究が進んだ経緯もあり、専門分野である中澤理事が執筆する。
 - ・北海道支部神居古潭巡検（8/18～19実施予定。参加費：正会員（一般・シニア）：30,000円、正会員（学生会員）18,000円）に対して、メール審議の結果、学生会員への参加費補助を適用することとした。
 - ・文部科学省・学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想（ロードマップ2023）策定に係る公募が開始された（5/12公募説明会、公募期間5/8-6/30締切）。従来は、学術会議からの重点研究から選択して文科省が公募していたが、今回はマスタープランでは示されないことから文科省独自で策定し公募することとなったとのことである。学会の役割は、大学・研究機

関からの応募テーマに関して、学会が支持支援している立ち位置となるため、地質学会からは応募しないこととした。

- ・IGC2024対応に関する現状について、学会からの会長メッセージを6月末の2nd_circular発表後にHPにて公開する予定。
- ・令和6年春の科学技術に関する褒章受賞候補者の推薦について、推薦資料を作成中。5/26締切。

2. 運営財政部会（亀高・加藤）

1) 総務委員会

＜共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等＞

- ・日本学術会議公開シンポジウム「有人潜水調査船の未来を語る」（6/17）への後援依頼があり、承諾した。
- ・青少年のための科学の祭典2022（22/6/11-23/2/5開催、地質学会後援）の実施報告があった。コロナ禍の影響により6会場が中止となり、計43会場で開催。来場者総数77,230名。
- ・青少年のための科学の祭典2023（6/10～24/1/21：全国44会場で開催）への後援依頼があり、承諾した。
- ・2023年日本地球化学会年会（9/21～23開催：於東京海洋大学）への共催依頼があり、承諾した。
- ・地学オリンピック日本委員会主催、東アジアの高校生のための地学フェスティバル（8/31～9/3：於福岡県宗像市グローバルアリーナほか）への後援依頼があり、承諾した。
- ・山陰海岸ジオパークより、世界の地質遺産100選認定記念事業（5/14開催）への後援依頼があり、承諾した。
- ・蒲郡市生命の海科学館「第13回惑星地球フォトコンテスト入賞作品展」（1/28-4/9開催、地質学会共催）の実施報告があった。来場者数7,374名。
- ・令和5年度福島県教育委員会学芸員（地質学）採用選考の案内があった【→geoflash、ニュース5月号掲載】

＜会員＞

1. 今月の入会者：18名
正会員一般（5名）：石川泰己、隈 隆成、小北康弘、大谷彩夏、齊藤朱音
正会員学生（13名…2年バック：3名、3年バック：10名）：椿 陽仁、原山 翔、延原香穂、吉丸 慧、青柳治韻、荻原 誉、大畑颯人、河野駿輝、毛利元紀、星 輝、山崎陽生、山本秀忠、中島展之
2. 今月の退会者：1名
正会員一般：木村陽介
3. 今月の逝去者 なし
4. 2023年4月末会員数

賛助：27、名誉：37、正会員：3087〔一般：2118、シニア：856、学生会員：113〕合計3151（昨年比-72）5. その他

＜会計＞

- ・ワイリー社より2022年Island Arcロイヤリティの入金があった（¥2,263,403）。

＜その他＞

- ・定款・規則類の整理について（加藤）：定款書式について整理した。今後は規則類の整理を事務局と共同で行っていく予定である。
- ・オンライン会員情報管理サイトについて（亀高）：システム画面を会員に公開し、運用を開始した。選挙システムについても作業を進めている。
- ・業務監査を5/10（水）に実施した。財務状況、会計状況、執務状況、理事の勤怠状況、活動状況について問題ないことを監事に確認頂いた。

3. 広報部会（内尾・松田）

1) 広報委員会（内尾）

- ・白滝ジオパーク推進協議会事務局より、International Obsidian Conference Engaru 2023（23/7/3-6開催、JGASU後援）において、JGASU構成団体である地質学会ロゴマークの使用申請があり、許可した。
- ・惑星地球フォトコンテスト作品展示会開催中（東京パークスギャラリー、上野公園；5/16-5/28）

4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1) 行事委員会（高嶋・山口）

- ・2023京都大会準備状況（高嶋）
学術大会におけるダイバーシティロゴ（EDI、ECS）の周知の依頼が委員会からあった。各コンビナーに周知したい。/5月8日に委託運営業者と下見を実施した。会場使用の再編により会場費が減額できる可能性あり。吉田南1号館は情報展のみで使用する。/懇親会会場は国際交流ホールを予約。収容定員200名、会場費12.9万円。生協食堂はコロナ以降予約不可とのこと。コロナ対策により懇親会の定員厳守のため冗長性を持たせにくい。定員についてはLOCと要検討。/大会会場費用合計200万弱（懇親会会場費と情報展会場費を含む）。/巡検案内書：投稿済み8/9件、受理済み2件。
- ・8回ショートコース（山口）：「年代測定」をテーマに7/2（土）開催予定。講師：平田岳史（東京大学）、竹内 誠（名古屋大学）、5月号ニュース誌で広報予定。更なる周知をお願いしたい。10月に反響が多かった、応力解析（再講習）を予定している。

2) 専門部会連絡委員会（尾上）

- ・特になし

3) 国際交流委員会（辻森）

- ・特になし

4) 地質標準化委員会（内野）

- ・特になし

5. 編集出版部会（狩野・小宮）

1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）

(1)編集状況報告（2023年5月19日現在）

- ・2023年投稿論文：32〔内訳〕論説12（和文12）、ノート3（和文3）、レター3（和文3）、報告4（和文4、英文1）、フォト1（和文1）、討論1（和文1）、巡検案内書8
- 査読中：35、受理済み：4
- ・129巻：公開済み24、入稿・校正中3

- ・ノート1件が、オリジナリティについての査読意見により投稿者から取り下げがあった。掲載不可は現時点ではない。投稿ペースは昨年並（昨年計80篇）。

(2)その他

- ・地質雑誌のフォントサイズおよび論文末尾のコンプライアンス文章について（→審議事項へ）

2) アイランドアーク編集委員会（狩野）

(1)編集状況報告

Vol.31では10編掲載済み。2023年投稿数26編。2022年受理数49編。進行中の特集号企画がないため、特集号提案を募集している。特集号は企画～編集作業等の負担、苦勞が多い。すでに公開済みの論文について、テーマ別にグループ化して特集号として構成する企画も良いのではないかと、との意見があった。

3) 企画出版委員会（松田）

- 特になし

6. 社会貢献部会（坂口・矢部・内野）

1) 地学教育委員会（坂口）

- 特になし

2) 地質技術者教育委員会（坂口）

- 特になし

3) 生涯教育委員会（矢部）

- 特になし

4) 地震火山地質子どもサマースクール（星）

- 特になし

5) 地質の日（矢部）

- ・オンライン普及講演会「日本の地質探訪—古生代から新生代まで」を5/13に実施した。ライブ視聴数平均215人（最高238人）。5/20現在の総視聴回数：1520回。視聴者アンケートでは、期待した小中高からの返答はなく、今後の課題と考えている。シニアの参加が多かった。
- ・街中ジオ散歩in横浜（案内者：笠間友博理事）を5/14に実施した（応用地質学会および神奈川県立生命の星・地球博物館との共催）。当日参加者は18名（申込は27名）。天候不良を理由に子供連れの申込者の欠席があった。今後は地学教育学会等へも情報を発信していきたい。地元博物館ルートからの参加も多く見られ、地元との連携は重要であり今後も留意していきたい。来年度は既に見下見実施済みの「稲毛海岸」も含めて検討中。
- ・惑星地球フォトコンテスト作品展示会を開催中（東京パークスギャラリー、上野公園；5/16-5/28）

7. その他執行业務の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネジメント委員会（中澤）

- 特になし

2) 若手育成事業検討WG（内野）

- ・2023年度研究奨励金については、支給対象者へ4/26に支給を完了した。

3) 表彰制度検討WG（中澤）

- 特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会（矢部）

- 特になし

2) 地学オリンピック支援委員会（坂口）

- 特になし

3) 支部長連絡会議（杉田）

今年の学術大会では支部長会議を対面開催したい。

4) 地質災害委員会（松田）

- ・関東大震災100年関連行事：オンライン講演会を準備中。（日時：9月30日（土）13-16時（予定）、講師：石渡 明（元地質学会会長）・井上公夫（砂防フロンティア整備推進機構）、講演時間1時間+15分質疑/名。休憩含め3時間、対象：地質学会会員優先、定員：上限150名、申込期間：9/1-9/22（金）17:00締切）

5) 名誉会員推薦委員会（星）

- 特になし

6) 各賞選考委員会（中澤）

- 特になし

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会（辻森）

改めて学術大会において、ダイバーシティロゴ（EDI、ECS）の周知を行事委員会に依頼した。行事委員会より各コンビナーに周知したい旨の回答があった。

8) 連携事業委員会（中澤）

- 特になし

9) 法務委員会（中澤）

- 特になし

10) 若手活動運営委員会

- ・若手巡検・研究集会 in 北海道 洞爺湖有珠山ジオパーク地域（7/8-9開催）の参加申込受付中（5/31締切）

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会（委員長 大和田正明）

- 特になし

2) 法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）

- 特になし

10. その他

- ・「地質系大学の研究教育支援に関する日本地質学会との意見交換会」を5/17にZOOMで開催した。14大学および執行业務（正副会長、正副常務、坂口）が出席。今後も継続することが望ましいと考え、6 or 7月末に次回を開催したい。大学再編によって理学系が全体に縮小する中で、さらに地学系の縮小が避けられない流れがあるが、基礎研究や国土保全の観点からも一定数の研究者・技術者を輩出する重要性がある。学会と大学、それに加えて地元の地質系公益団体と協働で、地学系への進学者を増やしたい。

審議事項

1. 巡検案内書の今後のあり方について（高嶋）

案内書を地質学雑誌から独立させてほしいとの、著者からの要望を受け、これまで寄せられている意見等も鑑み、案内書原稿の今後の

あり方について議論した。巡検案内書は、通常論文と異なり、巡検日が決まっており、論文投稿-査読-受理までの行程が厳しい。一方で地質学雑誌掲載の査読付き論文として取り扱うため研究業績となり、学術雑誌として質が保障されている観点からジオパークでも安心して利活用できる等のメリットがある。2023年京都大会の案内所は現在編集作業中であり、2024年山形大会分も、現行の運用に沿ってすでに執筆打診等開始されているため、当面は、巡検案内書は査読付き論文として現行通りとするが、投稿締切の前倒しを行い行程を改善したい。なお、今後の学会活動の魅力向上のためにも、巡検案内書のあり方、特別な規則の要否等々をWGを発足させて（WGリーダー：杉田副会長）、2025年熊本大会までに検討を進める。熊本大会LOCへも聞取りを行っていく。また、WGでの議論の経緯は、会員に向けて公開、明示することを検討する。

2. 地質学雑誌のフォントサイズおよび論文末尾のコンプライアンス文章掲載に関する再検討ほか（小宮）

紙面節約、超過頁による著者負担軽減のために、引用文献欄の文字サイズを小さくすることが提案された（現行8.5→7ポイント）。現在は、完全電子化となっているので、ある程度小さい文字サイズでも許容できる。具体的な縮小サイズは今後検討を進める。あわせて、論文末尾のコンプライアンス文章も、各論文毎に明示する必要はないため、ニュース誌や学会HP等の目に触れやすい箇所へ掲載することとする。巡検案内書も著者が特に希望した場合は文末に記載することとする。

3. 地質学過去論文のJ-STAGE上のデータについて

J-STAGEで公開されている地質学雑誌の過去論文については、2003年（109巻）以前は画像データとして公開されており、WEB検索の対象とならない。文献としての利活用されにくい。検索対象とするためには、OCR作業を施した膨大なデータ整備が必要となる。経費や作業量を確認して今後の対応方針を検討する。

4. 総会の議案等確認（各議案説明者、議長、書記）

今回の追加事項である第5号議案運営規則および選挙規則の変更については杉田副会長が説明する。

監事コメント

（山本監事）巡検案内書のあり方について活発に議論し、取りまとめの枠組みが示されたことは良いことと思う。今後の議論に期待したい。

（岩部監事）巡検案内書は大会時だけでなく、ジオパーク等様々な方が今後長期にわたって活用される大切な文献であり、そのことも踏まえて、より良い検討を進めて頂きたい。

以上

2023年5月31日

一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）岡田 誠
署名人 執行理事 中澤 努

2023年度 第1回執行理事会議事録案

日 程：2023年7月8日（土）13:00～16:00

【WEB会議】

出席：岡田 誠、杉田律子、中澤 努、緒方信一、内尾優子、内野隆之、尾上哲治、加藤猛士、狩野彰宏、亀高正男、小宮 剛、坂口有人、高嶋礼詩、辻森 樹、松田達生、矢部淳、山口飛鳥

監事：山本正司、岩部良子

欠席：星 博幸、

事務局 澤木

*定足数（過半数：10）に対し、執行理事17名の出席

*前回22-10議事録案は、本執行理事会にて承認された。

報告事項

1. 全体的報告

・全地連創立60周年記念誌への寄稿依頼については、岡田会長が執筆し投稿済み。

・防災学術連携体、関東大震災100年企画冊子「関東大震災100年と防災減災科学」（電子版）が完成した。

https://janet-dr.com/090_abroadandhome/KantohEQ100th_book_A4.pdf

2. 運営財政部会（亀高・加藤）

1）総務委員会

＜共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等＞

・地学オリンピック日本委員会より、2023年度地学オリンピックへの協賛依頼があり、承諾した。協賛金4口,20万円送金予定。

・日本粘土学会より、第66回粘土科学討論会（9/12～13：於仙台市震災復興記念館）への後援依頼があり、承諾した。

・新潟大学学術資料運営機構旭町学術資料展示館より、企画展示「みんなの石」展（7/19-8/31開催）への後援依頼があり、承諾した。

・日本学術会議地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会より、公開シンポジウム「オープンサイエンス時代における学術データ・学術試料の保存・保管、共有問題の現状と将来」（8/20オンライン）への後援依頼があり、承諾した。

・令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術省賞・若手科学者賞・研究支援賞）候補者推薦の依頼があった（学会締切7/3）【→geo-flash, ニュース掲載】

・第64回（令和5年度）東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦依

頼があった（学会推薦9/20）【→geo-flash, ニュース掲載】

・2023年度朝日賞（自然科学）の推薦依頼があった（学会締切8/3）【→geo-flash, ニュース掲載】

・第45(令和5年度) 沖縄研究奨励賞推薦応募（学会締切9/5）【→geo-flash, ニュース掲載】

・大日本ダイヤモンドコンサルタント株式会社より合併（大日本コンサルタントおよびダイヤモンドコンサルタント）に伴う新会社名と役員体制の連絡があった。

＜会員＞

1. 今月の入会者(3団体, 89名) →別ファイル参照

・賛助会員（3社）：山北調査設計株式会社、四国建設コンサルタント株式会社、日本海洋事業株式会社

・ジュニア会員（1名）：磯野聖隆

・正会員（88名）

▷正会員一般（9名）：青木 智, UHMB Tae-hoon, 北村 暁, 齋藤京太, 寺内大貴, 中川太陽, 西山成哲, 兵藤英明, 森 啓悟

▷正会員学生（79名：会費種別不明3, 単年度26, 2年バック28, 3年バック22）：會田幸樹, 青木 夢葉, 秋本悠作, 荒岡柊二郎, 安西剣太, 飯島賢士, 五十嵐大輝, 壺岐美乃, 石垣 璃, 井上 梓, 井口 祐輔, 岩波知宏, 上野智広, 上野裕大, 大植 和, 大島温志, 岡田直也, 沖野峻也, 小澤 周, 越智輝耶, 尾内千花, 笠井佑樹, 金澤安蓮, 城戸太郎, 小坂日奈子, 小塚大輝, 小林哉太, 古明地海杜, 固本悠杜, 坂本光瑠, 佐々木航, 塩原拓真, 柴尾創士, Stengel Hannes, 杉本峻平, 杉山春来, 關 秀彪, 瀬戸山 功平, 高橋美咲, 武居史也, 田代圭吾, 千葉 明, 長南龍治, 唐強, 鳥井夏希, 長友大輝, 中野美玖, 中橋甲斐, 奈良拓実, 西村 玲, 根本英利, 野村夏希, 長谷川凌平, 服部 諒, 濱田真実, 早川万穂, 早川由帆, 林 里沙, 坂東晃紀, FENG SHUAI, 吹本樹, 福岡仁至, 福地亮介, 松波亮佑, 水戸悠河, 宮崎一希, 宮本真愛, 村田理輝, 森 大成, 森田美穂, 森山健一, 安永裕紀, 矢野滉紀, 矢野稜真, 山崎友莉, 山本朱音, 柚原涼花, 横井雅範, 渡邊聡士

2. 今月の退会者（3名）

・正会員シニア（2）：池田安隆, 木下 修,
・正会員一般（1）：新山桃乃

3. 今月の逝去者（2名）

・正会員シニア（1）：中川雅之（逝去日：2023年4月28日）

・正会員一般（1）：田野崎隆雄（逝去日確認中）

4. 2023年6月末会員数

賛助：27, 名誉：39, 正会員：3096 [一般：2143, シニア：848, 学生会員：105] 合計

3162 (昨年比-67)

5. その他

<会計>

- ・自然史学会連合2023年度分担金を納入した(20,000円/年)。

<その他>

- ・定款・規則類の整理について(加藤):規則の整理は、規則等管理者は総務委員会とし、事業部会に属する委員会、活動度の高い委員会等のものを優先して整備する。各支部の規則整備は、各支部の事情・意向を踏まえて、適宜相談しつつ進める。
- ・オンライン選挙システム(亀高):選挙システムのプロトタイプが完成した。8月末までを試行期間として執行理事会および選挙管理委員会でテストする。

3. 広報部会(内尾・松田)

1) 広報委員会(内尾)

- ・学術大会関連のプレスリリースについて:8月12日頃までに行う予定。リリース後、メディアの反響を把握したいが、取材記録はあるが掲載連絡がこないで独自で記事等を探す必要があり、掲載実績を確認することが難しい。またプレス発表の際は、事前公表について先取権等を考慮して、著者の意向を確認する必要がある。
- ・総会で指摘のあった、学術大会HP(Confitサイト)がネット検索の上位に表示されるように対策してほしいとの要請について、キーワード設定等対応を行った。
- ・Webサイトのリニューアルを進めている。先ず試行してデザインや使いやすさを確認していきたい。他学会の実績や状況なども参考にしたい。

4. 学術研究部会(辻森・尾上・高嶋・山口)

1) 行事委員会(高嶋・山口)

- ・2023京都大会準備状況(高嶋)
 - ▷講演要旨締め切り 7月12日(水)、京都大学講演会場・企業ブース下見 7月14日(金)、行事委員会プログラム編成会議 7月18日(火)を予定
 - ▷懇親会:大学生協での対応がないため、国際交流会館を会場とし(有償)、外部ケータリング業者に発注して実施する(定員200名で予定)。一般会員:7,000円、シニア会員:4,500円、学生会員:3,500円

・2023巡検案内書

- ▷進行中:A. 京都盆地-奈良盆地断層帯とその周辺の第四系(1回目の査読終了、修正原稿が投稿された状態)→小松原琢(産総研)/B. 山陰海岸ジオパーク地域(未提出)→松原典孝(兵庫県大)、羽地俊樹(産総研)ほか/D. 後期白亜紀・琵琶湖コールドロン域西部に分布する花崗岩類と岩脈(査読後、著者修正中)→多賀 優(龍谷大学)/E. 但馬地域の舞鶴帯南帯(査読後、著者修正中)→木村光佑(大公大)/F. 超丹波帯と丹波帯(査読後、著者修正中)→菅森義晃(鳥取大)

- ▷受理:C. 瀬戸内区中新統(受理)/G. アウトリーチ巡検 淀川の氾濫と河川改修(受理)/W1. ワークショップ 堆積学の物理実験・理論講習会(受理)/W2. ワークショップ GISをつかってみよう(受理)

・2024山形大会

講演会場用の仮予約は完了。市民講演会の予定会場は規模が小さいため(定員60名)、100-150名程度の会場を再選定いただくようLOCに依頼した。講師2名受諾済み。巡検コースは具体的なコースを想定して計画。懇親会会場は予約済み。企業説明会も実施予定(30社程度を想定)。

・2023熊本大会

LOC(熊本大学)から会場候補や収容人数について相談を受けている段階。

・8回ショートコース(山口)

- 「年代測定」をテーマに7/2(土)開催した。講師:平田岳史(東京大学)、竹内 誠(名古屋大学)、参加申込数90名。欠席者には期間限定(7/7-13)で動画視聴の対応を行う。20代参加者が多く(24名)、若手に人気があった。好評であった応力解析は、再度10月22日(日)開催予定。第10回を年内に計画。
- ・学生優秀発表賞の評価基準の説明文章について、解釈によっては恣意的な審査が可能になる恐れがあると会員から疑問が寄せられた。文面上誤解を与えないよう、大会HP掲載の説明文を一部補足した。指摘会員からも了解の返答があった。

2) 専門部会連絡委員会(尾上)

・特になし

3) 国際交流委員会(辻森・岡田)

- ・IGC2024 2ndサーキュラーが公開となった。1stサーキュラー同様、竹島、日本海の呼称に関する懸案事項は見受けられないが、韓国LOCからの正式な回答がないままであり、サポートレターを撤回した学会の立場に変更はない(2022年度第5回理事会議事録参照)。ただし懸案事項が見受けられないため地質学会会員のIGCへの参加は妨げないが、組織としての協力は引き続き難しい。以上の内容の会長メッセージを出す(7/24発出済み)。

4) 地質標準化委員会(内野)

- ・前回のJIS A 0204、0205改訂から5年経つので、次の改訂作業がスタートする(2024年改訂予定)。産総研が事務局(事務局長:斎藤 眞理事)となり、今後、各分野・学会の有識者からなる原案作成委員会を組織する。地質学会からも1名推薦を依頼予定(中澤常務が対応:ちなみに前は宮下元会長)。原案作成委員会は来年1月から6月まで2回程度開催予定。(→審議事項へ)
- ・国際年代層序表の最新版(v2023/4)の日本語版(v2023/6)を作成し、更新履歴と合わせて学会HPを更新した。(辻森)

5. 編集出版部会(狩野・小宮)

1) 地質学雑誌編集委員会(小宮)

(1)編集状況報告(2023年7月7日現在)

- ・2023年投稿論文:38[内訳] 論説15(和文15)、ノート3(和文3)、レター5(和文5)、報告5(和文4、英文1)、フォト1(和文1)、討論1(和文1)、巡検案内書8
- 査読中:31、受理済み:4

- ・129巻:公開済み29、入稿・校正中6

- ・いくつか査読作業が遅延している原稿があり、善処している。Bコースのみ未投稿のため、筆頭著者にLOCの巡検担当および編集委員長から督促を続けている。Aコースの未公表データ扱いについても著者と編集担当者、編集委員長の間で対応を検討している。

2) アイランドアーク編集委員会(狩野)

(1)編集状況報告

- ・例年の投稿ベースを維持している。
- ・IF2022が1.5(162位/201中)。CiteScoreは3.1(2021)→3.5(2022)に上昇した。国内誌は軒並みIFが低下しているが、中国と並びオープンアクセス化している雑誌のポイントが伸びているが、Island Arcオープンアクセス費用は約30万円と高価なため、全ての論文がオープンアクセスとなっているわけではない。

3) 企画出版委員会(松田)

特になし

6. 社会貢献部会(坂口・矢部・内野)

1) 地学教育委員会(坂口)

特になし

2) 地質技術者教育委員会(坂口)

- ・「地質系業界説明会」:参加企業申込状況は、対面35社、Web 35社で盛況。キャリアビジョン誌の発行と共に事業を進める。大学宛に企画への後援依頼を行った(7/27現在10大学)。学生の学習意欲向上に貢献すると期待されるのでぜひ大学側の後援を頂きたい。

- ・地球・資源分野JABEE委員会から2022年度報告と2023年度計画報告があった。内容は担当委員会で確認済み。なお、2024年度委員推薦が12月末頃開始予定。地学系では9大学が認証されている。

3) 生涯教育委員会(矢部)

- ・News誌にて「博物館・ジオパークで地球を学ぼう」を継続中。来年は1月号からは東北支部内の機関から寄稿して頂けるよう調整を開始する。

4) 地震火山地質子どもサマースクール(星)

特になし

5) 地質の日(矢部)

特になし

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネージメント委員会(中澤)

特になし

2) 若手育成事業検討WG(内野)

・特になし

3) 表彰制度検討WG(中澤)

特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会(矢部)

特になし

- 2) 地学オリンピック支援委員会（坂口）
・地学オリンピック日本委員会より問題作成者の推薦依頼があり、会員1名を推薦した。

- 3) 支部長連絡会議（杉田）

特になし

- 4) 地質災害委員会（松田）

特になし

- 5) 名誉会員推薦委員会（星）

特になし

- 6) 各賞選考委員会（中澤）

特になし

- 7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会（辻森）

特になし

- 8) 連携事業委員会（中澤）

特になし

- 9) 法務委員会（中澤）

特になし

- 10) 若手活動運営委員会

- ・若手巡検・研究集会 in 北海道 洞爺湖有珠山ジオパーク地域（7/8-9開催）は、参加申込者24名で無事催行した。

9. 研究委員会

- 1) 南極地質研究委員会（委員長 大和田正明）

特になし

- 2) 法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）

特になし

10. その他

- 1) 巡検案内書ワーキンググループ（杉田）

- ・メンバー（亀井淳志、亀尾浩司、里口保文、山崎 誠、小松俊文、高嶋礼詩、小宮剛、松田達生、杉田律子）

- ・メール審議で検討を始めた。先ず投稿締切の問題について検討を開始した。2025年熊本大会からの実施を想定している。まず、投稿締切の前倒について検討し、その結果を次年度の大会での実施につなげていきたい。

審議事項

1. 選挙管理委員会メンバーの選出（→9月理事会会議題へ）

9月中旬告示予定。山口直文氏（茨城大学）、中里裕臣氏（産総研）、金澤直人氏（中央開発）、川上源太郎氏（道総研）、河村知徳氏（日本CCS）を推挙する。原則Zoom会議で開催予定。今回の選挙より電子投票となるので集計の負担が軽減される見込み。

2. 地質JIS原案作成委員会委員の推薦

会長経験者であることを踏まえ、磯崎前会長を推薦することとした。なお、2024年が改訂年となため、2023年度から準備作業に入る。内野理事は産総研職員として出席予定。

3. 学術大会保育料補助

基本保育料の60%（上限8,500円/日）を補助する。参考情報として、大会HPに2箇所お保育施設の情報を提示した。それ以外の保育施設利用においても同様に補助する。

4. 地質学雑誌のフォントサイズおよび論文末尾のコンプライアンス文章掲載に関する再検討ほか（継続審議）

引用文献箇所は、フォントサイズ6ptで差支えないことを確認し、6ptとすることを承認した。論文末尾のコンプライアンス文章掲載箇所については個々の論文末尾でなく学会HPに掲載することですとする。箱書きの和文要旨も論文末尾でなく、「はじめに」の前に掲載する。以上の変更タイミングは、まとめて変更とし和文要旨のレイアウトを決めてから変更する。

5. 地質雑過去論文のJ-STAGE上のデータのOCR作業（継続審議）

画像データとして公開されている過去論文について、WEB検索対象とすべくOCRをかけテキスト情報を付加することが望ましいが、OCR作業は、校正付き900～1450円/1頁程度の費用がかかる。地雑は和英混合のため校正は必須。過去100巻以上の論文全てに対応するとかなり高額費用なる。そのため、英文abstractのみのデータ化も検討する。継続審議。

6. ニュース誌のオンライン化・総本選択制について（亀高）

ニュース誌の「選択制にして、希望者にのみ冊子を配布とする」案について、紙媒体が不要な会員も一定数は有ると考えられるため、今後具体的に検討を進める。冊子掲載内容は、現在すでに学会HPでPDFが公開されている。冊子希望の選択は、HP会員ページ上で選択できるよう対応が可能。郵送料削減に効果が期待できる。一方、多数のサイレントマジョリティに対して、会員サービスの低下とならないよう、発行回数を減らしても冊子配布を継続すべきとの意見もあったが、まずは基本「配布」とし、希望者のみWEB上で「送付不要」の選択をしてもらうようにする。学会運営規則第5章第12条2項に「（雑誌およびニュース誌は）希望する会員に配布」とあり、選択制にすることは問題ないと考えられる。

監事コメント

（山本監事）ニュース誌のオンライン化、送本の選択制は、会員からの不満・苦情のないように工夫した上で進め、学会運営の向上に尽力されたい。

（岩部監事）学会規約の整備は、時間がかかっても学会運営の根幹に関わることであり、規則同士、上位法体系との整合性を図り、齟齬がないようにされたい。ニュース誌の送本選択制は、他学会でも導入されており、SDGsの観点からも好ましい。鋭意進めて効率化を図って頂きたい。

以上

2023年7月8日

一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）岡田 誠
署名人 執行理事 中澤 努

入会のご案内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください。
入会には正会員1名の紹介が必要です。近くに紹介者となるべき会員がない場合は旨お申し出ください。また、初年度の会費は申込書郵送時から時間の間隔をおかずに下記送金先へ速やかにご送金ください。会員としての正式登録は、入会承認後、初年度会費の入金を確認した上でを行い、News誌の送付(4月号から)を開始いたします。

申込書郵送先: 101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F 一般社団法人日本地質学会
会費送金先: 郵便振替口座 00140-8-28067 一般社団法人日本地質学会
ゆうちょ銀行 ○ー九(ゼロイチキョウ)店/当座 0028067 / 一般社団法人日本地質学会 シヤニホシツガツカイ
会費年額: 正会員(一般会員・シニア会員) 12,000円 ※1
正会員(学生会員) 5,000円/年、2年パック会費額: 8000円、3年パック会費額: 9000円) ※2
ジュニア会員 0円(年会費不要) ※3

※1: シニア会員は、入会年度の4月1日時点で65歳以上のかたを対象とします(4/2以降に65歳になる方は次年度からシニア会員となります)。
※2: 学生会員は、次の2点を守って手続して下さい。①学生証の写しを提出すること。②バック制会費を希望の場合は一括納入すること。
※3: ジュニア会員は、正会員の権利は有しません。学術大会での発表はジュニアセッションに限定します。

* 会員番号	* "学記記入欄" : Official use only			
	* 会員種別	☐ 正会員	☐ 一般	☐ シニア ☐ 学生
		☐ ジュニア会員		

一般社団法人日本地質学会入会申込書

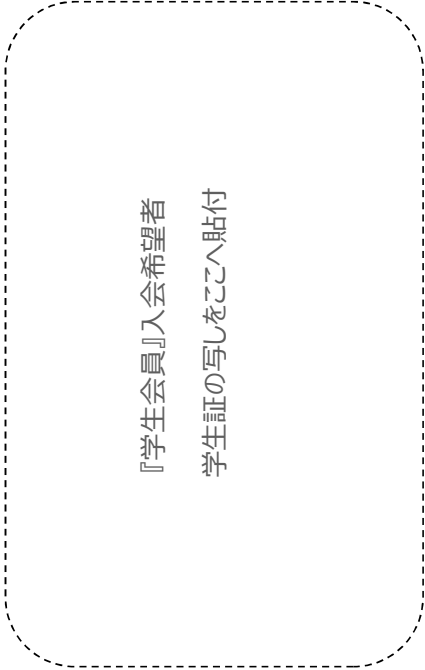
Application form for the Geological Society of Japan

本枠内のみにご記入ください

氏名(ふりがな)	Name in Japanese	ローマ字表記	family name	first name
____年____月____日	Year Mo Day	生	born on	Country:
性別: ☐ 男 Male ☐ 女 Female				
学歴 Academic career:				
____学校 High school ____年卒業 Year completed				
____大学 University ____学部 Faculty ____年____月卒業(見込み) Year completed				
修士 Master: ____大学 Univ. ____研究科 Fac. ____年____月修了(見込み) Year completed				
博士 Master: ____大学 Univ. ____研究科 Fac. ____年____月修了(見込み) Year completed				
※学生証の写し忘れずに添えて下さい。				
自宅住所 Home address: (郵便番号 Zip code ____ - ____)				

電話 Phone:	ファックス Fax:
所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address: (郵便番号 Zip code ____ - ____)	
電話 Phone:	ファックス Fax:
e-mail Address: ____@____	
※e-mail Addressは地質学会からのメルマガ配信用。その他連絡用に登録します。携帯電話各社のe-mail Addressを記入の場合は登録いたしません。ご注意ください。 ※所属先(代表)の問い合わせ専用 e-mail Address は記入しないでください。	
連絡先 Correspondence: ☐ 自宅 Home ☐ 所属機関 Office	

* 受付 (____年 ____月 ____日)	* 承認 (____年 ____月 ____日)
* 入金 (____年 ____月 ____日)	* 振替・現金・銀行・他
* 送本 (____巻)	* 号



会員情報について: 在会者に限定し、Web版の会員管理システムにて会員情報の検索・閲覧をすることができます。氏名・所属先は掲載必須項目です。下記の項目について掲載を拒否する項目には □ にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承諾いただいたものとします)。

☐ 最終学歴 ☐ 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「〇〇大学〇〇学部」, 「株式会社〇〇〇〇」までを必須項目として掲載)
☐ 所属先住所 ☐ 所属先電話・FAX番号 ☐ 自宅住所 ☐ 自宅電話・FAX番号 ☐ e-mail Address
紹介者名(正会員) _____ 印
Recommended by (name of member) _____ Signature

(学生のかた) 希望する会費額を選択して下さい。バック制会費選択者は、該当するバック制会費額を一括納入して下さい。 ☐ 5,000円(初年度のみ) / ☐ 2年パック: 8,000円(初年度・次年度) / ☐ 3年パック: 9,000円(初年度・次年度・次次年度) ☐ 学生会員として入会希望です。学生証の写しを入会申込書に添えて提出します。
--

専門部会の選択(任意)
現在、下記の14の専門部会が活動しています。専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします。所属希望の部会を3つまで選択することができます。(該当する項目に○印を付けて下さい)

- | | | | | | | | |
|---------|----------|---------|-----------|-----------|----------|-------|---------|
| 1. 地域地質 | 2. 層序 | 3. 堆積地質 | 4. 海洋地質 | 5. 構造地質 | 6. 岩石 | 7. 火山 | 8. 応用地質 |
| 9. 環境地質 | 10. 情報地質 | 11. 古生物 | 12. 第四紀地質 | 13. 環境変動史 | 14. 鉱物資源 | | |

興味専門分野の選択(任意) あなたの興味専門分野を教えてください。3つまで選択することができます。(該当する項目に○印を付けて下さい)

- | | | | | | | |
|-----------------|-----------|----------|----------|-----------|----------|----------|
| 1. 層位 | 2. 堆積・堆積岩 | 3. 古生物 | 4. 構造地質 | 5. 火山・火山岩 | 6. 深成岩 | 7. 変成岩 |
| 8. 鉱床地質(金属・非金属) | 9. 鉱床 | 10. 鉱物 | 11. 燃料地質 | 12. 地熱 | 13. 第四紀 | 14. 環境地質 |
| 15. 都市地質 | 16. 土木地質 | 17. 土質工学 | 18. 水文地質 | 19. 探査地質 | 20. 土木工学 | 21. 情報地質 |
| 22. 地震地質 | 23. 海洋地質 | 24. 地球物理 | 25. 地球化学 | 26. 地質年代学 | 27. 地理 | 28. 地学教育 |
| 29. 考古学 | 30. その他 | 40. 地球惑星 | | | | |

(注) ご提供いただいた個人情報は、日本地質学会プライバシーポリシーに基づき適切に取り扱います。

(金融機関用)

令和 年 月 日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書(収加)

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社	振替日 (払込日)	6日・23日(金融機関休業日の場合は翌営業日)
--------	--------------------	--------------	-------------------------

(フリガナ)		申込人名		申込人住所		〒	
						☎	

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

ゆうちょ銀行以外の銀行	金融機関コード				支店コード			預金種目 (どちらかに○印)	口座番号 (右詰めでご記入ください。)
								1. 普通 2. 当座	
	(フリガナ)								
	口座名義人							金融機関 お届け印	

法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。

お届け印(捺印)
ゆうちょ銀行を除く

金融機関へのお届け印ですか
ご注意!

ゆうちょ銀行	(フリガナ)						ゆうちょ銀行 お届け印
	口座名義人						
	法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。						

種目コード	契約種別コード	記号(6桁目がある場合は※欄にご記入下さい)	番号(右詰めでご記入ください。)
166	301	0※	

払込先口座番号	00110-5-58830	払込先 加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社
---------	---------------	-------------	--------------------

(収納企業使用欄)

収納企業名	一般社団法人 日本地質学会	料金等の 種類	会費等
契約者番号	委託者コード 18476000	顧客コード 000000	

一預金口座振替規定一 ※ゆうちょ銀行払いは除く。

- 銀行(金庫・組合)に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
- 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額(当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。)をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
- この契約を解約するときは、私から銀行(金庫・組合)に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行(金庫・組合)はこの契約が終了したものととして取扱ってさしつかえありません。
- この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行(金庫・組合)の責めによる場合を除き、銀行(金庫・組合)には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

(金融機関へお願い)
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

◎書類の流れ お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

金融機関使用欄	(不備返却事由)	
	1. 預金(貯金)取引なし 3. 印鑑相違 2. 記載事項等相違 店名、預金種目、口座番号、 通帳記号、通帳番号、口座名義 4. その他()	
	備考	
	検印 印鑑照合 受付印	

取 扱 店 日 附 出

不備返却先
SMBCファイナンスサービス(株)
決済ビジネス業務センター 口座振替依頼書課
〒105-8625 東京都港区新橋1-8-4 SMBC新橋ビル

裏面のりしろ①

84 円
切 手 付
貼

101-0032

一般社団法人日本地質学会
一丁目八―一五 井桁ビル内
東京都千代田区岩本町

裏面のりしろ③

氏 名
住 所

のりしろ③

のりしろ①

キ リ ト リ 線

オ リ 線

御 中

のりしろ②

キ リ ト リ 線

裏面のりしろ②

一般社団法人日本地質学会倫理綱領

2003 年 9 月 19 日 日本地質学会総会制定

2009 年 12 月 5 日 一般社団法人日本地質学会制定 *

日本地質学会の会員は、科学的真理を明らかにする事を目的として、誠実かつ真摯に地質学および関連科学の研究・教育および調査を行う。その成果を広く社会に公表することにより地質学および関連科学の進歩普及を図り、もって社会の発展と人類の福祉に貢献する。会員は、基本的人権を守り、良識かつ品位のある行動をとる。

1. 科学者としての倫理：会員は、専門知識の向上および地質学と関連科学の発展を目指して自己研磨を図る。研究と調査においては、法を遵守し、社会的良識に従って行動する。科学的事実に対しては常に謙虚、誠実でなくてはならない。研究成果と技術上の知見を広く社会に公表し、公表にあたっては先人と他者の業績を尊重する。

2. 知的交流の確保：会員は、国際交流や他分野との交流を進めることを通して学術の向上を図るとともに、研究成果と技術上の知見が科学的に広く吟味・検証されるよう努める。

3. 人類と社会への責務：会員は、その専門知識と技術を適切に活用し、研究と調査の成果を広く社会に提供することを通して社会の発展と人類の福祉に貢献する。

日本地質学会

4. 地球環境への責務：会員は、地球システムの諸現象についての専門家として、地質災害の予知と防止、地球環境の将来予測、資源の適正な活用に関する情報を提供するとともに、専門知識を活かして環境の保全と改善に努める。自らの研究と調査の実施にあたっては環境への影響を最小限にするよう配慮する。

5. 次世代への責務：会員は、地質学と関連科学における学術と技術の継承と発展、次世代を支える人材の育成を図る。研究や調査の成果物、重要な露頭や標本などの科学的遺産の保全に努める。

*2009 年 12 月 5 日法人理事会において、一般社団法人日本地質学会倫理綱領として全文引継を決定。

